

(目 的)

第 1 条 この規程は、栃木県防災会議条例（昭和 37 年栃木県条例第 43 号）第 6 条の規定の基づき、栃木県防災会議（以下「防災会議」という。）の議事その他の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会 議)

第 2 条 防災会議は、会長が招集し、議長となる。

2 委員は、防災会議の必要があると認めるときは、会長に会議の招集を求めることができる。

3 防災会議の招集は、開会の日前 10 日までに委員に通知しなければならない。

ただし、急を要する場合はこの限りではない。

(代理出席)

第 3 条 委員は、やむを得ない事情により会議に出席できないときは、代理者を出席させることができる。

2 前項の代理者は、委員とみなす。

(会長の職務代理)

第 4 条 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、条例第 2 条第 1 項の委員のうち会長が指名した者が、その職務を代理する。

(会長の専決処分)

第 5 条 防災会議の権限に属する事項で、その議決により特に指定したものは、会長において処理することができる。

2 前項の規定により処理したときは、会長は、次の防災会議にこれを報告しなければならない。

(部 会)

第 6 条 部会は、部会長が招集する。

2 部会長は、部会を招集するときは、予め会長に通知しなければならない。

3 部会長は、部会の経過及び結果を防災会議に報告しなければならない。

(専門委員)

第 7 条 専門委員は、防災会議に出席して意見を述べることができる。

(幹事会等)

第 8 条 幹事は、幹事会を構成する。

2 幹事会は、必要に応じて会長が招集し、会長があらかじめ指名する者が会議を主宰する。

(異動等の報告)

第 9 条 委員又は幹事に異動があった場合後任者は直ちに役職、指名及び異動年月日を会長に報告しなければならない。

附 則

この規程は、昭和 49 年 8 月 20 日から施行する。

この規程は、令和 2（2020）年 4 月 1 日から施行する。

○会 長

番号	役職名	根拠条文
1	栃木県知事	法第15条第2項

○委 員

番号	役職名	根拠条文
1	関東管区警察局長	同条第5項第1号
2	関東総合通信局長	〃
3	関東財務局宇都宮財務事務所長	〃
4	関東信越厚生局長	〃
5	栃木労働局長	〃
6	関東農政局栃木県拠点地方参事官	〃
7	関東森林管理局長	〃
8	関東経済産業局総務企画部長	〃
9	関東東北産業保安監督部長	〃
10	関東地方整備局長	〃
11	関東運輸局栃木運輸支局長	〃
12	東京航空局東京国際空港長	〃
13	宇都宮地方気象台長	〃
14	国土地理院関東地方測量部長	〃
15	関東地方環境事務所長	〃
16	北関東防衛局長	〃
17	関東管区行政評価局地域総括評価官（在栃木行政監視行政相談センター）	〃
18	陸上自衛隊東部方面特科連隊第2大隊長兼宇都宮駐屯地司令	同条第5項第2号
19	栃木県教育委員会教育長	同条第5項第3号
20	栃木県警察本部長	同条第5項第4号
21	栃木県副知事	同条第5項第5号
22	栃木県市長会会長（宇都宮市長）	同条第5項第6号
23	栃木県町村会会長（茂木町長）	〃
24	栃木県消防長会会長（宇都宮市消防長）	〃
25	（公財）栃木県消防協会会長	〃
26	東日本旅客鉄道（株）大宮支社宇都宮統括センター副所長（那須塩原駅長）	同条第5項第7号
27	NTT東日本（株）栃木支店 災害対策室 室長	〃
28	日本赤十字社栃木県支部 事業推進課長	〃
29	日本放送協会宇都宮放送局長	〃
30	東日本高速道路（株）関東支社長	〃
31	日本通運（株）宇都宮支店長	〃
32	東京電力パワーグリッド（株）栃木総支社 業務総括グループマネージャー	〃
33	東京ガス（株）栃木支社共創推進部 部長	〃
34	日本郵便（株）宇都宮東郵便局長	〃
35	（株）NTTドコモ栃木支店長	〃
36	東武鉄道（株）執行役員 鉄道事業本部副本部長兼安全推進部長	〃
37	関東自動車（株）取締役常務執行役員	〃
38	（一社）栃木県トラック協会会長	〃
39	（一社）栃木県LPガス協会専務理事	〃
40	（株）栃木放送報道制作局長	〃
41	（株）とちぎテレビ報道本部付選任部長 行政報道担当	〃
42	（株）エフエム栃木放送部部長	〃
43	栃木県土地改良事業団体連合会専務理事	〃
44	（一社）栃木県医師会副会長	〃
45	（公社）栃木県看護協会常任理事	〃
46	栃木県社会福祉協議会総務部長兼総務企画課長	〃
47	栃木県石油商業組合専務理事	〃
48	（一社）栃木県建設業協会常務理事	〃
49	（公社）栃木県栄養士会副会長	〃
50	（一社）栃木県薬剤師会副会長	〃
51	栃木県女性防火クラブ連合会会長	同条第5項第8号
52	国際医療福祉大学保健医療学部看護学科教授	〃
53	宇都宮大学共同教育学部教授	〃
54	宇都宮大学留学生・国際交流センター 准教授	〃
55	宇都宮大学地域デザイン科学部准教授	〃
56	（一社）栃木県老人福祉施設協議会 理事	〃
57	（一社）栃木県訪問看護ステーション協議会 理事	〃
58	栃木県防災士会理事	〃
59	小山市消防団部長	〃

栃木県防災会議幹事名簿 【計34名】

R7. 10. 1

番号	機関名	幹事職名
1	関東管区警察局	広域調整部災害対策官
2	関東総合通信局	防災対策推進室長
3	関東財務局	宇都宮財務事務所総務課長
4	関東農政局	栃木県拠点総括農政推進官（総括・管理・分析担当）
5	関東森林管理局	日光森林管理署長
6	関東経済産業局	総務課危機管理・災害対策室長
7	関東東北産業保安監督部	管理課長
8	関東地方整備局	宇都宮国道事務所長
9	関東運輸局	栃木運輸支局首席運輸企画専門官
10	東京航空局東京空港事務所	空港安全部長
11	宇都宮地方気象台	防災管理官
12	陸上自衛隊東部方面特科連隊	第2大隊
13	栃木県	総合政策部次長兼総合政策課長
14	栃木県	総合政策部広報課長
15	栃木県	経営管理部次長兼財政課長
16	栃木県	生活文化スポーツ部次長兼県民協働推進課長
17	栃木県	保健福祉部次長兼保健福祉課長
18	栃木県	環境森林部次長兼環境森林政策課長
19	栃木県	産業労働観光部次長兼産業政策課長
20	栃木県	農政部次長兼農政課長
21	栃木県	県土整備部次長兼監理課長
22	栃木県	県土整備部河川課長
23	栃木県	危機管理防災局参事兼危機管理課長
24	栃木県	危機管理防災局消防防災課長
25	栃木県	教育委員会事務局教育政策課長
26	栃木県	警察本部警備部警備第二課長兼航空隊長
27	宇都宮市消防局	警防課長
28	東日本旅客鉄道(株)大宮支社	宇都宮総括センター副長
29	NTT東日本(株)栃木支店	栃木災害対策室長
30	日本赤十字社栃木県支部	事業推進課 救護係長
31	東京電力パワーグリッド(株)栃木総支社	業務総括グループマネージャー
32	東京ガス(株)栃木支社	共創推進部 部長
33	宇都宮東郵便局	総務部長
34	(一社)栃木県LPガス協会	課長

1-1-5 栃木県災害対策・危機管理委員会設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、栃木県災害対策・危機管理委員会（以下「委員会」という。）の設置に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 災害 災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第2条第1号に規定する災害をいう。
- (2) 危機 県民の生命、身体、財産に何らかの被害若しくは損失を生じるおそれのある不測の事件、事故又は円滑な県政経営に支障を生じるおそれのある事件、事故をいう。ただし、次に該当する事項を除くものとする。

ア 災害

イ 武力攻撃事態等及び存立危機事態における我が国の平和と独立並びに国及び国民の安全の確保に関する法律（平成15年法律第79号）第2条第2号に規定する武力攻撃又は同条第3号に規定する武力攻撃予測事態及び同法第21条第1項に規定する緊急対処事態（武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（平成16年法律第112号）に基づく事態認定及び対策本部設置の指定があった場合に限る）

(設置)

第3条 災害対策及び危機管理事務の総合的な調整を図るため、委員会を設置する。

(所掌事務)

第4条 委員会は、次に掲げる事務を行う。

- (1) 災害対策又は危機管理に関する事務の総合調整に関すること。
- (2) 災害又は危機に関する情報の収集、交換及び整理に関すること。
- (3) その他必要とする事項

(組織)

第5条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって構成する。

2 委員長には危機管理防災局長を、副委員長には危機管理課長及び消防防災課長を、委員には栃木県災害対策本部の組織及び運営に関する要綱（昭和56年7月13日実施、以下「災対本部設置要綱」という。）第7条第2項に規定する事務局員をもって充てる。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員長は、委員会を招集し、これを主宰する。

- 2 委員長は、委員会で協議し、又は決定した重要な事項について、知事に報告するものとする。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 4 委員長が必要と認めるときは、委員以外の職員に対し、委員会への出席を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、危機管理課において処理する。

(事務担当者会議)

第8条 委員会の下に災害対策・危機管理事務担当者会議（以下「事務担当者会議」という。）を置く。

2 事務担当者会議は、危機管理課長及び災害対策・危機管理事務担当者（以下「事務担当者」という。）

をもって構成し、第4条に規定する委員会の所掌事務に関する連絡調整及び情報交換を行う。

- 3 事務担当者は、災対本部設置要綱第7条第2項に規定する本部連絡員をもって充て、その属する部局等に係る災害対策又は危機管理に関する事務の連絡調整及び情報収集に従事する。
- 4 危機管理課長は、事務担当者会議を招集し、これを主宰する。
- 5 危機管理課長が必要と認めるときは、事務担当者以外の職員に対し、事務担当者会議への出席を求めることができる。
- 6 事務担当者会議の庶務は、危機管理課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成16年2月10日から実施する。
- 2 栃木県災害対策委員会及び栃木県災害警戒本部の設置・運営に関する要綱(平成2年11月13日実施)は、廃止する。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成17年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成30年3月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、令和5(2023)年4月1日から実施する。

はじめに

1 改定の趣旨

- ・ 栃木県国土強靱化地域計画とは、大規模自然災害等が発生しても、被害を最小限に抑え、迅速に復旧・復興できる、強さとしなやかさを備えた安全・安心なとちぎづくりを推進するための指針
- ・ 近年発生した災害から得られた教訓や県の取組の進捗状況を踏まえるとともに、国の基本計画の見直し内容との調和を図るため、令和8年度からの概ね5年間の取組を位置付けた計画に改定

2 本計画の位置付け

国土強靱化基本法第13条の規定に基づき、本県における国土強靱化に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画として策定

- (1) 国の国土強靱化基本計画や各市町の国土強靱化地域計画と調和
- (2) 県の「新とちぎ未来創造プラン」との整合、国土強靱化に関する他計画等の指針
- (3) 栃木県地域防災計画と連携

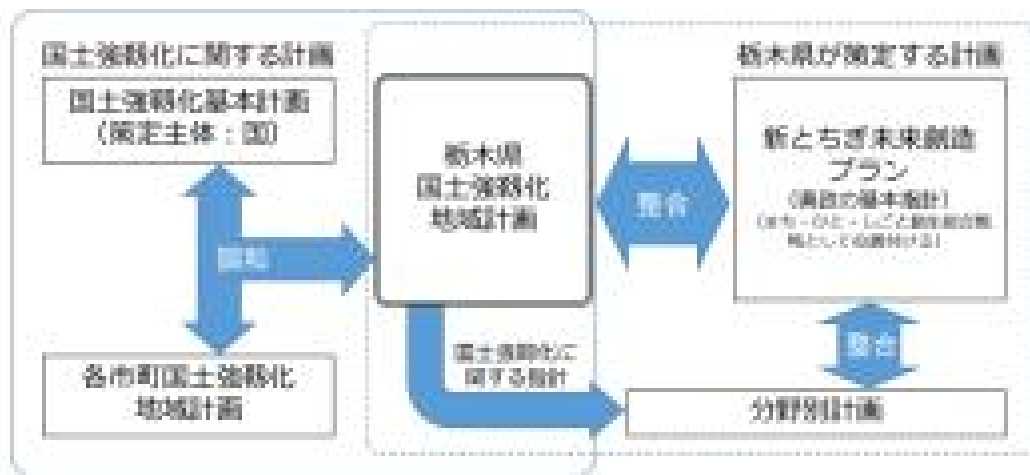


図1 栃木県国土強靱化地域計画と関連計画の関係性



図2 国土強靱化地域計画と地域防災計画の関係性

第1章 強靱化の基本的な考え方

1 基本理念

- (1) 安全・安心な基盤が整う強くてしなやかなとちぎづくり
- (2) とちぎの豊かさの維持・向上
- (3) 災害発生時の防災拠点としての機能の充実

2 基本目標

- (1) 県民の生命の保護が最大限図られていること
- (2) 県及び地域社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること
- (3) 県民の財産及び公共施設に係る被害の最小化
- (4) 迅速な復旧・復興

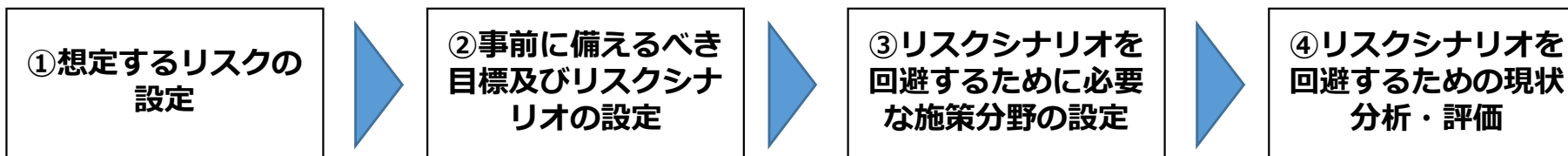
3 基本方針

- (1) 基本姿勢
 - ・ 人口減少、社会資本の老朽化、気候変動等を踏まえた施策の推進
 - ・ すべての住民に配慮した対策
 - ・ 自助・共助・公助を基本とし、市町、民間事業者等との連携・役割分担
 - ・ 強靱化を推進する担い手の確保と環境整備による地域づくりの推進
- (2) 適切な施策の組合せ
 - ・ ハード対策とソフト対策を適切に組み合わせ効果的に施策を推進
 - ・ 相互関連性も踏まえ、ライフラインの一体的で安定した機能に留意
 - ・ 平常時における県民生活の豊かさの向上等にも留意
- (3) 効果的な施策の推進
 - ・ 選択と集中による施策の重点化
 - ・ 既存の社会資本の有効活用、施設の効率的・効果的な維持管理
 - ・ 民間投資・技術活用の促進
 - ・ 施策を効率的に進めるためのデジタル等新技術の活用推進

第2章 脆弱性評価

1 脆弱性評価の考え方

- ・ 国の基本計画における手法を参考に本県の脆弱性評価を実施



2 想定するリスク

- ・ 大規模自然災害全般（地震、風水害等）を想定 ※複合災害の可能性にも留意

3 事前に備えるべき目標及びリスクシナリオ（起きてはならない最悪の事態）

○事前に備えるべき目標：6目標

- | | |
|---|--|
| (1) あらゆる自然災害に対し、直接死を最大限防ぐこと | (4) 経済活動（サプライチェーンを含む）を機能不全に陥らせないこと |
| (2) 救助・救急、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保することにより、関連死を最大限防ぐこと | (5) 情報通信サービス、電力等ライフライン、燃料供給関連施設等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させること |
| (3) 必要不可欠な行政機能は確保すること | (6) 社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備すること |

○リスクシナリオ※：27本 ※リスクシナリオの内容はP7～8に記載

4 リスクシナリオを回避するために必要な施策分野の設定

- 個別施策分野：7分野
- 横断的分野：5分野

5 リスクシナリオを回避するための現状分析・評価

- ・ リスクシナリオごとの脆弱性評価結果について整理

6 評価結果のポイント

- ・ 第1章の「3基本方針」に反映

第3章 強靱化の推進方針

1 施策分野ごとの推進方針

- ・ 脆弱性評価の結果に基づき、リスクシナリオを回避するために今後必要な施策について、施策分野（個別施策分野、横断的分野）ごとに推進方針を定めるとともに重要業績指標を設定
- ・ 各分野の施策の推進に当たっては、適切な役割分担の下、庁内関係部局が連携

2 個別施策分野の推進方針

(1) 行政機能／警察・消防等

①行政機能

- ・ 県及び市町の防災拠点機能の確保・強化
- ・ 物資、資機材等の備蓄、調達体制の整備
- ・ 避難所の環境整備、運営等支援 など

②警察・消防等

- ・ 消防広域応援、災害警備体制の整備 など

(2) 住宅・都市・土地利用

- ・ 住宅、建築物等の耐震化
- ・ 上下水道施設の耐震化 など

(3) 保健・医療福祉

- ・ 保健医療福祉調整本部の体制強化
- ・ 医療機関等の耐震化 など

(4) 産業・エネルギー

- ・ ライフラインの災害対応力強化
- ・ エネルギーの安定供給 など



避難所の環境整備に必要な資機材を活用した避難所開設・運営訓練



DMAT（災害派遣医療チーム）等による災害対応訓練

第3章 強靱化の推進方針

2 個別施策分野の推進方針

(5) 情報通信・交通・物流

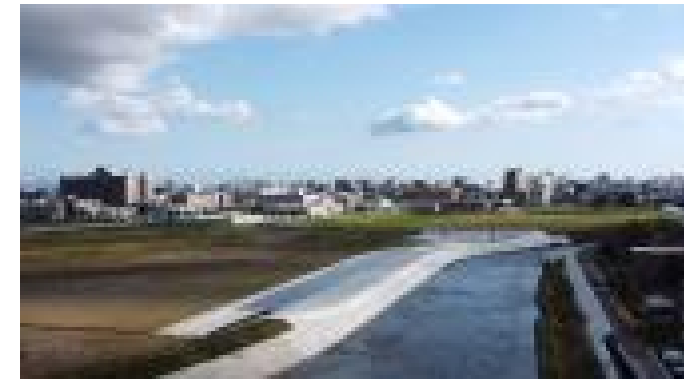
- ・住民等への災害情報の伝達
- ・緊急車両等の通行ルート確保
- ・孤立可能性集落における対策の推進 など

(6) 農林水産

- ・生産基盤等の災害対応力の強化
- ・森林の適切な整備・保全 など

(7) 国土保全・環境

- ・河川改修等の治水対策
- ・災害廃棄物の処理体制の整備 など



河川の整備による治水機能の向上



砂防堰堤の整備による土砂災害の防止



地区防災計画の策定作業

3 横断的分野の推進方針

(1) リスクコミュニケーション

- ・防災意識の向上、防災教育の実施
- ・地域防災力の向上 など

(2) 人材育成

- ・避難行動要支援者対策
- ・被災者生活再建支援業務に関する人材の育成 など

第3章 強靱化の推進方針

3 横断的分野の推進方針

(3) 官民連携

- ・ 災害ボランティアの活動体制強化
- ・ 被災者一人ひとりに対するきめ細やかな支援体制の構築検討 など

(4) 老朽化対策

- ・ 社会資本等の老朽化対策 など

(5) デジタル活用

- ・ デジタルを活用した啓発等の推進
- ・ 災害時の情報共有体制の強化 など



次期防災情報システムによる災害対応イメージ

第4章 計画の推進及び進捗管理

1 優先的に取り組む施策

- ・ 「人命の保護」最優先の観点から、リスクシナリオ単位で施策を重点化
- ・ 27のリスクシナリオのうち「建物倒壊による死傷者の発生」など11のリスクシナリオを回避する施策を優先※

※リスクシナリオの内容と11の優先施策はP7～8に記載

2 各種施策の推進

- ・ 推進方針に基づく各種施策については各分野別計画と連携しながら計画的に推進
- ・ PDCAサイクルにより進捗管理

リスクシナリオ(起きてはならない最悪の事態)一覧

No.	事前に備えるべき目標	No.	優先 施策	リスクシナリオ(起きてはならない最悪の事態)
1	あらゆる自然災害に対し、直接死を最大限防ぐこと	1-1	◎	大規模地震に伴う、住宅・建物・不特定多数が集まる施設等の複合的・大規模倒壊、密集市街地や不特定多数が集まる施設における火災による死傷者の発生
		1-2	◎	河川の大規模氾濫等に伴う広域かつ長期的な市街地等の浸水やため池・防災インフラの損壊・機能不全による多数の死傷者の発生
		1-3	◎	大規模な火山噴火・土砂災害等による多数の死傷者の発生
		1-4	◎	暴風雨や豪雪等に伴う多数の死傷者の発生
		1-5	◎	情報伝達の不備等による避難行動の遅れ等で多数の死傷者の発生
2	救助・救急、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保することにより、関連死を最大限防ぐこと	2-1	◎	警察、消防等の被災等による救助・救急活動等の絶対的不足
		2-2	◎	医療施設及び関係者の絶対的不足・被災、支援ルートの途絶、エネルギー供給の途絶による医療機能の麻痺
		2-3	◎	劣悪な避難生活環境、不十分な健康管理がもたらす、多数の被災者の健康・心理状態の悪化による死者の発生
		2-4	◎	被災地での食料・飲料水・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギーの供給の長期停止
		2-5		想定を超える大量の帰宅困難者の発生による混乱
		2-6		多数かつ長期にわたる孤立地域等の同時発生
		2-7	◎	大規模な自然災害と感染症との同時発生による、災害対応機能の大幅な低下
3	必要不可欠な行政機能は確保すること	3-1	◎	県、市町の職員・施設等の被災による大幅な機能低下

リスクシナリオ(起きてはならない最悪の事態)一覧

No.	事前に備えるべき目標	No.	優先 施策	リスクシナリオ (起きてはならない最悪の事態)
4	経済活動（サプライチェーンを含む）を機能不全に陥らせないこと	4-1		サプライチェーンの寸断等による企業の経済活動の停滞
		4-2		有害物質の大規模拡散・流出による荒廃
		4-3		基幹的陸上交通ネットワークの機能停止による物流・人流への甚大な影響
		4-4		食料等の安定供給の停滞に伴う、国民生活・社会経済活動への甚大な影響
		4-5		農地・森林や生態系等の被害による荒廃・多面的機能の低下
5	情報通信サービス、電力等ライフライン、燃料供給関連施設等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させること	5-1		防災・災害対応に必要な通信インフラが機能停止し、災害情報等の伝達不能
		5-2		電力供給ネットワーク（発電所、送配電設備）や都市ガス供給、石油・LP ガスサプライチェーン等の長期間にわたる機能の停止
		5-3		上下水道施設の長期間にわたる機能停止
6	社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備すること	6-1		自然災害後の地域のより良い復興に向けた事前復興ビジョンや地域合意の欠如等により、復興が大幅に遅れ地域が衰退する事態
		6-2		災害対応・復旧復興を支える人材等（専門家、コーディネーター、ボランティア、NPO、企業、労働者、地域に精通した技術者等）の不足等により復興できなくなる事態
		6-3		大量に発生する災害廃棄物の処理の停滞により、復旧・復興が大幅に遅れる事態
		6-4		事業用地の確保、仮設住宅・仮店舗・仮事業所等の整備が進まず復興が大幅に遅れる事態
		6-5		貴重な文化財や環境的資産の喪失、地域コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の衰退・損失
		6-6		風評被害や信用不安、生産力の回復遅れ、大量失業・倒産等による経済等への甚大な影響

1 指定行政機関の防災担当課

機関名	防災担当課	所在地	電話番号
内閣官房	内閣官房副長官補 (安全保障・危機管理担当) 付	〒100-8968 東京都千代田区永田町1-6-1	03-5253-2111
内閣府	大臣官房総務課	〒100-8914 " " 永田町1-6-1	03-3581-3013
	政策統括官付参事官(防災総括担当)	〒100-8969 " " 霞が関1-2-2	03-3501-5408
国家公安委員会			
警察庁	警備局警備運用部警備第二課	〒100-8974 " " 霞が関2-1-2	03-3581-0141
金融庁	総務企画局総務課	〒100-8967 " " 霞が関3-2-1	03-3506-6000
総務省	大臣官房総務課	〒100-8926 " " 霞が関2-1-2	03-5253-5085
消防庁	防災課	〒100-8927 " " 霞が関2-1-2	03-5253-7525
	応急対策室	" " " "	03-5253-7527
法務省	大臣官房秘書課広報室	〒100-8977 " " 霞が関1-1-1	03-3580-4111
外務省	大臣官房総務課	〒100-8919 " " 霞が関2-2-1	03-3580-3311
財務省	大臣官房審議官室	〒100-8940 " " 霞が関3-1-1	03-3581-4111
文部科学省	大臣官房文教施設企画部施設企画課	〒100-8959 " " 霞が関3-2-2	03-5253-4111
文化庁	文化財部伝統文化課	〒100-8959 " " 霞が関3-2-2	03-5253-4111
厚生労働省	大臣官房総務課	〒100-8916 " " 霞が関1-2-2	03-5253-1111
	社会・援護局総務課	" " " "	03-3595-2614
	災害救助・救援対策室	" " " "	
農林水産省	経営局経営政策課	〒100-8950 " " 霞が関1-2-1	03-3502-6441
経済産業省	大臣官房総務課	〒100-8901 " " 霞が関1-3-1	03-3501-1609
資源エネルギー庁	長官官房総合政策課	〒100-8931 " " 霞が関1-3-1	03-3501-2669
原子力規制委員会	原子力規制庁	〒106-8450 港区六本木1-9-9	03-5114-2121
	原子力災害対策・核物質防護課		
中小企業庁	経営安定対策室	〒100-8912 " " 霞が関1-3-1	03-3501-0459
国土交通省	水管理・国土保全局防災課	〒100-8918 " " 霞が関2-1-3	03-5253-8461
国土地理院	企画部	〒305-0811 茨城県つくば市北郷1	029-864-4512
気象庁	総務部企画課	〒105-8431 東京都港区虎ノ門3-6-9	03-3434-9074
海上保安庁	警備救難部環境防災課	〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3	03-3591-6361
環境省	大臣官房総務課	〒100-8975 " " 霞が関1-2-2	03-3580-1374
防衛省	運用企画局事態対処課	〒162-8801 " 新宿区市谷本村町5-1	03-5366-3111

2 自衛隊関係上部機関

機関名	防災担当課	所在地	電話番号
東部方面総監部	防衛部防衛課	〒178-8501 東京都練馬区大泉学園町	048-460-1711
第12旅団司令部	第三部防衛班	〒370-3594 群馬県北群馬郡榛東村大字新井1017-2	0279-54-2011

3 県庁

機関名	電話番号	備考
知事	028-623-2000	
副知事	028-623-2001	
副知事	028-623-2002	
総合政策部長	028-623-2300	
経営管理部長	028-623-2100	
生活文化スポーツ部長	028-623-2200	
保健福祉部長	028-623-3100	
環境森林部長	028-623-3300	
産業労働観光部長	028-623-3200	
農政部長	028-623-2400	
県土整備部長	028-623-2550	
危機管理防災局長	028-623-2895	
会計局長	028-623-3001	

機関名	電話番号	備考
総合政策部次長兼総合政策課長	028-623-2201	028-623-2216 (FAX)
経営管理部次長兼財政課長	028-623-2013	028-623-2030 (FAX)
経営管理部次長兼人事課長	028-623-2031	028-623-2040 (FAX)
管財課長	028-623-2072	028-623-2088 (FAX)
広報課長	028-623-2156	028-623-2160 (FAX)
生活文化スポーツ部次長兼県民協働推進課長	028-623-3045	028-623-2121 (FAX)
保健福祉部次長兼保健福祉課長	028-623-3101	028-623-3131 (FAX)
環境森林部次長兼環境森林政策課長	028-623-3255	028-623-3259 (FAX)
産業労働観光部次長兼産業政策課長	028-623-3160	028-623-3167 (FAX)
農政部次長兼農政課長	028-623-2270	028-623-2340 (FAX)
県土整備部次長兼監理課長	028-623-2380	028-623-2392 (FAX)
県土整備部参事兼技術管理課長	028-623-2401	028-623-2422 (FAX)
道路保全課長	028-623-2423	028-623-2431 (FAX)
河川課長	028-623-2435	028-623-2441 (FAX)
砂防水資源課長	028-623-2451	028-623-2456 (FAX)
危機管理防災局参事兼危機管理課長	028-623-2694	028-623-2146 (FAX)
会計局参事兼会計管理課長	028-623-3002	028-623-3016 (FAX)
企業局長	028-623-3821	
企業局次長兼経営企画課長	028-623-3839	028-623-3826 (FAX)
教育委員会教育長	028-623-3400	
教育委員会事務局教育政策課長	028-623-3350	028-623-3356 (FAX)
警察本部長	028-621-0110	
警察本部地域課長	028-621-0110	
警察本部交通規制課長	028-621-0110	
警察本部警備第二課長	028-621-0110	

4 県税事務所等（庁舎管理者）

機関名	所在地	電話番号
宇都宮県税事務所	〒321-0974 宇都宮市竹林町1030-2	028-626-3002
鹿沼県税事務所	〒322-0068 鹿沼市今宮町1664-1	0289-62-6203
真岡県税事務所	〒321-4398 真岡市荒町116-1	0285-83-3798
栃木県税事務所	〒328-8504 栃木市神田町6-6	0282-23-3412
矢板県税事務所	〒329-2163 矢板市鹿島町20-22	0287-43-2376
大田原県税事務所	〒324-8551 大田原市本町2-2828-4	0287-23-4173
安足県税事務所	〒327-8503 佐野市堀米町607	0283-23-1444

5 土木事務所

機関名	所在地	電話番号
宇都宮土木事務所	〒321-0974 宇都宮市竹林町1030-2	028-626-3123
鹿沼土木事務所	〒322-0068 鹿沼市今宮町1664-1	0289-65-3211
日光土木事務所	〒321-1414 日光市萩垣面2390-7	0288-53-1211
真岡土木事務所	〒321-4305 真岡市荒町1171-4	0285-83-8301
栃木土木事務所	〒328-8504 栃木市神田町6-6	0282-23-3433
矢板土木事務所	〒329-2163 矢板市鹿島町20-11	0287-44-2185
大田原土木事務所	〒324-8765 大田原市本町2-2828-4	0287-23-6611
烏山土木事務所	〒321-0621 那須烏山市中央1-6-92	0287-83-1321
安足土木事務所	〒326-8555 足利市伊勢町4-19	0284-41-2331

6 市町

市町名	所在地	電話番号
宇都宮市	〒320-8540 宇都宮市旭1-1-5	028-632-2222
足利市	〒326-8601 足利市本城3-2145	0284-20-2222
栃木市	〒328-8686 栃木市万町9-25	0282-22-3535
佐野市	〒327-8501 佐野市高砂町1	0283-24-5111
鹿沼市	〒322-8601 鹿沼市今宮町1688-1	0289-64-2111
日光市	〒321-1292 日光市今市本町1	0288-22-1111
小山市	〒323-8686 小山市中央町1-1-1	0285-23-1111
真岡市	〒321-4395 真岡市荒町5191	0285-82-1111
大田原市	〒324-8641 大田原市本町1-4-1	0287-23-1111
矢板市	〒329-2192 矢板市本町5-4	0287-43-1111
那須塩原市	〒325-8501 那須塩原市共墾社108-2	0287-62-7117
さくら市	〒329-1392 さくら市氏家2771	028-681-1111
那須烏山市	〒321-0692 那須烏山市中央1-1-1	0287-83-1111
下野市	〒329-0492 下野市笹原26	0285-32-8888
上三川町	〒329-0696 上三川町しらすぎ1-1	0285-56-9111
益子町	〒321-4293 益子町益子2030	0285-72-2111
茂木町	〒321-3598 茂木町茂木155	0285-63-1111
市貝町	〒321-3493 市貝町市塙1280	0285-68-1111
芳賀町	〒321-3392 芳賀町祖母井1020	028-677-1111
壬生町	〒321-0292 壬生町通町12-22	0282-81-1806
野木町	〒329-0195 野木町丸林571	0280-57-4111
塩谷町	〒329-2292 塩谷町玉生741	0287-45-1111
高根沢町	〒329-1292 高根沢町石末2053	028-675-8100
那須町	〒329-3292 那須町寺子丙3-13	0287-72-6901
那珂川町	〒324-0692 那珂川町馬頭555	0287-92-1111

7 消防本部(局)

本部名	所在地	電話番号
宇都宮市	〒320-0014 宇都宮市大曾2-2-21	028-625-5500
足利市	〒326-0807 足利市大正町863	0284-41-3197
栃木市	〒328-0012 栃木市平柳町1-34-5	0282-22-0119
佐野市	〒327-0844 佐野市富岡町1391	0283-22-0119
鹿沼市	〒322-0045 鹿沼市上殿町520-1	0289-63-1141
日光市	〒321-2414 日光市豊田442-1	0288-21-0016
小山市	〒323-0827 小山市神鳥谷1700-2	0285-39-6660
石橋地区消防組合	〒329-0512 下野市下石橋246-1	0285-53-0509
芳賀地区広域行政事務組合	〒321-4305 真岡市荒町107-1	0285-82-3161
南那須地区広域行政事務組合	〒321-0632 那須烏山市神長880-1	0287-82-2009
塩谷広域行政組合	〒329-2145 矢板市富田94-1	0287-44-2513
那須地区消防組合	〒324-0062 大田原市中田原868-12	0287-28-5119

8 指定地方行政機関

機関名	担当課	所在地	電話番号
関東管区警察局	広域調整部広域調整第二課	〒330-9726 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1	048-600-6000
関東総合通信局	無線通信部陸上第二課	〒102-8795 東京都千代田区九段南1-2-1	03-6238-1774
関東財務局(宇都宮財務事務所)	総務課	〒320-8532 宇都宮市桜3-1-10	028-346-6300
関東信越厚生局	総務課	〒330-9713 埼玉県さいたま市中央区新都心1-1	048-740-0711
栃木労働局	総務部	〒320-0845 宇都宮市明保野町1-4	028-634-9111
関東農政局	生産経営流通部農産課	〒330-9722 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1	048-600-0600
関東森林管理局	企画調整課	〒371-8508 群馬県前橋市岩神町4-16-25	027-210-1150
関東経済産業局	総務企画部総務課	〒330-9715 埼玉県さいたま市中央区新都心1-1	048-600-0213
関東東北産業保安監督部	管理課	〒330-9715 埼玉県さいたま市中央区新都心1-1	048-600-0433
関東地方整備局	企画部防災課	〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1	048-600-1333
関東運輸局(栃木運輸支局)	企画輸送・監査部門	〒321-0169 宇都宮市八千代1-14-8	028-658-7011
東京航空局(東京空港事務所)	空港危機管理課	〒144-0041 東京都大田区羽田空港3-3-1	03-5757-2074
東京管区气象台(宇都宮地方气象台)		〒320-0845 宇都宮市明保野町1-4	028-635-7260
国土地理院(関東地方測量部)	防災課	〒102-0074 東京都千代田区九段南1-2-15	03-5213-2054
関東地方環境事務所		〒330-6018 さいたま市中央区新都心11-2	048-600-0516
地方防衛局(北関東防衛局)	地方協力基盤整備課	〒330-9721 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1	048-600-1844
栃木行政監視行政相談センター	行政監視行政相談課	〒320-0043 宇都宮市桜5-1-13	028-634-4680

9 指定公共機関

機関名	担当課	所在地	電話番号
日本郵便株式会社宇都宮東郵便局	業務企画室	〒321-8799 宇都宮市宿郷3-20-2	028-635-5444
東日本旅客鉄道株式会社大宮支社	宇都宮地区センター	〒321-0965 宇都宮市川向町1-48	028-621-0010
NTT東日本株式会社	災害対策室	〒321-0953 宇都宮市平出工業団地48-2	028-662-4256
株式会社NTTドコモ栃木支店	ネットワーク部エリア品質担当	〒320-0811 宇都宮市大通り2-4-3	028-651-6107
KDDI株式会社小山テクニカルセンター	総務課	〒323-0827 小山市神鳥谷1828	0285-28-5156
日本赤十字社栃木県支部事務局	事業推進課	〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6	028-622-4801
日本放送協会宇都宮放送局	編成企画課	〒320-8502 宇都宮市中央3-1-2	028-634-9155
日本通運株式会社宇都宮支店	総務課	〒321-0964 宇都宮市大通り4丁目1番18号大同生命ビル	028-621-0611
東京電力パワーグリッド株式会社栃木総支社	総務グループ	〒320-0026 宇都宮市馬場通り1-1-11	028-305-8025
東日本高速道路株式会社宇都宮管理事務所		〒322-0026 鹿沼市茂呂24-2	0289-76-3135
東京ガス株式会社栃木支社	総務グループ	〒321-0953 宇都宮市東宿郷4-2-16	028-634-1911
ソフトバンク株式会社		〒105-7303 東京都港区東新橋1-9-1	03-6889-2000
日本原子力発電株式会社	茨城総合事務所	〒310-0852 茨城県水戸市笠原町978-25	029-301-1511

10 指定地方公共機関

機関名	担当課	所在地	電話番号
東武鉄道株式会社		〒131-8522 東京都墨田区押上2-18-12	03-5962-0102
野岩鉄道株式会社		〒321-2521 日光市藤原326番地の3	0288-77-3300
真岡鐵道株式会社		〒321-4306 真岡市台町2474番地1	0285-84-2911
わたらせ渓谷鐵道株式会社		〒376-0101 群馬県みどり市大間々町大間々1603-1	0277-73-2110
宇都宮ライトレール株式会社		〒321-0903 宇都宮市下平出町3110番地	0570-011-177
関東自動車株式会社		〒321-0964 宇都宮市駅前通り3-2-5	028-634-8179
一般社団法人栃木県トラック協会		〒321-0169 宇都宮市八千代1-5-12	028-658-2515
一般社団法人栃木県バス協会		〒321-0169 宇都宮市八千代1-4-12	028-658-2622
一般社団法人栃木県タクシー協会		〒321-0169 宇都宮市八千代1-4-12	028-658-2411
足利ガス株式会社		〒326-0047 足利市錦町27-1	0284-41-7191
栃木ガス株式会社		〒328-0033 栃木市城内町2-2-23	0282-22-2939
佐野瓦斯株式会社		〒327-0845 佐野市久保町243	0283-22-6262
株式会社エナジー宇宙		〒323-0027 小山市花垣町2-11-22	0285-34-9045
鬼怒川ガス株式会社		〒321-2526 日光市鬼怒川温泉滝7	0288-77-1160
一般社団法人栃木県LPガス協会		〒321-0941 宇都宮市東今泉2-1-21	028-689-5200
株式会社栃木放送		〒320-8601 宇都宮市本町12-11	028-622-1111
株式会社エフエム栃木		〒320-8550 宇都宮市中央1-2-1	028-638-7640
株式会社とちぎテレビ		〒320-8531 宇都宮市昭和2-2-2	028-623-0031
一般社団法人栃木県医師会		〒320-0065 宇都宮市駒生町3337-1とちぎ健康の森内	028-622-2655
公益社団法人栃木県看護協会		〒320-0065 宇都宮市駒生町3337-1とちぎ健康の森内	028-625-6141
栃木県道路公社		〒321-2345 日光市木和田島2096-1	0288-32-2325
栃木県土地改良事業団体連合会		〒321-0901 宇都宮市平出町1260	028-660-5701
一般社団法人栃木県歯科医師会		〒320-0047 宇都宮市一の沢2-2-5	028-648-0471
一般社団法人栃木県薬剤師会		〒321-0165 宇都宮市緑5-1-5	028-658-9877
公益社団法人栃木県柔道整復師会		〒320-0046 宇都宮市西一の沢町4-7	028-648-0502
公益社団法人栃木県栄養士会		〒321-0933 宇都宮市築瀬町1897-9	028-634-3438
社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		〒320-0072 宇都宮市若草1-10-6	028-622-0524
栃木県石油商業組合		〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10	028-622-0435
一般社団法人栃木県建設業協会		〒321-0933 宇都宮市築瀬町1958-1	028-639-2611

1-3-3 宇都宮地方気象台が発表する特別警報・警報・注意報等の種類及び発表基準

特別警報・警報・注意報の概要

種 類	概 要
特別警報	大雨、大雪、暴風、暴風雪、波浪、高潮が特に異常であるため重大な災害が発生するおそれが著しく大きいときに、その旨を警告して行う予報
警報	大雨、洪水、大雪、暴風、暴風雪、波浪、高潮により、重大な災害が発生するおそれがあるときに、その旨を警告して行う予報
注意報	大雨、洪水、大雪、強風、風雪、波浪、高潮等により、災害が発生するおそれがあるときに、その旨を注意して行う予報

特別警報・警報・注意報の種類と概要

特別警報・警報・注意報の種類		概 要
特別警報	大雨特別警報	大雨が特に異常であるため重大な災害が発生するおそれが著しく大きいと予想されたときに発表される。大雨特別警報には、大雨特別警報（土砂災害）、大雨特別警報（浸水害）、大雨特別警報（土砂災害、浸水害）のように、特に警戒すべき事項が明記される。災害が発生又は切迫している状況で、命の危険があり直ちに身の安全を確保する必要があることを示す警戒レベル5に相当。
	大雪特別警報	大雪が特に異常であるため重大な災害が発生するおそれが著しく大きいと予想されたときに発表される。
	暴風特別警報	暴風が特に異常であるため重大な災害が発生するおそれが著しく大きいと予想されたときに発表される。
	暴風雪特別警報	雪を伴う暴風が特に異常であるため重大な災害が発生するおそれが著しく大きいと予想されたときに発表される。「暴風による重大な災害」に加えて「雪を伴うことによる視程障害等による重大な災害」のおそれについても警戒が呼びかけられる。
警報	大雨警報	大雨により重大な災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。大雨警報には、大雨警報（土砂災害）、大雨警報（浸水害）、大雨警報（土砂災害、浸水害）のように、特に警戒すべき事項が明記される。大雨警報（土砂災害）は、高齢者等が危険な場所から避難する必要があるとされる警戒レベル3に相当。

	洪水警報	上流域での降雨や融雪等による河川の増水により、重大な災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が対象としてあげられる。高齢者等が危険な場所から避難する必要があるとされる警戒レベル3に相当。
	大雪警報	大雪により重大な災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。
	暴風警報	暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。
	暴風雪警報	雪を伴う暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。「暴風による重大な災害」に加えて「雪を伴うことによる視程障害等による重大な災害」のおそれについても警戒が呼びかけられる。
注意報	大雨注意報	大雨により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。ハザードマップによる災害リスクの再確認等、避難に備え自らの避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2である。
	洪水注意報	河川の上流域での降雨や融雪等による河川の増水により、災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。ハザードマップによる災害リスクの再確認等、避難に備え自らの避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2である。
	大雪注意報	大雪により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。
	強風注意報	強風により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。
	風雪注意報	雪を伴う強風により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。「強風による災害」に加えて「雪を伴うことによる視程障害等による災害」のおそれについても注意が呼びかけられる。
	濃霧注意報	濃い霧により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。
	雷注意報	落雷により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。また、発達した雷雲の下で発生することの多い竜巻等の突風や「ひょう」による災害への注意喚起が付加されることもある。急な強い雨への注意も雷注意報で呼びかけられる。

乾燥注意報	空気の乾燥により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。具体的には、火災の危険が大きい気象条件が予想されたときに発表される。
なだれ注意報	「なだれ」により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。
着氷注意報	著しい着氷により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。具体的には、通信線や送電線、船体等への被害が発生するおそれがあるとときに発表される。
着雪注意報	著しい着雪により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。具体的には、通信線や送電線、船体等への被害が発生するおそれがあるとときに発表される。
融雪注意報	融雪により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。具体的には、浸水害、土砂災害等が発生するおそれがあるとときに発表される。
霜注意報	霜により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。具体的には、早霜や晩霜により農作物への被害が発生するおそれがあるとときに発表される。
低温注意報	低温により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表される。具体的には、低温による農作物等への著しい被害や、冬季の水道管凍結や破裂による著しい被害が発生するおそれがあるとときに発表される。

※ 土砂崩れ注意報及び浸水注意報はその注意報事項を気象注意報に、土砂崩れ警報はその警報事項を気象警報に、土砂崩れ特別警報はその警報事項を気象特別警報に、浸水警報はその警報事項を気象警報又は気象特別警報に、それぞれ含めて行われる。

土砂崩れ特別警報は、「大雨特別警報（土砂災害）」として発表される。浸水警報の警報事項を含めて行われる気象特別警報は、「大雨特別警報（浸水害）」として発表される。

キキクル（危険度分布）等の種類と概要

種 類	概 要
土砂キキクル （大雨警報（土砂災害） の危険度分布）	大雨による土砂災害発生の危険度の高まりの予測を、地図上で1km四方の領域ごとに5段階に色分けして示す情報。2時間先までの雨量分布及び土壌雨量指数の予測を用いて常時10分ごとに更新しており、大雨警報（土砂災害）や土砂災害警戒情報等が発表されたときに、危険度が高まっている場所を面的に確認することができる。 ・「災害切迫」（黒）：命の危険があり直ちに身の安全を確保す

	<p>る必要があるとされる警戒レベル5に相当。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「危険」(紫)：危険な場所から避難する必要があるとされる警戒レベル4に相当。 ・「警戒」(赤)：高齢者等が危険な場所から避難する必要があるとされる警戒レベル3に相当。 ・「注意」(黄)：ハザードマップによる災害リスクの再確認等、避難に備え自らの避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2に相当。
<p>浸水キキクル (大雨警報(浸水害)の危険度分布)</p>	<p>短時間強雨による浸水害発生の危険度の高まりの予測を、地図上で1km四方の領域ごとに5段階に色分けして示す情報。1時間先までの表面雨量指数の予測を用いて常時10分ごとに更新しており、大雨警報(浸水害)等が発表されたときに、危険度が高まっている場所を面的に確認することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「災害切迫」(黒)：命の危険があり直ちに身の安全を確保する必要があるとされる警戒レベル5に相当。
<p>洪水キキクル (洪水警報の危険度分布)</p>	<p>指定河川洪水予報の発表対象ではない中小河川(水位周知河川及びその他河川)の洪水害発生の危険度の高まりの予測を、地図上で河川流路を概ね1kmごとに5段階に色分けして示す情報。3時間先までの流域雨量指数の予測を用いて常時10分ごとに更新しており、洪水警報等が発表されたときに、危険度が高まっている場所を面的に確認することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「災害切迫」(黒)：命の危険があり直ちに身の安全を確保する必要があるとされる警戒レベル5に相当。 ・「危険」(紫)：危険な場所から避難する必要があるとされる警戒レベル4に相当。 ・「警戒」(赤)：高齢者等が危険な場所から避難する必要があるとされる警戒レベル3に相当。 ・「注意」(黄)：ハザードマップによる災害リスクの再確認等、避難に備え自らの避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2に相当。
<p>流域雨量指数の予測値</p>	<p>各河川の、上流域での降雨による、下流の対象地点の洪水危険度(大河川においては、その支川や下水道の氾濫などの「湛水型内水氾濫」の危険度)の高まりの予測を、洪水警報等の基準への到達状況に応じて危険度を色分けした時系列で示す情報。流域内における雨量分布の実況と6時間先までの予測(解析雨量及び降水短時間予報等)を用いて常時10分ごとに</p>

	更新している。
--	---------

気象情報等の種類と概要

種 類	概 要
全般気象情報 関東甲信地方気象情報 栃木県気象情報	気象の予報等について、特別警報・警報・注意報に先立って注意・警戒を呼びかけられる場合や、特別警報・警報・注意報が発表された後の経過や予想、防災上の留意点が解説される場合等に発表される。
竜巻注意情報	積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバースト等による激しい突風に対して注意が呼びかけられる情報で、竜巻等の激しい突風の発生しやすい気象状況になっているときに、天気予報の対象地域と同じ発表単位（栃木県南部など）で気象庁から発表される。なお、実際に危険度が高まっている場所は竜巻発生確度ナウキャストで確認することができる。また、竜巻の目撃情報が得られた場合には、目撃情報があつた地域を示し、その周辺で更なる竜巻等の激しい突風が発生するおそれが非常に高まっている旨を付加した情報が天気予報の対象地域と同じ発表単位（栃木県南部など）で発表される。この情報の有効期間は、発表から概ね1時間である。
土砂災害警戒情報	大雨警報（土砂災害）の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難指示の発令判断や住民の自主避難の判断を支援するため、対象となる市町を特定して警戒が呼びかけられる情報で、栃木県と宇都宮气象台から共同で発表される。市町内で危険度が高まっている詳細な領域は土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）で確認することができる。危険な場所から避難する必要があるとされる警戒レベル4に相当。
記録的短時間大雨情報	大雨警報発表中に数年に一度程度しか発生しないような猛烈な雨（1時間降水量）が観測（地上の雨量計による観測）又は解析（気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析）され、かつ、キキクル（危険度分布）の「危険」（紫）が出現している場合に、気象庁から発表される。この情報が発表されたときは、土砂災害及び、低い土地の浸水や中小河川の増水・氾濫による災害発生につながるような猛烈な雨が降っている状況であり、実際に災害発

	生の危険度が高まっている場所をキキクルで確認する必要がある。
早期注意情報（警報級の可能性）	5日先までの警報級の現象の可能性が[高]、[中]の2段階で発表される。当日から翌日にかけては時間帯を区切って、天気予報の対象地域と同じ発表単位（栃木県南部など）で、2日先から5日先にかけては日単位で、週間天気予報の対象地域と同じ発表単位（栃木県など）で発表される。大雨、暴風、大雪に関して、[高]又は[中]が予想されている場合は、災害への心構えを高める必要があることを示す警戒レベル1である。

指定河川洪水予報の種類、標題と概要

種類	標題	概要
洪水警報	氾濫発生情報	氾濫が発生したとき、氾濫が継続しているときに発表される。新たに氾濫が及ぶ区域の住民の避難誘導や救援活動等が必要となる。災害がすでに発生している状況で、命の危険があり直ちに身の安全を確保する必要があるとされる警戒レベル5に相当。
	氾濫危険情報	氾濫危険水位に到達したとき、氾濫危険水位を超える状況が継続しているとき、または急激な水位上昇によりまもなく氾濫危険水位を超え、さらに水位の上昇が見込まれるときに発表される。いつ氾濫が発生してもおかしくない状況、避難等の氾濫発生への対応を求める段階であり、避難指示の発令の判断の参考とする。危険な場所から避難する必要があるとされる警戒レベル4に相当。
	氾濫警戒情報	氾濫危険水位に到達すると見込まれるとき、避難判断水位に到達し更に水位の上昇が見込まれるとき、氾濫危険情報を発表中に氾濫危険水位を下回ったとき（避難判断水位を下回った場合を除く）、避難判断水位を超える状況が継続しているとき（水位の上昇の可能性がなくなった場合を除く）に発表される。高齢者等避難の発令の判断の参考とする。高齢者等が危険な場所から避難する必要があるとされる警戒レベル3に相当。
洪水注意報	氾濫注意情報	氾濫注意水位に到達し更に水位の上昇が見込まれる

		とき、氾濫注意水位以上でかつ避難判断水位未満の状況が継続しているとき、避難判断水位に到達したが水位の上昇が見込まれないときに発表される。ハザードマップによる災害リスクの再確認等、避難に備え自らの避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2に相当。
--	--	---

警報・注意報発表基準一覧表

(東京管区気象台管内)

令和5年6月8日現在

発表官署		宇都宮地方気象台				
府県予報区		栃木県				
一次細分区域		南部			北部	
市町村等をまとめた地域		県央部	南東部	南西部	那須地域	日光市
警報	大雨	区域内の市町村で別表1の基準に到達することが予想される場合				
	洪水	区域内の市町村で別表2の基準に到達することが予想される場合				
	暴風(平均風速)	20m/s			20m/s ^{*1}	20m/s ^{*2}
	暴風雪(平均風速)	20m/s 雪を伴う			20m/s ^{*1} 雪を伴う	20m/s ^{*2} 雪を伴う
	大雪	12時間降雪の深さ15cm		平地 12時間降雪の深さ15cm, 山地 12時間降雪の深さ30cm	平地 12時間降雪の深さ15cm, 山地 12時間降雪の深さ30cm	
	波浪(有義波高)					
	高潮					
注意報	大雨	区域内の市町村で別表3の基準に到達することが予想される場合				
	洪水	区域内の市町村で別表4の基準に到達することが予想される場合				
	強風(平均風速)	12m/s ^{*3}			12m/s ^{*4}	12m/s ^{*5}
	風雪(平均風速)	12m/s ^{*3} 雪を伴う			12m/s ^{*4} 雪を伴う	12m/s ^{*5} 雪を伴う
	大雪	12時間降雪の深さ5cm		平地 12時間降雪の深さ5cm, 山地 12時間降雪の深さ15cm	平地 12時間降雪の深さ5cm, 山地 12時間降雪の深さ15cm	
	波浪(有義波高)					
	高潮					
	雷	落雷等により被害が予想される場合				
	融雪					
	濃霧(視程)	100m				
	乾燥	最小湿度30% 実効湿度60%				
	なだれ	①24時間降雪の深さが30cm以上 ②40cm以上の積雪があつて日最高気温が6℃以上				
	低温	夏期:最低気温16℃以下が2日以上継続 冬期:最低気温-9℃以下 ^{*6}				
	霜	早霜・晩霜期に最低気温4℃以下				
着氷・着雪	著しい着氷(雪)が予想される場合					
記録的短時間大雨情報(1時間雨量)		110mm				

*¹ 那須高原(アメダス)の観測値は25m/sを目安とする。

*² 日光特別地域気象観測所の観測値は22m/sを目安とする。

*³ 宇都宮地方気象台の観測値は14m/sを目安とする。

*⁴ 那須高原(アメダス)の観測値は17m/sを目安とする。

*⁵ 日光特別地域気象観測所の観測値は15m/sを目安とする。

*⁶ 冬期の気温は、宇都宮地方気象台、黒磯・大田原・塩谷・那須烏山・鹿沼・真岡・佐野・小山(アメダス)の値。

(別表1)大雨警報基準

令和6年5月23日現在

市町村等を まとめた地域	市町村等	表面雨量指数基準	土壌雨量指数基準
県央部	宇都宮市	21	139
	さくら市	15	148
	上三川町	20	—
	高根沢町	15	140
南東部	真岡市	21	138
	那須烏山市	21	137
	益子町	21	137
	茂木町	21	133
	市貝町	21	138
	芳賀町	21	140
	那珂川町	21	133
南西部	足利市	20	132
	栃木市	18	146
	佐野市	18	132
	鹿沼市	13	159
	小山市	14	146
	下野市	17	—
	壬生町	14	—
	野木町	20	146
那須地域	大田原市	17	121
	矢板市	14	139
	那須塩原市	16	146
	塩谷町	14	159
	那須町	15	136
日光市	日光市今市	14	159
	日光市日光	14	156
	日光市藤原	12	167
	日光市足尾	14	148
	日光市栗山	14	129

(別表2)洪水警報基準

令和6年5月23日現在

市町村等を まとめた地域	市町村等	流域雨量指数基準	複合基準*1	指定河川洪水予報による基準
県東部	宇都宮市	姿川流域=18.9, 釜川流域=9.1, 山下川流域=6.6, 越戸川流域=4.6, 江川流域=10.9, 武名瀬川流域=4.4, 御用川流域=10.5, 山田川流域=15.4, 新川流域=6.1, 鶴田川流域=10.2, 赤川流域=10.5, 松葉川流域=6.1, 流川流域=7, 武子川流域=16.3	姿川流域=(8, 12.9)	鬼怒川[佐貫(下)・石井(右)], 田川[東橋・明治橋], 姿川[淀橋・姿川橋]
	さくら市	五行川流域=7.9, 内川流域=29.3, 江川流域=9.1	—	鬼怒川[佐貫(下)], 荒川[連城橋]
	上三川町	江川流域=14.2	田川流域=(12, 16.4)	鬼怒川[佐貫(下)・石井(右)], 田川[東橋・明治橋]
	高根沢町	五行川流域=11.2, 井沼川流域=4.6, 大沼川流域=7.3	—	鬼怒川[佐貫(下)]
南東部	真岡市	赤堀川流域=6.2	五行川流域=(10, 15.7)	小貝川[三谷], 鬼怒川[石井(右)], 小貝川上流部[鉄道橋下], 五行川[妹内橋]
	那須烏山市	小貝川流域=4, 江川流域=19.5	荒川流域=(10, 23.4)	那珂川[小口], 荒川[連城橋]
	益子町	小宅川流域=8.6	小宅川流域=(7, 7.7)	小貝川[三谷], 小貝川上流部[鉄道橋下]
	茂木町	八反田川流域=7.5, 木須川流域=9.5, 生井川流域=5.8, 鮎田川流域=8.9, 坂井川流域=8.1	逆川流域=(11, 8.8), 鮎田川流域=(9, 8), 坂井川流域=(9, 7.2)	那珂川[小口・野口], 逆川[木幡大橋]
	市貝町	小貝川流域=6.2, 桜川流域=7.7	荒川流域=(10, 23.4)	那珂川[小口], 荒川[連城橋], 小貝川上流部[鉄道橋下], 五行川[妹内橋]
	芳賀町	野元川流域=11.6	—	五行川[妹内橋]
	那珂川町	武茂川流域=20	—	那珂川[小口], 霽川[佐久山]
南西部	足利市	矢場川流域=9.3, 松田川流域=11.6, 旗川流域=26.1, 姥川流域=5, 名草川流域=7.3, 蓮台寺川流域=5, 小俣川流域=7.8, 尾名川流域=6.4	渡良瀬川流域=(10, 40.9)	袋川[千歳橋], 渡良瀬川上流部[高津戸・広見橋], 渡良瀬川下流部[足利]
	栃木市	永野川流域=16.9, 巴波川流域=15.3, 三杉川流域=10.9, 赤津川流域=10.7, 柏倉川流域=5.9, 藤川流域=6.6	永野川流域=(8, 11.7), 巴波川流域=(8, 13.7), 赤津川流域=(8, 10.7), 藤川流域=(8, 5.9)	思川[保橋・観晃橋], 黒川[府中橋・東雲橋], 永野川[大平橋上], 渡良瀬川上流部[高津戸], 利根川上流部[八斗島・栗橋], 渡良瀬川下流部[足利・古河・乙女・中里]
	佐野市	三杉川流域=9.4, 旗川流域=25.3, 菊沢川流域=4.8, 出流川流域=9, 才川流域=5.3	三杉川流域=(15, 8.4)	秋山川[大橋], 渡良瀬川上流部[高津戸], 渡良瀬川下流部[足利]
	鹿沼市	思川流域=18.4, 永野川流域=16.8, 大芦川流域=34.3, 武子川流域=14.8, 小藪川流域=6.5, 西武子川流域=4.1	思川流域=(8, 16.5), 黒川流域=(8, 22.6), 小藪川流域=(9, 5.9), 西武子川流域=(8, 3.9)	思川[保橋・観晃橋], 黒川[府中橋・東雲橋]
	小山市	田川流域=15.8, 巴波川流域=18.9, 与良川流域=7.4, 杣井木川流域=5	思川流域=(8, 63.1), 永野川流域=(8, 26), 杣井木川流域=(8, 4.5)	鬼怒川[石井(右)・川島], 田川[東橋・明治橋], 思川[保橋・観晃橋], 姿川[淀橋・姿川橋], 永野川[大平橋上], 渡良瀬川下流部[古河・乙女・中里]
	下野市	新川流域=14.1	姿川流域=(8, 26.6)	鬼怒川[石井(右)], 田川[東橋・明治橋], 思川[保橋・観晃橋], 姿川[淀橋・姿川橋], 黒川[府中橋・東雲橋]
	壬生町	恵川流域=11.9	思川流域=(12, 44.9), 黒川流域=(8, 30.7)	思川[保橋・観晃橋], 姿川[淀橋・姿川橋], 黒川[府中橋・東雲橋]
	野木町	宮戸川流域=8.6	—	思川[保橋・観晃橋], 渡良瀬川下流部[古河・乙女・中里]

(別表2)洪水警報基準

令和6年5月23日現在

市町村等を まとめた地域	市町村等	流域雨量指数基準	複合基準 ^{*1}	指定河川洪水予報による基準
那須地域	大田原市	熊川流域=17.3, 押川流域=6.4, 松葉川流域=11.8, 湯坂川流域=14, 巻川流域=4.4, 相の川流域=9.2	那珂川流域=(13, 45.9), 熊川流域=(13, 15.5), 松葉川流域=(9, 10.6), 湯坂川流域=(9, 12.6)	那珂川[小口], 那珂川上流部[晩翠橋・黒羽], 箒川[佐久山], 蛇尾川[蛇尾橋], 余笹川[中余笹橋]
	矢板市	箒川流域=33.4, 荒川流域=23.2, 内川流域=19.3, 宮川流域=9.4, 出川流域=5.8	—	鬼怒川[佐貫(下)], 箒川[佐久山]
	那須塩原市	箒川流域=31.4, 熊川流域=17.7	余笹川流域=(9, 21.8), 箒川流域=(9, 29.2), 熊川流域=(9, 15.9)	那珂川上流部[晩翠橋・黒羽], 蛇尾川[蛇尾橋], 余笹川[中余笹橋]
	塩谷町	鬼怒川流域=78.7, 荒川流域=20.3, 西荒川流域=13	—	鬼怒川[佐貫(下)]
	那須町	黒川流域=28.2, 黒田川流域=12.8, 四ツ川流域=13.5, 八景堀川流域=8.5, 上黒尾川流域=4.4	上黒尾川流域=(8, 3.8)	那珂川上流部[晩翠橋・黒羽], 余笹川[中余笹橋]
日光市	日光市今市	鬼怒川流域=78.5, 田川流域=9.1, 大谷川流域=40.9, 板穴川流域=20.6, 砥川流域=15.3, 古大谷川流域=8.9, 赤堀川流域=9.8, 武子川流域=12, 長畑川流域=13.8, 行川流域=12.4	古大谷川流域=(7, 8)	—
	日光市日光	田川流域=3.2, 大谷川流域=40, 湯川流域=18.4, 行川流域=6.7	—	—
	日光市藤原	鬼怒川流域=61.6, 男鹿川流域=24.1	—	—
	日光市足尾	渡良瀬川流域=31.4	—	—
	日光市栗山	鬼怒川流域=44.3, 湯西川流域=10.3	—	—

*1 (表面雨量指数, 流域雨量指数)の組み合わせによる基準値を表しています。

(別表3)大雨注意報基準

令和3年6月8日現在

市町村等を まとめた地域	市町村等	表面雨量指数基準	土壌雨量指数基準
県央部	宇都宮市	10	101
	さくら市	9	108
	上三川町	11	146
	高根沢町	12	102
南東部	真岡市	10	100
	那須烏山市	11	100
	益子町	9	100
	茂木町	12	97
	市貝町	9	100
	芳賀町	10	102
	那珂川町	12	97
南西部	足利市	10	83
	栃木市	10	91
	佐野市	9	83
	鹿沼市	10	100
	小山市	10	91
	下野市	10	146
	壬生町	10	146
	野木町	11	91
那須地域	大田原市	12	73
	矢板市	11	84
	那須塩原市	12	89
	塩谷町	10	96
	那須町	10	82
日光市	日光市今市	9	96
	日光市日光	9	95
	日光市藤原	8	101
	日光市足尾	8	90
	日光市栗山	9	78

(別表4)洪水注意報基準

令和6年5月23日現在

市町村等を まとめた地域	市町村等	流域雨量指数基準	複合基準*1	指定河川洪水予報による基準
県東部	宇都宮市	姿川流域=15.1, 釜川流域=7.2, 山下川流域=5.2, 越戸川流域=3, 江川流域=8.7, 武名瀬川流域=3.5, 御用川流域=8.4, 山田川流域=12.3, 新川流域=4.8, 鶴田川流域=8.1, 赤川流域=8.4, 松葉川流域=4.8, 流川流域=5.6, 武子川流域=13	田川流域=(8, 21.5), 姿川流域=(5, 11.6), 新川流域=(5, 4.8)	鬼怒川[佐貫(下)・石井(右)], 田川[東橋・明治橋], 姿川[淀橋・姿川橋]
	さくら市	五行川流域=6.3, 内川流域=23.4, 江川流域=7.2	荒川流域=(7, 21.5), 内川流域=(5, 23.4), 江川流域=(5, 7.2)	鬼怒川[佐貫(下)], 荒川[連城橋]
	上三川町	江川流域=11.3	鬼怒川流域=(9, 65.2), 田川流域=(9, 13)	鬼怒川[石井(右)], 田川[東橋・明治橋]
	高根沢町	五行川流域=8.9, 井沼川流域=3.7, 大沼川流域=5.8	—	鬼怒川[佐貫(下)]
南東部	真岡市	赤堀川流域=4.9	小貝川流域=(5, 19.7), 五行川流域=(5, 12.4)	小貝川[三谷], 鬼怒川[石井(右)], 小貝川上流部[鉄道橋下], 五行川[妹内橋]
	那須烏山市	小貝川流域=3.3, 江川流域=15.6	那珂川流域=(5, 57.4), 荒川流域=(9, 17), 江川流域=(5, 11.6)	那珂川[小口], 荒川[連城橋]
	益子町	小宅川流域=6.8	小宅川流域=(7, 5.4)	小貝川[三谷], 小貝川上流部[鉄道橋下]
	茂木町	八反田川流域=6, 木須川流域=7.6, 生井川流域=4.6, 鮎田川流域=7.1, 坂井川流域=6.4	那珂川流域=(6, 28), 逆川流域=(6, 6.4), 鮎田川流域=(9, 7.1), 坂井川流域=(9, 5.1)	那珂川[小口・野口], 逆川[木幡大橋]
	市貝町	小貝川流域=4.9, 桜川流域=6.1	荒川流域=(9, 17)	荒川[連城橋], 小貝川上流部[鉄道橋下]
	芳賀町	野元川流域=9.2	五行川流域=(7, 6.3), 野元川流域=(9, 8.7)	五行川[妹内橋]
	那珂川町	武茂川流域=16	武茂川流域=(10, 15)	那珂川[小口], 箒川[佐久山]
南西部	足利市	矢場川流域=7.4, 松田川流域=9.2, 旗川流域=20.8, 姥川流域=4, 名草川流域=5.8, 蓮台寺川流域=4, 小俣川流域=6.2, 尾名川流域=4.6	渡良瀬川流域=(9, 36.8), 矢場川流域=(5, 7.4), 松田川流域=(8, 7.4), 姥川流域=(5, 3.7), 小俣川流域=(5, 3.9), 尾名川流域=(5, 4.6)	袋川[千歳橋], 渡良瀬川上流部[高津戸・広見橋], 渡良瀬川下流部[足利]
	栃木市	永野川流域=13.5, 巴波川流域=12.2, 三杉川流域=8.7, 赤津川流域=8.5, 柏倉川流域=4.7, 藤川流域=5.2	思川流域=(9, 52.1), 永野川流域=(5, 10.5), 巴波川流域=(5, 12.2), 赤津川流域=(8, 8.5), 柏倉川流域=(5, 4.7), 藤川流域=(8, 4.2)	思川[保橋・観晃橋], 永野川[大平橋上], 渡良瀬川下流部[足利・古河・中里]
	佐野市	三杉川流域=7.5, 旗川流域=20.2, 菊沢川流域=3.4, 出流川流域=7.2, 才川流域=4.2	秋山川流域=(5, 17), 三杉川流域=(5, 7.5), 旗川流域=(7, 15.8), 菊沢川流域=(5, 3.4), 才川流域=(5, 4.2)	秋山川[大橋], 渡良瀬川下流部[足利]
	鹿沼市	思川流域=14.7, 永野川流域=13.4, 大芦川流域=27.4, 武子川流域=11.8, 小藪川流域=5, 西武子川流域=3.3	思川流域=(8, 11.8), 黒川流域=(8, 16.1), 大芦川流域=(5, 27.4), 小藪川流域=(6, 5), 西武子川流域=(5, 3.2)	思川[保橋・観晃橋], 黒川[府中橋・東雲橋]
	小山市	田川流域=12.6, 巴波川流域=15.1, 与良川流域=5.9, 柚井木川流域=4	思川流域=(5, 42.3), 永野川流域=(7, 21.1), 柚井木川流域=(8, 3.2)	鬼怒川[石井(右)], 田川[東橋・明治橋], 思川[保橋・観晃橋], 姿川[淀橋・姿川橋], 永野川[大平橋上], 渡良瀬川下流部[古河・乙女・中里]
	下野市	新川流域=11.2	思川流域=(9, 52.1), 姿川流域=(8, 20.6)	鬼怒川[石井(右)], 田川[東橋・明治橋], 姿川[淀橋・姿川橋]
	壬生町	恵川流域=9.5	思川流域=(7, 29.5), 黒川流域=(8, 20.9), 姿川流域=(8, 15.3), 恵川流域=(8, 7.6)	思川[保橋・観晃橋], 姿川[淀橋・姿川橋], 黒川[府中橋・東雲橋]
	野木町	宮戸川流域=6.8	—	思川[保橋・観晃橋], 渡良瀬川下流部[古河・乙女]

(別表4)洪水注意報基準

令和6年5月23日現在

市町村等を まとめた地域	市町村等	流域雨量指数基準	複合基準 ^{*1}	指定河川洪水予報による基準
那須地域	大田原市	熊川流域=13.8, 押川流域=5.1, 松葉川流域=9.4, 湯坂川流域=8.8, 巻川流域=3.5, 相の川流域=7.3	那珂川流域=(10, 37), 箒川流域=(8, 35), 熊川流域=(8, 13.8), 押川流域=(10, 5.1), 松葉川流域=(9, 7.5), 湯坂川流域=(6, 8.8)	那珂川[小口], 那珂川上流部[晩翠橋・黒羽], 箒川[佐久山], 蛇尾川[蛇尾橋], 余笹川[中余笹橋]
	矢板市	箒川流域=26.7, 荒川流域=18.5, 内川流域=15.4, 宮川流域=7.5, 出川流域=4.6	—	箒川[佐久山]
	那須塩原市	箒川流域=25.1, 熊川流域=14.1	余笹川流域=(9, 15.5), 箒川流域=(6, 25.1), 熊川流域=(6, 14.1)	那珂川上流部[晩翠橋・黒羽], 蛇尾川[蛇尾橋], 余笹川[中余笹橋]
	塩谷町	鬼怒川流域=62.9, 荒川流域=16.2, 西荒川流域=10.4	鬼怒川流域=(9, 62.9), 荒川流域=(9, 16.2)	鬼怒川[佐貫(下)]
	那須町	黒川流域=22.5, 黒田川流域=10.2, 四ツ川流域=10.8, 八景堀川流域=6.8, 上黒尾川流域=3.5	余笹川流域=(5, 23.4), 黒川流域=(8, 18), 上黒尾川流域=(8, 2.7)	那珂川上流部[晩翠橋・黒羽], 余笹川[中余笹橋]
日光市	日光市今市	鬼怒川流域=62.8, 田川流域=7.2, 大谷川流域=32.7, 板穴川流域=16.4, 砥川流域=12.2, 古大谷川流域=7.1, 赤堀川流域=7.8, 武子川流域=9.6, 長畑川流域=11, 行川流域=9.9	田川流域=(5, 7.2), 板穴川流域=(5, 16.4), 古大谷川流域=(5, 7.1), 赤堀川流域=(5, 7.8), 武子川流域=(5, 9.6), 長畑川流域=(5, 11), 行川流域=(5, 9.9)	—
	日光市日光	田川流域=2.5, 大谷川流域=32, 湯川流域=14.7, 行川流域=5.3	—	—
	日光市藤原	鬼怒川流域=49.2, 男鹿川流域=19.2	—	—
	日光市足尾	渡良瀬川流域=25.1	—	—
	日光市栗山	鬼怒川流域=35.4, 湯西川流域=8.2	—	—

*1 (表面雨量指数, 流域雨量指数)の組み合わせによる基準値を表しています。

1-3-4 気象庁震度階級関連解説表

平成22年11月

震度は、地震動の強さの程度を表すもので、震度計を用いて観測します。この「気象庁震度階級関連解説表」は、ある震度が観測された場合、その周辺で実際にどのような現象や被害が生じるかを示すものです。この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

- (1) 気象庁が発表している震度は、原則として地表や低層建物の一階に設置した震度計による観測値です。この資料は、ある震度が観測された場合、その周辺で実際にどのような現象や被害が発生するかを示すもので、それぞれの震度に記述される現象から震度が決定されるものではありません。
- (2) 地震動は、地盤や地形に大きく影響されます。震度は震度計が置かれている地点での観測値であり、同じ市町村であっても場所によって震度が異なることがあります。また、中高層建物の上層階では一般に地表より揺れが強くなるなど、同じ建物の中でも、階や場所によって揺れの強さが異なります。
- (3) 震度が同じであっても、地震動の振幅（揺れの大きさ）、周期（揺れが繰り返す時の1回あたりの時間の長さ）及び継続時間などの違いや、対象となる建物や構造物の状態、地盤の状況により被害は異なります。
- (4) この資料では、ある震度が観測された際に発生する被害の中で、比較的多く見られるものを記述しており、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。また、それぞれの震度階級で示されている全ての現象が発生するわけではありません。
- (5) この資料は、主に近年発生した被害地震の事例から作成したものです。今後、5年程度で定期的に内容を点検し、新たな事例が得られたり、建物・構造物の耐震性の向上等によって実状と合わなくなった場合には変更します。
- (6) この資料では、被害などの量を概数で表せない場合に、一応の目安として、次の副詞・形容詞を用いています。

用語	意味
まれに	極めて少ない。めったにない。
わずか	数量・程度が非常に少ない。ほんの少し。
大半	半分以上。ほとんどよりは少ない。
ほとんど	全部ではないが、全部に近い。
が(も)ある、 が(も)いる	当該震度階級に特徴的に現れ始めることを表し、量的には多くはないがその数量・程度の概数を表現できかねる場合に使用。
多くなる	量的に表現できかねるが、下位の階級より多くなることを表す。
さらに多くなる	上記の「多くなる」と同じ意味。下位の階級で上記の「多くなる」が使われている場合に使用。

計測震度	震度階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物	鉄筋コンクリート造建物	ライフライン	地盤・斜面
0.5	0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。						
	1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。						
	2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。						

計測震度	震度階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物	鉄筋コンクリート造建物	ライフライン	地盤・斜面
2.5	3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。	棚にある食器類が、音を立てることがある。	電線が少し揺れる。				
3.5	4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。			鉄道、高速道路などで、安全確認のため、運転見合わせ、速度規制、通行規制が行われる。（基準は、事業者や地域によって異なる）	
4.5	5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。	耐震性の低い住宅では、壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。		断水、停電が発生することがある。安全装置のあるガスメーターでは遮断装置が作動し、ガスの供給を停止する。地震管制装置付きのエレベーターは、安全のため自動停止する。	地盤に亀裂や液状化が生じることがある。斜面では落石やがけ崩れが発生することがある。
5.0	5強	大半の人が、物につかまらないうちが難しく、歩行が困難を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。	耐震性の低い住宅では、壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。	耐震性の低い建物では、壁、梁、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。		
5.5	6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	耐震性の低い住宅では、壁などのひび割れ・亀裂が多くなり、壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物が傾いたり、倒れるものもある。耐震性の高い住宅でも、壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。	耐震性の低い建物では、壁、梁、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が多くなる。耐震性の高い建物でも、壁、梁、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。	揺れの強い地域やその周辺の地域において、電話等が繋がりにくい状況が起ることがあるため、通信事業者により災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板などの提供が行われる。	地盤では地割れが生じることがある。斜面ではがけ崩れや地すべりが発生することがある。

計測震度	震度階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物	鉄筋コンクリート造建物	ライフライン	地盤・斜面
6.0	6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多い。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	耐震性の低い住宅では、壁などに大きなひび割れ・亀裂が入るものが多い、傾くものや、倒れるものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。	耐震性の低い建物では、壁、梁、柱などの部材に、斜めやX状のひび割れ・亀裂がみられたり、1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものがある。震性の高い建物でも、壁、梁、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が多くなる。	広い地域で、ガス、水道、電気の供給が停止することがある。	地盤では大きな地割れが生じることがある。斜面ではがけ崩れが多発し、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
6.5	7		固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたり、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。	耐震性の低い住宅では、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。耐震性の高い住宅でも、壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。まれに傾くことがある。	耐震性の低い建物では、壁、梁、柱などの部材に、斜めやX状のひび割れ・亀裂が多くなり、1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものが多い。耐震性の高い建物でも、壁、梁、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂がさらに多くなり、1階あるいは中間階が変形し、まれに傾くものがある。		

木造建築について

- ・ 木造建物（住宅）の耐震性により2つに分けた。耐震性は、建築年代の新しいものほど高い傾向があり、概ね昭和56年（1981年）以前は耐震性が低く、昭和57年（1982年）以降には耐震性が高い傾向がある。しかし、構法の違いや壁の配置などにより耐震性に幅があるため、必ずしも建築年代が古いというだけで耐震性の高低が決まるものではない。既存建築物の耐震性は、耐震診断により把握することができる。
- ・ この表における木造の壁のひび割れ、亀裂、損壊は、土壁（割り竹下地）、モルタル仕上壁（ラス、金網下地を含む）を想定している。下地の弱い壁は、建物の変形が少ない状況でも、モルタル等が剥離し、落下しやすくなる。
- ・ 木造建物の被害は、地震の際の地震動の周期や継続時間によって異なる。平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震のように、震度に比べ建物被害が少ない事例もある。

鉄筋コンクリート建物について

- ・ 鉄筋コンクリート造建物では、建築年代の新しいものほど耐震性が高い傾向があり、概ね昭和56年（1981年）以前は耐震性が低く、昭和57年（1982年）以降は耐震性が高い傾向がある。しかし、構造形式や平面的、立面的な耐震壁の配置により耐震性に幅があるため、必ずしも建築年代が古いというだけで耐震性の高低が決まるものではない。既存建築物の耐震性は、耐震診断により把握することができる。
- ・ 鉄筋コンクリート造建物は、建物の主体構造に影響を受けていない場合でも、軽微なひび割れがみられることがある。

大規模構造物への影響

- ・ 規模の大きな地震が発生した場合、長周期の地震波が発生し、震源から離れた遠方まで到達して、平野部では地盤の固有周期に応じて長周期の地震波が増幅され継続時間も長くなる可能性がある。

地盤・斜面について

- ・ 亀裂は、地割れと同じ現象であるが、ここでは規模の小さい地割れを亀裂として表記している。
- ・ 地下水位が高い、ゆるい砂地盤では、液状化が発生することがある。液状化が進行すると、地面からの泥水の噴出や地盤沈下が起こり、堤防や岸壁が壊れる、下水管やマンホールが浮き上がる、建物の土台が傾いたり壊れたりするなどの被害が発生することがある。
- ・ 大規模な地すべりや山体の崩壊等が発生した場合、地形等によっては天然ダムが形成されることがある。また、大量の崩壊土砂が土石流化することもある。

長周期地震動に関する情報

大きな地震が発生すると、長周期地震動によりビルの高層階などで地上よりも大きな被害を生じることがあります。気象庁では地震後の防災対応に資するため、長周期地震動に関する観測情報を発表しています。

長周期地震動とは

地震が発生すると、さまざまな周期をもつ揺れ（地震動）が発生します。「周期」とは、揺れが1往復するのにかかる時間のことで、平成23年東北地方太平洋沖地震のような規模の大きな地震が発生すると、周期の長い揺れ「長周期地震動」が発生します。この長周期地震動は、周期の短い波とくらべて減衰しにくく、より遠くまで伝わる特徴があります。また、特に堆積平野などのやわらかい地層では揺れが増幅され、長時間継続する傾向があります。

一方、個々の建物にはそれぞれ固有の揺れやすい周期「固有周期」があります。この固有周期と一致する周期で揺さぶられると「共振」現象が発生し、建物の揺れが増大します。高層ビルの固有周期は低い建物の固有周期に比べ長いため、長周期地震動によって共振しやすく、長時間にわたって大きく揺れることになります。

高層ビルが大きく揺れると、室内の家具や什器が転倒・移動したり、エレベーターが故障することがあります。また、揺れは高層階で大きくなり、被害もより大きくなる傾向があります。

首都圏・中部圏・近畿圏の三大都市圏の平野部には多くの高層ビルが建設されており、これらのビルは長周期地震動で揺れやすくなる条件が重なっています。このため、南海トラフ沿いや相模トラフ沿いの巨大地震では、これらの地域で長周期地震動により大きな被害を生じる可能性が懸念されています。



● 長周期地震動による被害

家具などの移動・転倒

平成23年東北地方太平洋沖地震では、地震の発生場所から遠く離れた東京でも長周期地震動により高層ビルの高層階が長く大きく揺れ、家具や什器などが移動・転倒しました。



写真：工学院大学提供

内装・エレベーターの被害

平成16年新潟県中越地震では、震源から約200km離れた東京都内の高層ビル（最大震度3）でエレベーターのワイヤーが損傷する被害が発生しました。

平成23年東北地方太平洋沖地震では、震源から約700km離れた大阪（最大震度3）でも高層ビルが大きく揺れ、内装材や防火扉が破損したり、エレベーターが停止し中に閉じ込められたりするなどの被害が発生しました。



写真：総務省消防庁 消防研究センター提供

石油タンクの被害

平成15年十勝沖地震では、震源から約250km離れた苫小牧の石油コンビナートでタンク内の液体が大きく揺動する「スロッシング」が発生。浮き屋根が沈没し、火災も発生しました。

長周期地震動階級

長周期地震動階級	人の体感・行動	室内の状況など
階級 1	<ul style="list-style-type: none"> 室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。
階級 2	<ul style="list-style-type: none"> 室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。 物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> キャスター付き什器がわずかに動く。 棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。
階級 3	<ul style="list-style-type: none"> 立っていることが困難になる。 	<ul style="list-style-type: none"> キャスター付き什器が大きく動く。 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 間仕切り壁などにひび割れ・亀裂が入ることがある。
階級 4	<ul style="list-style-type: none"> 立っていることができず、はわないと動くことができない。 揺れにほんろうされる。 	<ul style="list-style-type: none"> キャスター付き什器が大きく動き、転倒するものがある。 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 間仕切り壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。

高層ビルなどにおける長周期地震動による揺れの大きさは、震度では十分に表現できません。このため、震度とは異なる「長周期地震動階級」という指標を用います。

長周期地震動階級は、固有周期が1.5秒～8秒程度となる高層階（概ね14～15階以上）内における、地震時の人の行動の困難さの程度や、家具や什器の移動・転倒などの被害の程度から4つの段階に区分した揺れの大きさの指標です。

なお、ここで挙げている状況はあくまで目安です。被害の様相は対象となる建物や建造物の状態、地震動の継続時間など様々な要因で変化するため、これよりも大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

長周期地震動階級3以上を観測した地震(2013年3月以降)

発生日時	震央地名	M	震度	長周期地震動階級
2014/11/22 22:08	長野県北部	6.7	6弱	3
2015/05/13 06:12	宮城県沖	6.8	5強	3
2016/04/14 21:26	熊本県熊本地方	6.5	7	3
2016/04/15 00:03	熊本県熊本地方	6.4	6強	4
2016/04/16 01:25	熊本県熊本地方	7.3	7	4
2016/10/21 14:07	鳥取県中部	6.6	6弱	3
2018/09/06 03:07	胆振地方中東部	6.7	7	4
2019/06/18 22:22	山形県沖	6.7	6強	3
2021/02/13 23:07	福島県沖	7.3	6強	4
2021/03/20 18:09	宮城県沖	6.9	5強	3
2022/03/16 23:36	福島県沖	7.4	6強	4



- ▶ 長周期地震動によるビルなど建物の揺れ方は、その建物の高さや形状、構造などによりさまざまです。発表される長周期地震動階級は個々のビルなどの特性を反映したものではありません。
- ▶ 同じビルの中でも、階や場所によって揺れの大きさが異なります。特に、建物の頂部の揺れ方は発表した長周期地震動階級よりも大きくなる場合があります。
- ▶ 免震構造の建物では、建物の固有周期を長くしているため、短い周期の地震動だと揺れの軽減効果は大きいですが、長周期地震動の場合は思わぬ揺れが発生する可能性があります。
- ▶ 建物については別途巨大地震を想定した対策などを行っており、建物が倒壊しないという前提で、取るべき行動について周知啓発しています。

地域気象観測所一覧表

令和8年2月25日現在

観測所 番号	観測所名	観測種目							所在地	緯度 度 分	経度 度 分	海面上 の高さ (m)	風速計 の高さ (m)
		雨	気温	風	日照	積雪	湿度	他					
41011	那須高原	○	○	○		○	○		那須郡那須町大島	37° 07.4'	140° 02.1'	749	6.6
41076	五十里	○	○	○			○		日光市五十里堀割	36° 55.3'	139° 41.7'	620	9.9
41091	黒磯	○	○	○			○		那須塩原市埼玉	36° 58.9'	140° 01.1'	343	9.9
41116	土呂部	○	○	○		○	○		日光市土呂部	36° 53.5'	139° 34.1'	925	9.9
41141	大田原	○	○	○			○		大田原市宇田川	36° 50.4'	140° 02.1'	188	9.9
41166	奥日光	○	○	○	○	○	○	○	日光市中宮祠 日光特別地域気象観測所	36° 44.3'	139° 30.0'	1,292	11.3
41172	日光東町	○	○	○			○		日光市稲荷町	36° 45.0'	139° 36.9'	561	10.3
41181	塩谷	○	○	○			○		塩谷郡塩谷町大字田所	36° 45.4'	139° 53.0'	225	10.4
41211	足尾	○							日光市足尾町	36° 38.8'	139° 26.9'	650	
41241	高根沢	○							塩谷郡高根沢町上高根沢台の原	36° 36.4'	139° 59.9'	148	
41247	那須烏山	○	○	○			○		那須烏山市森田字小塙前	36° 38.5'	140° 07.0'	82	10.4
41271	鹿沼	○	○	○			○		鹿沼市見野	36° 35.5'	139° 44.1'	165	10.4
41277	宇都宮	○	○	○	○	○	○	○	宇都宮市明保野町 宇都宮地方気象台	36° 32.9'	139° 52.1'	119	49.4
41311	葛生	○							佐野市豊代町	36° 25.9'	139° 35.4'	120	
41331	真岡	○	○	○			○		真岡市下籠谷	36° 28.6'	139° 59.2'	91	9.9
41356	足利	○							足利市元学町	36° 20.5'	139° 27.7'	35	
41361	佐野	○	○	○			○		佐野市田沼町	36° 21.8'	139° 34.2'	68	10.7
41371	栃木	○							栃木市平井町	36° 22.4'	139° 42.2'	65	
41376	小山	○	○	○			○		小山市出井	36° 20.3'	139° 49.8'	44	16.1

1-3-6 過去における主な地震・火山活動の状況

(1) 地震活動の状況

年月日	震災地	被害の概要
818. -- (弘仁 9. 7. -)	関東 諸国	M (マグニチュード) 7.5 以上。相模・武蔵・下総・常陸・上野・下野などで、大地震が発生し、山崩れなどで多数の圧死者が出た。【※栃木県内の被害不明】
1649. 7. 30 (慶安 2. 6. 21) 丑刻	武蔵・ 下野	M7.0 以上。江戸城二の丸石垣・堀破損、その他の城の石垣崩れ、侍屋敷・町屋の破損が多く、圧死者も多く発生。上野東照宮の大仏の頭が落ち、日光東照宮の石垣破損し、相輪塔傾く。余震日々40~50回。
1659. 4. 21 (万治 2. 2. 30)	岩代・ 下野	M6.75~7.0。塩原温泉一村(約80戸)がほとんど土砂に埋まり、死者多数発生。那須でも100余棟が倒壊し、死者数十人、負傷者数名発生。
1683. 6. 17 (天和 3. 5. 23) 辰中刻	日光	M6.0~6.5。4月5日より地震多く、特に17日は37回の地震あり。辰の刻に大地震発生。また卯刻から子刻まで地震89回。東照宮・大猷廟・慈眼堂等の石の宝塔の九輪転落、石垣多く崩れ、天狗堂・仏岩・赤薙山およびその北方の山崩れる。
1683. 6. 18 (天和 3. 5. 24) 巳ノ下刻	日光	M6.5~7.0。卯刻から辰刻まで地震7回。巳の下刻に大地震発生。御宮・御堂・御殿・慈眼堂・本坊寺院の石垣が残らず崩れ、石灯籠は全て倒れる。東照宮・大猷廟の宝塔の笠石その他破損。卯上刻から夜中まで地震196回。25日41回、26日17回、17日から閏5月1日まで地震435回。
1683. 10. 20 (天和 3. 9. 1) 寅ノ後刻	日光	M7.0。下野三依川五十里村で山崩れが起こり、川を塞いだため湖が生じた。日光にも山崩れがあり、鬼怒川・稲荷川の水が流れなくなった。1~2日で地震760回余、また1日から晦日まで地震1,400回余。
1923. 9. 1 (大正 12) 11時58分	関東 南部	(関東大地震) M7.9。相模湾、神奈川県全域、房総半島の南部を含む相模トラフ沿いの広い範囲を震源域として発生したプレート間地震 ○全国(関東甲信静) ・最大震度6(当時の震度階級は6までしかなかったが、一部の地域では現在の震度7相当と推定) ・人的被害-死者99,331人、負傷者103,733人、行方不明43,476人 ・家屋被害-全壊128,266棟、半壊126,233棟、焼失447,128棟、流失868棟 ○県内 ・最大震度5 ・人的被害-負傷者3人 ・家屋被害-全壊16棟、半壊2棟
1949. 12. 26 (昭和 24) ①8時17分 ②8時24分	今市 地方	(今市地震) ほぼ同程度の規模(①M6.2②M6.4)の地震が8分の間隔をおいて続けて発生。震央地は両方とも鶴鳴山付近。地震の数日あるいは数ヶ月前から地鳴りがあったという。余震は多く12月26日から1月25日にかけて、有感79・無感1,534の余震を観測(宇都宮測候所のウ式地震計による)。 ○県内 ・最大震度 6(今市付近) ・人的被害 - 死者10名、負傷者163名 ・住家被害 - 全壊290棟、半壊2,994棟、一部破損1,660棟 ・非住家被害 - 全壊618棟、半壊2,307棟、一部破損2,979棟
1996. 12. 21 (平成 8) 10時39分	県内 12市町	M5.5。震央地は茨城県南部(北緯36.1°, 東経139.8°) 深さ約40km。東北地方から北陸及び中部地方にかけて地震を感じた。 ○県内 ・最大震度 5弱(日光、今市、益子) ・人的被害 - 軽傷者1名(鹿沼) ・住家被害 - 一部破損47棟(宇都宮、足利、栃木、小山、南河内、益子、藤岡) ・被害額 927千円 ┌ 公共文教施設 859千円 └ その他の公共施設 35千円
2000. 7. 21 (平成 12) 3時39分	被災無	M 6.1。震央地は茨城県沖(北緯36.6°, 東経141.0°) 深さ約50km ○県内 ・最大震度 5弱(市貝) ・被害無

2008.5.8 (平成20) 1時45分	被災無	M 6.7。震央地は茨城県南部（北緯 36.2°，東経 141.7°） 深さ約 40km ○県内 ・最大震度 5 弱（茂木） ・被害無											
2011.3.11 (平成23) 14時46分	県内 全市町	(東北地方太平洋沖地震) M9.0。震央地は三陸沖（北緯 38.1°，東経 142.9°） 深さ 24km 宮城県栗原市で震度 7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県の 4 県 37 市町村で震度 6 強、岩手県で震度 6 弱を観測したほか、東日本を中心に沖縄県を除く全国で震度 6 弱～震度 1 の揺れを観測した。また、この地震に伴い、観測史上最大規模の大津波が発生したほか、全国の広い範囲で津波が観測された。余震も数多く発生している。 ○全国 ・最大震度 7（宮城県栗原市） ・人的被害 — 死者 18,958 人、負傷者 6,219 人、行方不明 2,655 人 ・住家被害 — 全壊 127,291 棟、半壊 272,810 棟、一部破損 766,097 棟 ○県内 ・最大震度 6 強（宇都宮、真岡、大田原、高根沢、市貝） ・人的被害 — 死者 4 人、負傷者 133 人 ・住家被害 — 全壊 261 棟、半壊 2,118 棟、一部破損 73,326 棟 ・被害額 <u>20,880,239 千円</u> <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td rowspan="5" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">{</td><td>公立文教施設</td><td>2,607,951 千円</td></tr> <tr><td>農林水産業施設</td><td>3,895,631 千円</td></tr> <tr><td>公共土木施設</td><td>2,354,784 千円</td></tr> <tr><td>その他の公共施設</td><td>4,219,384 千円</td></tr> <tr><td>その他の被害</td><td>7,802,489 千円</td></tr> </table>	{	公立文教施設	2,607,951 千円	農林水産業施設	3,895,631 千円	公共土木施設	2,354,784 千円	その他の公共施設	4,219,384 千円	その他の被害	7,802,489 千円
{	公立文教施設	2,607,951 千円											
	農林水産業施設	3,895,631 千円											
	公共土木施設	2,354,784 千円											
	その他の公共施設	4,219,384 千円											
	その他の被害	7,802,489 千円											
2013.2.25 (平成25) 16時23分	日光市	M6.2。震央地は栃木県北部（北緯 36.9°，東経 139.4°） 深さ 10km 関東地方を中心に、東北地方から中部地方にかけて震度4～1を観測した。 ○県内 ・最大震度 5 強（日光） ・人的被害 — なし ・住家被害 — 一部破損 11 棟（日光） ・被害額 <u>283,742 千円</u> <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td rowspan="3" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">{</td><td>農林水産業施設</td><td>230,242 千円</td></tr> <tr><td>その他の公共施設</td><td>53,000 千円</td></tr> <tr><td>その他の被害</td><td>500 千円</td></tr> </table>	{	農林水産業施設	230,242 千円	その他の公共施設	53,000 千円	その他の被害	500 千円				
{	農林水産業施設	230,242 千円											
	その他の公共施設	53,000 千円											
	その他の被害	500 千円											
2014.9.3 (平成26) 16時24分	日光市	M5.1。震央地は栃木県北部（北緯 36.9°，東経 139.5°） 深さ 7km ○県内 ・最大震度 5 弱（日光） ・人的被害 — なし ・住家被害 — なし ・非住家被害 2 棟（日光）											
2014.9.16 (平成26) 12時28分	足利市 小山市	M5.6。震央地は茨城県南部（北緯 36.1°，東経 139.9°） 深さ 47km ○県内 ・最大震度 5 弱（佐野市・下野市） ・人的被害 — なし ・住家被害 — 一部破損 2 棟（足利・小山）											
2016.11.22 (平成28) 5時59分	被災無	M7.4。震央地は福島県沖（北緯 37.2°，東経 141.3°） 深さ 25 km ○県内 ・最大震度 5 弱（大田原市） ・被害無											
2021.2.13 (令和3) 23時07分	県内 9市町	M7.3。震央地は福島県沖（北緯 37.7°，東経 141.7°） 深さ 55 km ○県内 ・最大震度 5 強（高根沢町・那須町） ・人的被害 — 軽症者 5 名（宇都宮市・栃木市・那須烏山市・那須町） 中等症者 3 名（栃木市・那須烏山市） ・住家被害 — なし ・非住家被害 — 9 棟											

2022. 3. 16 (令和 4) 23 時 36 分	宇都宮市 芳賀町	M7.4。震央地は福島県沖（北緯 37.4°，東経 141.3°） 深さ 57km ○県内 ・最大震度 5 弱（那須町、市貝町、高根沢町、那珂川町） ・人的被害 — 軽症者 1 名（宇都宮市）、中等症者 1 名（宇都宮市） ・住家被害 — なし ・非住家被害 — なし
------------------------------------	-------------	--

(資料／日本被害地震総覧<東京大学出版会>、気象庁より一部引用)

(2) 活火山活動の状況

① 那須岳

年月日	活動の状況	被害の状況
1404年	噴火（茶臼岳爆発）	近傍の諸村に被害あり
1408年 2月24日	水蒸気噴火から始まり、マグマ噴火に移行。爆発的に火山灰や噴石を噴出。火砕流も発生。	那珂川が黄変
1410年 3月 5日	マグマ噴火。火砕流が発生し、積雪が溶かされ融雪型泥流が発生。	死者180人余、牛馬の被害多数。
1846年 8月	水蒸気噴火	
1881年 7月 1日	水蒸気噴火。鳴動、噴石、降灰あり	那珂川の魚に被害。
1942年10月 ～12月	西斜面の噴気活発化	
1943年12月	西斜面の噴気活発化	
1953年10月24日 29日	小規模な水蒸気噴火。旧火口の西側斜面で噴火し、降灰は南 6 km に及ぶ。	
1963年 7月10日 ～11日	7月 10～11日に異常音響あり。	
11月20日	11月20日西斜面で小規模な水蒸気爆発。付近に降灰。	
1977年 1月30日 ～31日	群発地震。有感地震回数4回。 (黒磯で震度3)	
1985年 9月 9日 ～12日 27日 ～29日	北山麓で地震多発。有感。 (福島県下郷町で震度3)	
12月16日	北山麓で地震多発。有感。 (会津若松で震度2)	
1986年 3月12日	山頂北方数 km で地震多発。有感。 (大丸震度4)	
7月 1日 ～ 4日	南西山麓で地震多発。有感。 (会津若松、白河、那須火山で震度2)	

② 日光白根山

年月日	活動の状況	被害の状況
1649年	山頂から水蒸気噴火。降灰多量、新火口生成。	山頂の神社全壊。
1872年 5月14日	水蒸気噴火。南西斜面の中腹に火口生成。噴煙あり。	
1873年 3月12日	水蒸気噴火。降灰あり。	利根川の魚被害。
1889年12月 4日	旧火口から水蒸気噴火。鳴動、降灰あり。片品川が濁る。	
1890年 8月22日	水蒸気噴火。	那珂川の魚に被害。
1952年 7月 ～ 9月	噴煙多量、鳴動あり。	

1-3-7 気象庁の発表する地震情報・緊急地震速報の種類

○気象庁の発表する地震情報の種類

情報の種類	発表基準	内 容
震度速報	・震度3以上	地震発生約1分半後に、震度3以上を観測した地域名（全国を188地域に区分）と地震の揺れの 検知 時刻を速報。
震源に関する情報	・震度3以上 （津波警報又は注意報を発表した場合は発表しない。）	地震の発生場所（震源）やその規模（マグニチュード）を発表。 「津波の心配がない」又は「若干の海面変動があるかもしれないが被害の心配はない」旨を付加。
震源・震度に関する情報	以下のいずれかを満たした場合 ・震度3以上 ・津波警報、注意報発表または若干の海面変動が予想される場合 ・緊急地震速報（警報）を発表した場合	地震の発生場所（震源）やその規模（マグニチュード）、震度3以上の地域名と市町村名を発表。 震度5弱以上と考えられる地域で、震度を入手していない地点がある場合は、その市町村名を発表。
各地の震度に関する情報	・震度1以上	震度1以上を観測した地点のほか、地震の発生場所（震源）やその規模（マグニチュード）を発表 震度5弱以上と考えられる地域で、震度を入手していない地点がある場合は、その地点名を発表
遠地地震に関する情報	国外で発生した地震について以下のいずれかを満たした場合等 ・マグニチュード7.0以上 ・都市部など著しい被害が発生する可能性がある地域で規模の大きな地震を観測した場合。	地震の発生時刻、発生場所（震源）やその規模（マグニチュード）を概ね30分以内に発表。日本や国外への津波の影響についても記述して発表。
その他の情報	・顕著な地震の震源要素を更新した場合や地震が多発した場合など	顕著な地震の震源要素更新のお知らせや地震が多発した場合の震度1以上を観測した地震回数情報等を発表。
推計震度分布図	・震度5弱以上	観測した各地の震度データをもとに、1km四方ごとに推計した震度（震度4以上）を図情報として発表。

○気象庁が発表する緊急地震速報の種類

種類	発表する条件	内 容
緊急地震速報 （警報） （地震動特別警報） （地震動警報）	地震波が2点以上の地震観測点で観測され、最大震度が5弱以上と予測された場合	地震の発生時刻、発生場所（震源）の推定値、地震発生場所の震央地名 強い揺れ（震度5弱以上）が予想される地域及び震度4が予想される地域名 震度6弱以上の揺れが予想される場合は特別警報に位置づけられる
緊急地震速報 （予報） （地震動予報）	最大震度3以上又はマグニチュード3.5以上等と予想されたとき、又は100gal以上の加速度を観測したときに発表される。（機器制御などの高度利用者向けとして提供）	地震の発生時刻、発生場所（震源）の推定値、地震の規模（マグニチュード）の推定値 * 予測される最大震度が震度3以下 ○ 予測される揺れの大きさの最大予測震度 * 予測される最大震度が震度4以上 ○ 地域名 ○ 震度4以上の地域の予測震度 ○ 大きな揺れ（主要動）の予測到達時刻

※ 緊急地震速報（警報）は、地震発生直後に震源に近い観測点で観測された地震波を解析することにより、地震の強い揺れが来る前に、これから強い揺れが来ることを知らせる警報である。ただし、震源付近では強い揺れの到達に間に合わない場合がある。

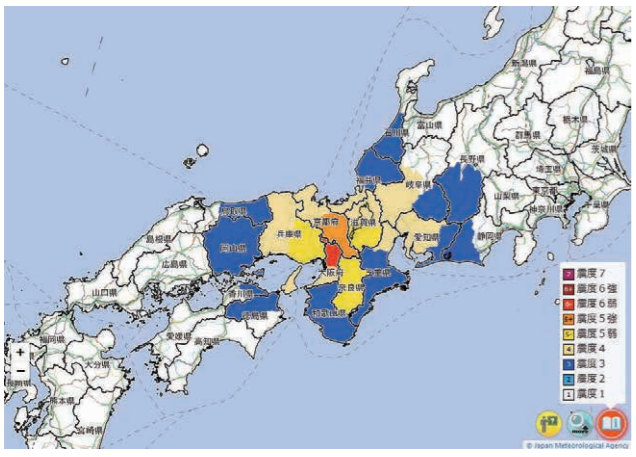
地震情報：情報の流れと内容

日本付近で地震が発生した場合、気象庁ではその発生時刻や震源、マグニチュードなどを解析するとともに、観測された震度のデータなどを収集し、防災対応の初動に迅速に活用できるよう、地震に関する情報を速やかに発表しています。

■ 震度速報

揺れたことをいち早くお知らせ

地震により**震度3以上を観測した場合**に、地震発生から約1分半経過後随時、震度3以上を観測した地域名と地震の揺れの検知時刻を速報します。



■ 震源に関する情報

津波の被害の心配が無いことをお知らせ

震度3以上を観測した地震で、津波の被害のおそれないと予想される場合には、震源やマグニチュードとともに「津波の心配がない」または「若干の海面変動があるかもしれないが被害の心配はない」旨を速報します。
※津波の心配があるときは、津波警報等を発表します。詳しくは、12ページをご覧ください。

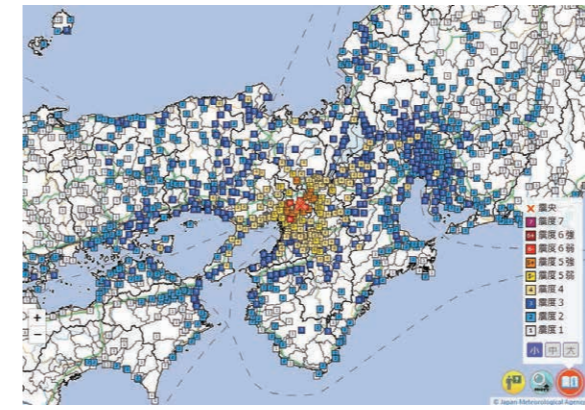


■ 震源・震度情報

市町村や地点ごとの震度を細かくお知らせ

震度1以上を観測した場合や津波警報・注意報・津波予報、緊急地震速報（警報）を発表した場合に、
・地震の震源やマグニチュード
・震度1以上を観測した地点と震度
・震度3以上を観測した地域名と市町村毎の震度を発表します。

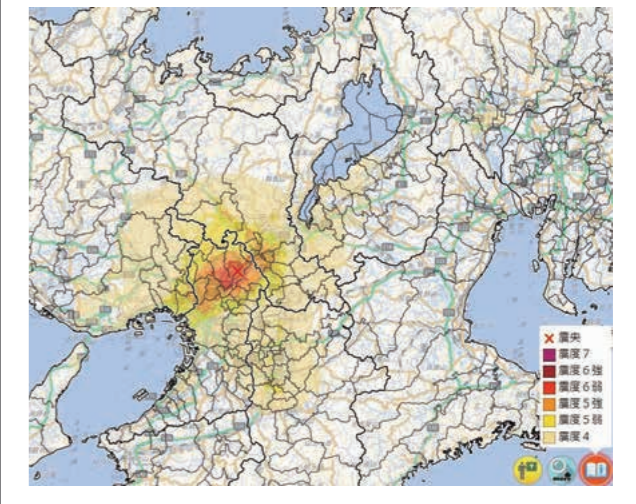
震度5弱以上の揺れがあったと考えられる地域で、震度を入手していない地点がある場合は、その市町村・地点名を発表します。



■ 推計震度分布図

面的な震度を地図上でお知らせ

震度5弱以上を観測した場合に、観測した各地の震度データをもとに、地表付近の地盤の揺れやすさなどを考慮して、250m四方ごとに震度を推計し、震度計のない場所も含めて震度4以上と考えられる地域を表現した図情報を発表します。



地震発生から

1分

震源・マグニチュード計算

3分

震度データの収集

5分

長周期地震動階級計算

10分

推計震度計算

15分

● 震度と揺れなどの状況

震度 0

●人は揺れを感じない。



震度 4

●ほとんどの人が驚く。
●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
●座りの悪い置物が倒れることがある。



震度 1

●屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。



震度 5弱

●大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
●棚にある食器類や本が落ちることがある。
●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



震度 2

●屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。



震度 5強

●物につかまらなさと歩くことが難しい。
●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
●固定していない家具が倒れることがある。
●補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度 3

●屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。



震度 6弱

●立っていることが困難になる。
●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



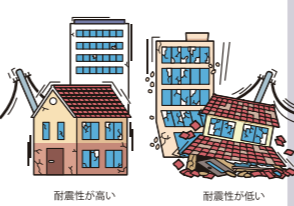
震度 6強

●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



震度 7

●耐震性の低い木造家は、傾くものや倒れるものがさらに増える。
●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

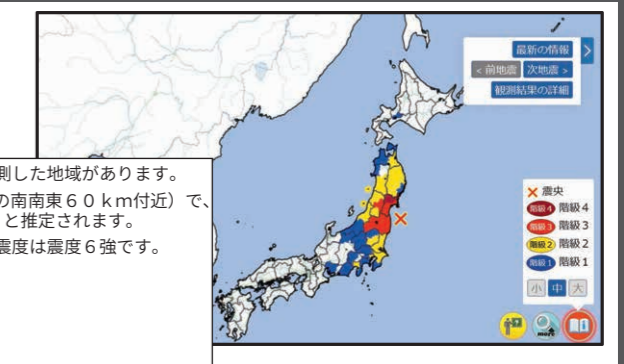


■ 長周期地震動に関する観測情報

震度では表せない長くゆっくりとした揺れの大きさをお知らせ

長周期地震動階級1以上を観測した場合に、観測点で観測された長周期地震動階級などを発表します。「最大震度は4以下であるが、長周期地震動階級が3以上の地域がある」場合には、見出しにその地域を発表します。

16日23時36分ごろの地震により、長周期地震動階級4を観測した地域があります。震源地は、福島県沖（北緯37.7度、東経141.7度、牡鹿半島の南南東60km付近）で、震源の深さは約60km、地震の規模（マグニチュード）は7.3と推定されます。この地震により観測された最大長周期地震動階級は階級4、最大震度は震度6強です。
[長周期地震動階級1以上が観測された地域]
階級4 宮城県北部
階級3 宮城県南部 宮城県中部 山形県村山 福島県中通り 福島県浜通り 福島県会津



- ▶ 地震による揺れは地盤や地形に影響されるため、震度計の設置位置と同じ町・字内であっても場合によっては震度が**1階級程度異なる**場合があります。
- ▶ 浅いところで地震が発生すると、規模が小さくてもごく狭い範囲では人体に感じる揺れとなることがあります。その場合、すぐ近くに震度計がなければ震度1以上の揺れとして観測されず、**地震情報は発表されません**。
- ▶ 推計震度分布図で推計された震度は実際の揺れと1階級程度ずれることがあります。個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、**大きな震度の面的な広がりとその形状に着目してご利用ください**。

1-3-8 南海トラフ地震に関連する情報の種類等

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震 臨時情報	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
南海トラフ地震 関連解説情報	<ul style="list-style-type: none"> 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合(ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く) <p>※すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合があります</p>

「南海トラフ地震臨時情報」に付記するキーワードと各キーワードを付記する条件

キーワード	情報発表条件
調査中	<p>下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ○南海トラフ地震の想定震源域及び海溝軸外側50km程度の範囲内でマグニチュード6.8以上の地震が発生した場合(太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く) ○1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測 ○その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測
巨大地震警戒	<ul style="list-style-type: none"> ○想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0の地震が発生したと評価した場合
巨大地震注意	<ul style="list-style-type: none"> ○監視領域内において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震が発生したと評価した場合(巨大地震警戒に該当する場合、太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い場合は除く) ○想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合
調査終了	<ul style="list-style-type: none"> ○(巨大地震警戒)、(巨大地震注意)のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

1-3-9 本県の活火山の噴火活動史

火山災害の種類と特性、本県に被害を及ぼした火山活動及び参考となる他県の火山活動の特徴を知ることにより、よりの確な対策に資する。

(1) 那須岳

ア 過去1万年間の噴火活動

那須岳においては、約1万6千年前にマグマ噴火が発生し、このときの噴火では、火砕流や降灰が広い範囲に到達したとされている。その後、数千年おきにマグマ噴火を、数十～数百年おきに水蒸気噴火を発生させる活動を行っている。

イ 有史以降の火山活動

記録に残っている噴火活動としては、1408～1410年の噴火が最も活発である。この活動は、1408年2月24日の大規模な水蒸気爆発から始まり、東側山麓に硫黄混じりの火山灰を大量に降らせた。やがてマグマが直接噴火するマグマ噴火に活動が移行し、爆発的に火山灰や噴石を噴出する噴火が起こった。この噴火に伴い火砕流も発生したと考えられている。1410年3月5日にはさらに規模の大きい噴火が発生し、山麓の集落に大打撃を与える災害が発生した。この時の噴火により、高温の火山噴出物が、北西斜面に積もっていた雪を融かし、大規模な泥流となって那珂川に流れ込んだため、那珂川の流域は大洪水に見舞われ、多くの家屋が埋没あるいは流出したと考えられており、180名の人及び多くの家畜が犠牲になったとの記録がある。

これ以降にも、小規模の水蒸気爆発や群発地震活動が何回か起こっている。近年では、1953年や1960年、1963年に小噴火して、多少の降灰が発生している。

(2) 日光白根山

ア 過去1万年間の噴火活動

日光白根山は、過去約1万年の間に現在の日光白根山の山頂付近を火口として、粘性の高い溶岩が、何度か噴出している。

イ 有史以降の火山活動

比較的規模の小さい水蒸気爆発型の活動が、1649年から1890年にかけて5回記録されている。また、1952年には、噴煙多量、鳴動といった異常が記録されており、1993年から1995年にかけては山頂直下での微動が頻発した。

(3) 高原山

ア 過去1万年間の噴火活動

約6500年前に北麓での水蒸気爆発と降灰の活動があり、溶岩ドーム（富士山）の形成があったと推定されている。

イ 有史以降の火山活動

歴史時代の噴火記録は残されていないが、富士山近くの新湯では噴気活動がある。また、富士山付近の地下を震源とする群発地震が1979年2月及び1981～1982年に発生している。

(4) 男体山

ア 過去1万年間の噴火活動

最近1万年間には、山頂火口内に位置する小火口を噴出口とする噴火が少なくとも4回発生した。これらの噴火はマグマ噴火（湖底での水中溶岩噴火）、マグマ水蒸気噴火ないし水蒸気噴火であり、その噴出物は山頂火口内と北東山麓に分布している。最新の噴火は約7000年前に発生したマグマ水蒸気噴火である。

イ 有史以降の火山活動

歴史時代の噴火記録は残されていない。2011年3月から翌年秋にかけ、山頂西側及び山頂から北へ5km付近で構造的な地震活動が活発化した。最大規模の地震は、山頂西側の深さ4kmで発生したM4.2（日光市等で震度3を観測）の地震であった。

1-5-1 過去における主な災害一覧（地震・火山を除く）

年月日	原因 (地域)	概要
1662.7.28 寛文2.6.3	暴風雨	日光大風雨。稻荷川洪水のため沿岸の人家300戸流失、660人死亡。 (栃木風土記)
1667.7 寛文7.6	洪水	日光稻荷川氾らんし東照宮危険となる。 (栃木風土記)
1700.9.30 元禄13.8.18	暴風雨	宇都宮大暴風雨にて民家の8割が倒壊した。 (栃木風土記)
1723.9.9 享保8.8.10	暴風雨 (五十里洪水)	8月8日より大雨降り、9日の夜半より10日にかけて大洪水となり、五十里沼決壊し、鬼怒川、田川沿岸の人畜の死傷無数。家屋流失等による被害甚大。(下野之蚕業他) 決壊した五十里沼は、この年より40年前の天和3年に日光御神料戸板山の山崩れが男鹿川を堰止めてできたと伝えられる。(お天気日本史)
1764年 明和元年	洪水 (源之丞洪水)	宇都宮大洪水となり、新田町(清住町)、池上坂下は6尺以上、宮島は一丈以上の濁流にて流失家屋240戸、水死300余人。
1766.7~10月 明和3.6~8月	洪水	関東りん雨洪水死者多数。五十里洪水とともに徳川時代の大洪水の一つである。 (明治雑記他)
1773.3.29 安永2.3.7	大火	宇都宮大火、死者130人、1,817戸焼失。二荒山神社焼失。 (宇都宮誌)
1783.6~10月 天明3.6~9月	飢きん	諸国寒冷による大飢きんで関東、奥羽で飢死するもの25万人といわれ、下野領内には各地に米騒動を生じた。(栃木風土記)
1813.2.21 文化10.1.21	大火	宇都宮大火、死者10人、2,000軒を焼失。 (宇都宮古事記)
1832.3.24 天保3.2.22	大火	宇都宮本郷町より馬場町まで7町焼失。二荒山神社および末柱を焼失。 (宇都宮城史)
1836.7~8月 天保7.5~8月	飢きん	関東、奥羽諸国寒冷。丙甲の5月より8月まで冷気にて雨天多く、盛夏といえども寒きこと膚をきるが如し常に衣を重ねたり、関東八州奥羽飢民夥し。 (老農関根矢作)
1836.8.29 天保7.7.18	暴風雨	南東の大風雨河川大洪水、午後2時頃より北西の大風にて宇都宮にて家数50軒余吹倒され、雨水洪水家々床に乗る。(老農関根矢作)
1837年 天保8年	火災	此年今市のほとんどを焼く。 (老農関根矢作)
1845.10.10 弘化2.9.10	暴風雨	下野大風雨洪水。 (続泰平年表)
1846.8.7 弘化3.6.16	暴風雨	関東大風雨洪水、鬼怒川、荒川、田川、姿川、小倉川、巴波川、思川近年稀なる洪水で常水より高きこと一丈七尺に及ぶ。潰家14軒、流失1軒、田畑石砂入及び水入2,582町歩。 (日本震災鑑)
1859.8.23 安政6.7.25	暴風雨	日光表は百年來の大洪水大荒れ、日光大日堂池決壊、稻荷川氾らん甚し。 (老農関根矢作)

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
明治 18. 7. 1 (1885 年)	暴風雨	近畿、中部、関東大風雨洪水。 下野の鬼怒川非常の満水の為に宝積橋をも流失した程なれば 四川の水も溢れ、那珂川、渡良瀬川も出水したり。 (明治編年史)	
明治 35. 9. 25~28 (1902 年)	足尾台風	鬼怒川・渡良瀬川大洪水。死者 156、行方不明 63、負傷 280、家 屋全壊 8,217 戸、半壊 389 戸、流失 412 戸、浸水 1,722 戸	降水量 宇都宮 121.7 足尾 315.1
明治 39. 7. 25~28 (1906 年)	台風	渡良瀬川氾らんし死者 63、家屋および農作物の被害多し。	降水量 宇都宮 122.8 日光(花石) 388.8
明治 43. 8. 7~14 (1910 年)	台風 (長雨)	鬼怒川、渡良瀬川氾らんし死者 15、被害甚大なるも詳細不明	降水量 宇都宮 360.6 日光(中宮祠) 1213.9 足尾 623.0 塩原 898.0
明治 44. 4. 6 (1911 年)	火災	矢板扇町より出火烈風にあおられ、同町の四分の一を焼失。焼 失家屋 300 棟、貨車 1 両焼失	
大正 3. 8. 12~13 (1914 年)	台風 (全域)	鬼怒川氾らん、死着 20、負傷 20、行方不明 2、全壊家屋 26 戸、 半壊 87 戸、流失 97 戸、床上浸水 4,777 戸、床下浸水 6,554 戸	降水量 宇都宮 78.4 日光(中宮祠) 316.1 日光(花石) 290.4
大正 8. 9. 14~16 (1919 年)	台風 (全域)	死者 29、行方不明 14、流失家屋 89、倒壊家屋 132 戸、浸水家 屋 1,339 戸、橋梁流失 50 ヶ所、農作物被害 5,000 町歩	降水量 宇都宮 76.4 日光(中宮祠) 641.7 足尾 565.1 日光(花石) 429.0
大正 12. 9. 14~16 (1923 年)	台風 (全域)	河川氾らん。土木被害、農作物の被害大(詳細不明)	降水量 宇都宮 79.5 日光(中宮祠) 426.9 日光(花石) 326.4 足尾 299.8 塩原 299.0
昭和 2. 4. 4~5 (1927 年)	大雨 (全域)	渡良瀬川、巴波川、永野川、思川氾らん。浸水家屋 1,500 戸(足 利)、同 1,000 戸(三和村、毛野村)、同 350 戸(宇都宮)、同市 内の 8 割(栃木)、田畑の浸・冠水 1,630 町歩	降水量 宇都宮 124.0
昭和 13. 8. 30~9. 1 (1938 年)	台風 (全域)	死者 8、傷者 8、家屋全壊 204 戸、同半壊 125 戸、同流失 248 戸、床上浸水 5,914 戸、床下浸水 10,431 戸、橋梁流失 92、堤 防決壊 63、道路決壊 41、田畑の冠水 2,836 町歩	降水量 宇都宮 162.5 足尾 429.6 日光(花石) 431.8 黒部 384.3
昭和 16. 7. 21~23 (1941 年)	台風 (全域)	死者 4、傷者 1、行方不明 1、全壊家屋 3 戸、流失家屋 13 戸、 床上浸水 8,225 戸、床下浸水 19,200 戸、橋梁流失 13、道路決 壊 63、堤防決壊 31、田畑流失 16,348 町歩	降水量 宇都宮 229.5 塩原 432.2 日光(中宮祠) 323.2 足尾 328.0
昭和 22. 9. 14~15 (1947 年)	カスリー ン台風 (全域)	渡良瀬川氾らんし足利市大洪水となる。死者 361、行方不明 76、 傷者 549、被災者 214,895 人、倒壊家屋 1,432 戸、流失家屋 817 戸、浸水家屋 44,610 戸、水田流失 469 町歩、水田冠水 11,774 町歩、畑流失 357 町歩、畑冠水 3,661 町歩、導路決壊 178、橋 梁流失 215、堤防決壊 235 被害総額 8,480,000 千円	降水量 宇都宮 261.7 日光(中宮祠) 470.7 足尾 385.1 黒部 417.1

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
昭和 23. 9. 15～17 (1948 年)	アイオン 台風 (全域)	死者 2、負傷 8、行方不名 1、家屋全壊 39 戸、同半壊 16 戸、同 流失 13 戸、床上浸水 822 戸、床下浸水 3,343 戸、田流失 149 町歩、畑冠水 1,404 町歩、道路決壊 70、橋梁流失 27、堤防決 壊 86 被害総額 2,553,230 千円	降水量 宇都宮 165.4 日光(中宮祠) 537.9 足尾 300.4 黒部 356.2 塩原 353.0
昭和 24. 8. 30～9. 1 (1949 年)	キテイ台 風 (全域)	死者 12、負傷 37、家屋全壊 248 戸、同半壊 2,318 戸、家屋流 失 28 戸、床上浸水 722 戸、床下浸水 1,493 戸、非住家被害 1,818 棟、田流失 86 町歩、田冠水 2,564 町歩、畑流失 71 町歩、畑冠 水 1,194 町歩、道路不通 66、橋梁流失 68、堤防決壊 73、鉄道 不通 40、通信線不通 286 件 被害総額 4,509,083 千円	降水量 宇都宮 86.4 日光(中宮祠) 626.6 塩原 425.6 足尾 446.1 五十里 389.2 最大風速 宇都宮 SE23.9
昭和 34.9.27 (1959 年)	伊勢湾台 風 (全域)	負傷 4、家屋全壊 44 戸、同半壊 70 戸、床上浸水 7 戸、床下浸 水 19 戸、家屋破損 1,222 棟、非住家被害 880 棟、水陸稲の被 害 41,000ha	降水量 宇都宮 76.5 日光(中宮祠) 417.0 湯西川 368.0 五十里 253.0 最大風速 宇都宮 SSE23.8
昭和 41.6.28 (1966 年)	台風 4 号 (全域)	家屋全壊 1 戸、同半壊 3 戸、床上浸水 164 戸、床下浸水 2,564 戸、水陸稲の被害 1,734ha、土木被害 647、農林施設被害 278、 山崩れ 14 被害総額 1,837,562 千円	降水量 宇都宮 181 日光(中宮祠) 207 湯西川 215 黒田原 223 塩原 212 最大風速 宇都宮 21.8
昭和 41. 9. 24 (1966 年)	台風 26 号 (全域)	死者 12、負傷 51、家屋全壊 167、同半壊 588、一部破損 11,632、 床上浸水 363、床下浸水 6,499、非住家被害 17,369、水陸稲被 害 3,900ha、土木被害 799、鉄道不通 19、通信被害 1,014 回線、 山・がけくずれ 88 被害総額 5,451,819 千円	降水量 宇都宮 158 日光(中宮祠) 319 足尾 233 五十里 228 塩原 243 湯西川 242
昭和 45. 1. 31～2. 1 (1970 年)	低気圧 強風雨 (全域)	低気圧(台湾坊主)。 重傷 2、軽傷 9、家屋全壊 4、同半壊 52、一部破損 142、非住家 被害 236 被害総額 147,210 千円	
昭和 45.6.29 (1970 年)	火災	佐野市医療法人秋山会両毛病院より出火。病棟 1 棟全焼 331.65 ㎡、死者 17 名	
昭和 45.8.6 (1970 年)	突風、降 ひょう (上三川 町、南河 内町)	8 月 6 日降ひょうを伴う突風。 重傷 1、軽傷 4、家屋全壊 1、同半壊 3、一部破損 73 被害総額 179,566 千円	
昭和 45.9.10 (1970 年)	火災	宇都宮市福田屋百貨店。鉄筋コンクリート地下 2 地上 8 階延 13,285.27 ㎡全焼、負傷 9 損害額 1,420,205 千円	
昭和 46.3.11 (1971 年)	火災	足利市名草中学校より出火。全焼 14 棟、半焼 3 棟、部分焼 9 棟、負傷 2 損害額 37,410 千円	
昭和 46.3.17 (1971 年)	火災	藤岡町森メリヤス工業藤岡工場より出火。全焼 14 棟 損害額 172,741 千円	

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
昭和 46. 3. 17 (1971 年)	火災	烏山町宮原。全焼 44 棟、部分焼 2 棟、負傷 5 損害額 31,525 千円	
昭和 46. 8. 31~9. 1 (1971 年)	台風 23 号 (全域)	死者 1、負傷 3、家屋一部破損 2 棟、床上浸水 1 棟、床下浸水 812 棟、土木施設被害 25 被害総額 4,859,036 千円	降水量 宇都宮 169 日光(中宮祠) 305 湯西川 222 日光(花石) 364 佐野 127 黒田原 126 最大風速 宇都宮 15.2
昭和 47. 9. 16~17 (1972 年)	台風 20 号 (全域)	死者 1、負傷 3、家屋全壊 1 棟、半壊 1 棟、一部破損 6 棟、床上浸水 48 棟、床下浸水 416 棟、非住家被害 110 棟、道路 66、橋りょう 30、河川 292、砂防 16、水道 15、がけくずれ 32、鉄道不通 2、通信被害 40 回線 被害総額 2,731,627 千円	降水量 宇都宮 193 日光(中宮祠) 533 湯西川 325 佐野 152 黒田原 113 最大風速 宇都宮 14.7
昭和 48. 3. 25~26 (1973 年)	林野火災 (葛生町、栃木市、岩舟町)	葛生町大字中の山林から出火、栃木市柏倉地区、岩舟町小野寺地区に延焼。焼失面積 17,124a 被害総額 59,067 千円	
昭和 48. 3. 25~27 (1973 年)	林野火災 (田沼町)	田沼町大字作原の山林から出火。焼失面積 6,274a 被害額 100,510 千円	
昭和 49. 8. 26~9. 9 (1974 年)	台風及び豪雨 (全域)	台風 14 号(8.25~26) 台風 16 号(8.31~9.2) 豪雨(9.9) 家屋一部破損 1、床上浸水 4、床下浸水 202、道路 147、橋りょう 12、河川 379、砂防 6、がけくずれ 1、鉄道不通 2 被害総額 3,386,163 千円	降水量 14 号 16 号 宇都宮 86 133 日光(中宮祠) 398 327 湯西川 186 110 佐野 31 103 黒田原 84 25
昭和 50. 5. 6~7. 17 (1975 年)	降ひょう (芳賀 河内 塩谷 下都賀 上都賀 那須(南) の各都市)	5 月 6、20、27、29 日 6 月 3、9、27 日 7 月 17 日 農作物被害 1,278,047 千円	
昭和 51. 5. 26~7. 19 (1976 年)	豪雨と台風 9 号 (那須・塩谷 両都市を のぞく 県下各地)	5 月 26 日、6 月 5 日、7 月 13 日、19 日 床上浸水 176、床下浸水 691、農業施設等 93、公共土木施設 232、林業関係施設 68 被害総額 1,531,421 千円	降水量 5 月 26 日 佐野 159 足利 135 宇都宮 69 6 月 4~5 日 宇都宮 113 栃木 130 真岡 173 日光(花石) 136 上三川 144

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
昭和 51. 9. 8～9. 14 (1976 年)	台風 17 号 と豪雨 (全域)	重傷 1、軽傷 1、全壊 2、半壊 7、一部破損 37、床下浸水 6、非住家被害 40、農業用施設 1、公共土木施設 83、林業関係施設 13 被害総額 473,985 千円	降水量 8 日 日光 107 9 日 真岡 52 馬頭 75 高根沢 61 11 日 今市 79 13 日 日光(花石) 133 藤原 84
昭和 51. 7 月～9 月 (1976 年)	異常低温 (全域)	農作物被害 8,694,971 千円	
昭和 52. 3. 15～16 (1977 年)	林野火災 (黒羽町、 馬頭町)	黒羽町大字北滝の非住家から出火(放火)、馬頭町に延焼。 林野焼失面積 1,517ha、住家等被害 36 被害総額 3,508,951 千円	
昭和 52. 6 月～7 月 (1977 年)	降ひょう (全域)	農作物被害 1,601,375 千円	
昭和 52. 8. 13～8. 19 (1977 年)	豪雨 (全域)	床下浸水 27、非住家被害 8、道路 134、橋りょう 11、河川 305、砂防 3、農業施設 38、治山 1、林業施設 18 被害総額 2,678,053 千円	降水量 13 日 栗野 109 足利 107 鹿沼 101 17 日 那須 215 黒磯 138 足尾 114 日光(花石) 140 藤原 109
昭和 52. 9. 3～9. 4 (1977 年)	豪雨 (黒磯市、 那須町)	黒磯市、那須町を中心とする集中豪雨被害。 軽傷 1、半壊 2、床上浸水 65、床下浸水 556、非住家 7、道路 22、橋りょう 3、河州 24、農業施設 91 被害総額 906,228 千円	降水量 3 日 黒磯 355 (1 時間最大 117)
昭和 53. 7. 10～7. 12 (1978 年)	豪雨 (県西部)	死者 1、重傷 1、一部破損 19、床上浸水 1、床下浸水 172、非住家 6、田流失・埋没 57.28ha、道路 43、河川 62 被害総額 809,602 千円	降水量 10～11 日 那須 73 矢板 106 日光 134 今市 165 足利 77 佐野 42
昭和 54. 10. 19 (1979 年)	台風 20 号 (全域)	死者 1、重傷 2、軽傷 3、住家全壊 1、半壊 7、一部破損 21、床上浸水 3、床下浸水 31、非住家被害 33、り災者 11 世帯 39 人 農林水産業施設 57、公共土木施設 327、その他 37 農産被害 422,607 千円 被害総額 2,757,455 千円	降水量 18～19 日 宇都宮 90.5 日光 323.5 最大瞬間風速 宇都宮 S24.8 日光 W28.6
昭和 55. 3. 23 (1980 年)	土砂崩れ (田沼町)	鉾山廃土石堆積場から土砂流出。 死者 5、重傷 1、全壊 2、非住家 3、り災者 2 世帯 6 名	
昭和 55. 11. 20 (1980 年)	火災 (藤原町)	川治プリンスホテルの火災。 鉄骨木造瓦葺鉛メッキ鋼板葺一部陸屋根 4 階、焼損面積 3、582 平方メートル、死者 45 名、負傷者 22 名 損害額 533,751 千円	
昭和 55. 7～9 月 (1980 年)	冷害 (全県)	異常低温による冷害 損害額 10,505,153 千円	

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
昭和 55. 12. 23～12. 24 (1980 年)	雪害 (黒羽町、 那須町)	八溝北部山系の豪湿雪による杉折損、倒伏。 被害面積 1,860ha 損害額 1,050,000 千円	24 日 積雪 (cm) 八溝 30 最大風速 那須 NW18
昭和 56. 7 月 (1981 年)	豪雨 (県央、県 東部)	住家全壊 1、半壊 1、床上浸水 174、床下浸水 511、り災者 165 世帯 504 人 農林水産業施設 217、公共土木施設 173、その他の公共施設 5、その他 54 被害総額 1,118,104 千円	降水量 13 日 八溝山 74 日光 52 真岡 80 14 日 高根沢 116 宇都宮 56 鳥山 51 17 日 足利 63 宇都宮 50 21 日 足尾 66 宇都宮 45
昭和 56. 8. 22～8. 23 (1981 年)	台風 15 号 (県全域)	住家一部破損 15、床上浸水 5、床下浸水 22、り災者 5 世帯 20 人 農林水産業施設 207、公共土木施設 508、その他の公共施設 11、その他 129 被害額 農林水産業施設 534,265 千円 公共土木施設 2,742,715 千円 その他の公共施設 134,438 千円 農産被害 1,764,382 千円 林産被害 74,310 千円 被害総額 6,339,760 千円	降水量 22～23 日 日光 590 足尾 400 宇都宮 86 土呂部 368 最大風速 23 日 那須 WNW25
昭和 57. 4. 16～6. 20 (1982 年)	降ひょう (那須 塩谷 河内 芳賀 上都賀 下都賀 安蘇 の各郡 市)	4 月 16 日 5 月 18 日、25 日 6 月 8 日、9 日、20 日 農産被害 1,314,970 千円	
昭和 57. 8. 1～8. 3 (1982 年)	台風 10 号 (全域)	半壊 7、一部破損 73、床上浸水 74、床下浸水 460、非住家被害 6、り災者 80 世帯 255 人 被害額 公共文教施設 (26 ヶ所) 5,651 千円 農林水産業施設 874,740 千円 公共土木施設 (669 ヶ所) 3,727,647 千円 その他の公共施設 36,855 千円 農産被害 7,384,600 千円 林産被害 32,836 千円 その他の被害 919,001 千円 被害総額 12,981,330 千円	降水量 1 日 日光 332.5 2 日 日光 211.5 3 日 宇都宮 130.5 最大風速 2 日 五十里 S20.0 日光 ENE17.8 宇都宮 SSE12.3
昭和 57. 9. 12～9. 13 (1982 年)	台風 18 号 (全域)	重傷 1、軽傷 4、全壊 1、半壊 2、一部破損 13、床上浸水 187、床下浸水 1,841、り災者 209 世帯 685 人 被害額 農林水産業施設 1,924,095 千円 公共土木施設 (1,264 ヶ所) 6,990,216 千円 農産被害 3,929,110 千円 林産被害 3,012 千円 その他の被害 3,515,946 千円 被害総額 16,362,379 千円	降水量 12 日 100 mm 以上 最大 土呂部 343 最大風速 日光 NE11.6 鳥山 E13.0 宇都宮 NNE12.1

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・最大風速 (m/s) ・その他
昭和 58. 2. 11~2. 15 (1983 年)	林野火災 (益子町)	益子町大字上大羽地内の林野から出火(原因不明)。 林野(国有林)焼失面積 20. 08ha 被害総額 24, 986 千円(赤松、杉、桧等)	(益子) 天気 晴 気温 7. 5℃ 風向 南西 平均風速 4. 8m/s 最大風速 7. 0m/s 実効湿度 60%
昭和 58. 8. 15~8. 18 (1983 年)	台風 5 号 及び 6 号 (県全域)	重傷者 1、床下浸水 2、崖くずれ 1、鉄道不通 1、道路通行止 15 被害額 農林水産業施設 134, 136 千円 公共土木施設(470 ヶ所) 3, 957, 200 千円 農産被害(水稲、野菜、桑等) 82, 600 千円 <u>その他 1, 183, 800 千円</u> 被害総額 5, 357, 736 千円	最大降水量(17 日) 日光 306. 5 方塞山 246 総降水量 日光 669. 5 方塞山 510 八方原 430 最大風速(17 日) 日光 NE11. 2
昭和 58. 9. 27~9. 29 (1983 年)	台風 10 号 (おおむね 県 全 域)	崖くずれ 1、道路通行止 3 被害額 農林水産業施設 85, 000 千円 <u>公共土木施設(387 ヶ所) 1, 582, 200 千円</u> 被害総額 1, 667, 200 千円	最大降水量(28 日) 土呂部 101 日光 122 今市 114 鹿沼 100 佐野 84 最大風速 那須 N8 (29 日) 宇都宮 N9 (28 日) 小山 NNE8 (29 日)
昭和 59. 1~3 月 (1984 年)	雪害 凍害 寒干害等 (おおむね 県 全 域)	被害額 農林水産業施設 26, 763 千円 公共土木施設(道路 400 ヶ所) 1, 396, 562 千円 農産被害 82, 270 千円 林産被害 346, 570 千円 <u>その他の公共施設 2, 013 千円</u> 被害総額 1, 854, 178 千円	<ul style="list-style-type: none"> 日最低気温 0℃未満の冬日が 3 月 15 日までの 75 日間連続した。(58 年 12 月 12 日から連続 95 日間で累年第 1 位である。) 2 月の平均気温は -0. 7℃ で 平年より 3. 1℃ も低かった。(記録上第 2 位、S20. 第 1 位)
昭和 60. 6. 24~7. 19 (1985 年)	梅雨前線 豪雨及び 台風 6 号 (県 下 全 域)	床上浸水 1、床下浸水 149、り災者 1 世帯 4 人、崖くずれ 3、電 話 436 回線、電気 1, 455 戸 被害額 農林水産業施設 330, 157 千円 公共土木施設(1, 433 ヶ所) 9, 005, 004 千円 その他の公共施設 6, 200 千円 農産被害 122, 659 千円 <u>その他 1, 909, 876 千円</u> 被害総額 11, 373, 896 千円	降水量 6 月 30 日 大田原 103 宇都宮 117 栃木 103 7 月 3 日 日光 165 足尾 103 最大風速(7 月 1 日) 日光 WSW11. 2
昭和 61. 2. 1~2. 28 (1986 年)	低温 (県中央、 県北部)	被害額 <u>公共土木施設(292 ヶ所) 1, 726, 918 千円</u> 被害総額 1, 726, 918 千円	1 月の平均気温 日光 - 6. 5℃ (平年 - 4. 0℃) 月をとおしてかなり低い 気温が続いた。

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・最大風速 (m/s) ・その他				
昭和 61. 8. 4～8. 5 (1986 年)	台風 10 号 及びその 後の低気 圧による 大雨 (県下全 域)	被 人 害 的	死者	人	6	7 月 29 日 21 時、フィ リピン東方海上に発生 した弱い熱帯低気圧が 8 月 1 日 3 時、ルソン 島の東で台風第 10 号 となった。その後、台 風は北東進して沖大東 島の南を通り、中心気 圧 985mb の勢力を保ち ながら、速度を速めて 4 日には本州の南方海 上に達した。 一方、千島付近に中心 を持つ冷涼な高気圧が あって、北日本から東 日本に張り出していた。 この状況下で台風 は 4 日 21 時、石廊崎の 南約 1.20km の海上で 温帯低気圧 (980mb) に 変わり、5 日未明にか けて房総半島を縦断し たが、その後、進行速 度がきわめて遅くなり 、6 日朝には三陸沖 でほとんど停滞状態と なった。台風がもたら した高温多湿な気流に よって低気圧に伴う前 線が活発化したこと と、低気圧の移動速度 が遅くなったことが相 まって、総雨量が 300 ～400mm という多量の 雨が広い地域で降っ た。 降水量	
			行方不明者	人	0		
			負傷者	重傷	人		7
		軽傷		人	59		
		住 家 被 害	全壊	棟	37		
				世帯	36		
				人	129		
			半壊	棟	100		
				世帯	94		
				人	370		
			一部損壊	棟	83		
				世帯	79		
				人	321		
			床上浸水	棟	1,849		
				世帯	1,799		
				人	6,900		
		床下浸水	棟	7,965			
			世帯	7,941			
			人	19,741			
		非住家	公共建物	棟	6		
			その他	棟	94		
		そ の 他	田	流出・埋没	ha		557.3
				冠水	ha		16,805.4
			畑	流出・埋没	ha		103.2
				冠水	ha		2,449.4
			文教施設	箇所	32		
			病院	箇所	8		
			道路	箇所	1,642		
			橋りょう	箇所	36		
			河川	箇所	1,925		
			砂防	箇所	678		
			清掃施設	箇所	2		
			崖くずれ	箇所	66		
			鉄道不通	箇所	3		
			水道	戸	16,036		
			電話	回線	5,596		
			電気	戸	16,225		
			ガス	戸	-		
			ブロック塀等	箇所	-		
			り災世帯数	世帯	1,929		
			り災者数	人	7,399		
		公立文教施設	千円	128,846			
		農林水産業施設	千円	9,409,970			
		公共土木施設	千円	22,649,591			
		その他の公共施設	千円	554,739			
小計	千円	32,743,146					
公共施設被害市町村数	団体	48					
そ の 他	農産被害	千円	6,619,080				
	林産被害	千円	48,311				
	畜産被害	千円	24,680				
	水産被害	千円	75,634				
	商工被害	千円	5,451,977				
	その他	千円	7,013,971				
被害総額	千円	51,976,799					
栃木県災害対策本部	設置	8 月 5 日 10 時 10 分					
	解散	10 月 14 日 10 時 00 分					
災害対策本部設置市町村数		17					
災害救助法適用市町村数		3					
消防職員出動延人数		2,139					
消防団員出動延人数		9,212					
			地点名	4 日	5 日	合計	
			那須	169	136	305	
			五十里	132	63	195	
			八方原	202	108	310	
			黒磯	128	134	262	
			八溝山	131	106	237	
			土呂部	167	67	234	
			大田原	146	142	288	
			日光	184	32	216	
			今市	160	53	213	
			塩谷	138	84	222	
			足尾	132	19	151	
			方壱山	190	28	218	
			高根沢	155	177	332	
			烏山	157	146	303	
			鹿沼	148	67	215	
			宇都宮	153	94	247	
			葛生	150	24	174	
			真岡	170	141	311	
			足利	147	10	157	
			佐野	157	23	180	
			栃木	140	33	173	
			小山	158	34	192	

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
昭和 61. 9. 2～9. 3 (1986 年)	台風 15 号 (県全域)	床下浸水 27 被害額 農林水産業施設 8,500 千円 公共土木施設 (39ヶ所) 387,913 千円 その他の公共施設 550 千円 農産被害 525,861 千円 その他 854,800 千円 被害総額 1,777,624 千円	降水量 2～3 日 五十里 158 八方原 310 土呂部 207 日光 329 今市 199 塩谷 146 足尾 191 方塞山 327
昭和 62. 4. 1～4. 16 (1987 年)	凍霜害 (県南西部、県東部、県北部)	高気圧におおわれ、上空には強い寒気も入り放射冷却が加わって各地で最低気温が氷点下まで下がった。 農産被害(なし、麦類等) 3,628,800 千円	
昭和 62. 5. 10～5. 12 (1987 年)	林野火災 (栗山村)	栗山村大字川俣字鬼怒沼国有林 33 林班ほ 1 班から出火(原因不明) 焼失面積 73.06ha 損害額 53,287 千円	天候:晴れ 気温:18.6℃ 風向:東南東 平均風速:3.0m/s 最大風速:9.6m/s 湿度:36.6% 最終降雨日:5/3、1mm
昭和 62.9. 10 (1987 年)	雷雨 (県全域)	前線が本県をゆっくり通過したため地表付近の昇温も加わって熱的界雷が発生した。 床上浸水 55、床下浸水 516、り災者 59 世帯、193 人 被害額 公立文教施設 7,282 千円 農林水産業施設 808,650 千円 公共土木施設 3,850,960 千円 その他の公共施設 35,887 千円 農産被害 1,907,378 千円 林産被害 2,340 千円 畜産被害 2,100 千円 その他 673,000 千円 被害総額 7,287,597 千円	降水量 10 日 八方原 136 八溝山 100 土呂部 116 大田原 153 宇都宮 121
昭和 63. 8. 10～8. 13 (1988 年)	豪雨 (おおむね 県 全 域)	床上浸水 10、床下浸水 34、非住家被害 6、り災者 10 世帯 28 人、田の流失・埋没 5.61ha、畑の流失・埋没 2.09ha、道路 199、橋梁 3、河川 572、砂防 16、電話 384 回線、電気 470 戸 被害額 農林水産業施設 333,518 千円 公共土木施設 5,636,031 千円 林産被害 28 千円 その他 381,430 千円 被害総額 6,351,007 千円	降水量 10 日 日光 56 今市 59 宇都宮 56 真岡 58 11 日 八方原 212 日光 197 今市 170 鹿沼 95 栃木 85 12 日 八方原 78 八溝山 92 鹿沼 68 宇都宮 79 栃木 78
昭和 63. 7 月～9 月 (1988 年)	異常気象 (県全域)	低温及び日照不足等の異常気象のため農作物の生育遅延、病害虫の発生等による被害 総被害面積 81,400ha 総被害額(農産被害) 20,738,278 千円	

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
平成元年 7.25～7.27 (1989年)	大雨 (おおむね県全域)	床下浸水 41、道路 13、河川 91、砂防 1、電話 784 回線 被害額 農林水産業施設 18,000 千円 公共土木施設 981,647 千円 その他 100,500 千円 被害総額 1,100,147 千円	降水量 25日 八方原 33 日光 50 塩谷 41 方塞山 70 宇都宮 28 26日 八方原 102 日光 69 塩谷 111 方塞山 75 宇都宮 108 足利 78 27日 日光 37 方塞山 47
平成元年 8.6～8.7 (1989年)	台風13号 (県央、県北、県東部)	床下浸水 3、道路 41、河川 65、電話 555 回線 被害額 農林水産業施設 13,000 千円 公共土木施設 897,783 千円 その他の公共施設 220 千円 農産被害 168,370 千円 その他 35,100 千円 被害総額 1,114,473 千円	降水量 6日 那須 81 八溝山 101 土呂部 102 日光 97 方塞山 102 鳥山 63
平成元年 8.26～8.28 (1989年)	台風17号 (おおむね県全域)	床下浸水 41、道路 123、橋梁 6、河川 276、砂防 1、電話 359 回線 被害額 農林水産業施設 307,125 千円 公共土木施設 3,216,038 千円 その他の公共施設 16,000 千円 農産被害 28,767 千円 林産被害 290 千円 その他 426,325 千円 被害総額 3,994,545 千円	降水量 26日 八方原 56 土呂部 25 日光 34 今市 30 方塞山 29 宇都宮 26 小山 45 27日 那須 203 八方原 224 八溝山 154 土呂部 209 日光 275 今市 122 方塞山 182 宇都宮 70 真岡 55 小山 31
平成2. 3月下旬 ～4月上旬 (1990年)	低温 (県全域)	3月下旬から4月上旬にかけて、最低気温が氷点下となる日が数日あり各地で降霜があった。このため、暖冬で平年に比べやや生育の進んでいた麦類に幼穂凍死等の被害が発生した。 総被害面積 2,312ha 総被害金額(農産被害) 1,354,399 千円	最低気温 宇都宮 真岡 3/22 -0.1 -3.8 3/26 -1.0 -3.7 3/27 -2.2 -5.2 4/5 4.4 4.4 4/6 1.0 -0.6 4/7 1.6 -0.7 塩谷 鳥山 鹿沼 -3.8 -2.6 -2.3 -1.6 1.2 -3.6 -3.6 -2.7 -3.8 -1.1 -0.8 -0.1 -1.7 -1.4 -0.8 -1.6 -1.4 -0.1

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
平成 2. 8. 9～8. 11 (1990 年)	台風 11 号 (県全域)	軽傷 1(小山市)、一部破損 1、床上浸水 10、床下浸水 109、非住家 22、り災者 10 世帯 35 人、道路 263、橋梁 7、河川 705、砂防 29、崖くずれ 23、電話 197 回線 被害額 農林水産業施設 647, 798 千円 公共土木施設 11, 436, 309 千円 その他の公共施設 24, 300 千円 農産被害 266, 140 千円 その他 1, 522, 318 千円 被害総額 13, 896, 865 千円	降水量 9 日 10 日 那須 4 136 五十里 38 169 八方原 104 244 土呂部 39 277 日光 78 397 今市 33 206 塩谷 68 139 足尾 36 251 方寒山 62 281 鹿沼 44 152 宇都宮 13 113 葛生 10 181 足利 43 110 佐野 15 121
平成 2. 9. 19～9. 20 (1990 年)	竜巻及び 台風 19 号 (おおむね 県 全 域)	台風第 19 号の影響下の 19 日 22 時 20 分頃、壬生町から宇都宮市にかけて竜巻が発生し、軽傷者及び住家の被害等がでた。 軽傷 25(宇都宮市、壬生町)、全壊 30、半壊 37、一部破損 343、床下浸水 16、非住家 335、り災者 67 世帯 227 人、文教施設 1、道路 37、橋梁 1、河川 41、水道 2 戸、電話 510 回線、電気 170 戸 被害額 公立文教施設 4, 082 千円 農林水産業施設 85, 000 千円 公共土木施設 945, 683 千円 その他の公共施設 3, 000 千円 農産被害 313, 910 千円 商工被害 5, 500 千円 その他 384, 100 千円 被害総額 1, 741, 275 千円 ※避難勧告実施壬生町(9/20 0:20 頃 避難数 5 世帯 13 人)	降水量 19 日 20 日 那須 54 55 八方原 73 70 土呂部 65 125 日光 95 150 今市 93 57 塩谷 38 27 足尾 74 104 鹿沼 61 23 葛生 95 27 足利 69 19 佐野 75 15
平成 3. 8. 20～8. 21 (1991 年)	台風 12 号 (県全域)	全壊 2、半壊 3、一部損壊 1、床上浸水 73、床下浸水 795、非住家 141、り災者 82 世帯 258 人、田の流出・埋没 12. 00ha、畑の流出・埋没 0. 04ha、文教施設 5、道路 265、橋梁 28、河川 670、砂防 31、崖崩れ 54、水道 5 戸、電話 583 回線 被害額 公立文教施設 6, 472 千円 農林水産業施設 1, 396, 699 千円 公共土木施設 15, 204, 197 千円 その他の公共施設 144, 920 千円 農産被害 324, 579 千円 水産被害 1, 762 千円 その他 1, 221, 201 千円 被害総額 18, 299, 830 千円	降水量 20 日 21 日 五十里 135 67 八方原 227 167 黒磯 82 122 日光 362 66 今市 218 63 塩谷 150 78 足尾 204 60 鹿沼 152 35 宇都宮 126 17 葛生 184 45 足利 131 36 佐野 146 76 栃木 171 61 小山 141 4
平成 3. 9. 18～9. 19 (1991 年)	台風 18 号 (県全域)	軽傷 1(藤岡町)、全壊 1、床上浸水 2、床下浸水 168、非住家 27、り災者 3 世帯 11 人、文教施設 1、道路 118、橋梁 3、河川 151、砂防 1、崖崩れ 51、電話 412 回線 被害額 公立文教施設 5, 553 千円 農林水産業施設 945, 000 千円 公共土木施設 2, 154, 554 千円 その他の公共施設 22, 418 千円 その他 576, 300 千円 被害総額 3, 703, 825 千円	降水量 19 日 那須 156 八方原 113 日光 145 今市 146 高根沢 140 烏山 151 宇都宮 118 真岡 145 小山 129

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
平成 3. 10. 11～10. 13 (1991 年)	台風 21 号 (おおむね 県 全 域)	床下浸水 31、非住家 3、文教施設 1、道路 9、橋梁 1、河川 32、崖崩れ 6、電話 217 回線 被害額 公立文教施設 1,322 千円 農林水産業施設 96,000 千円 公共土木施設 1,660,331 千円 その他の公共施設 5,000 千円 その他 103,500 千円 被害総額 1,866,153 千円	降水量 11 日 八方原 117 今市 132 鹿沼 101 宇都宮 74 足利 132 佐野 90
平成 3. 8 月末～10 月 中旬 (1991 年)	台風及び 長雨 (県全域)	8 月 31 日の台風第 14 号に伴う大雨、9 月に入り、8 日の台風第 15 号に伴う大雨、13～14 日の台風第 17 号に伴う大雨、19 日の台風第 18 号に伴う大雨、28 日の台風第 19 号に伴う強風、10 月に入り 6～13 日にかけて秋雨前線を活発化させた台風第 21 号により大雨など長期間に渡り、雨(風)の日が断続的に続いたことにより、多大な農産・畜産被害が発生した。 被害額 農産被害 3,336,018 千円 畜産被害 2,700 千円 被害総額 3,338,718 千円	
平成 4. 5. 20～5. 27 (1992 年)	降ひょう 竜巻(県 北東部を 除く地 域)	連日の降ひょう及び 5 月 23 日の竜巻により農作物、農業用施設に被害が発生した。 被害額 農産被害(なし、ぶどう、麦等) 988,767 千円 農林水産業施設 87,009 千円 その他 72,000 千円 被害総額 1,147,776 千円	
平成 4. 9. 4 (1992 年)	突風 降ひょう (県中部、 県東部、 県西部)	益子町及び真岡市の一部に突風が発生し、住家被害を受けたほか、宇都宮市東部及び芳賀郡内で降ひょうのため農作物に被害が発生した。 全壊 1、一部損壊 64、床下浸水 2、非住家 7、り災者 1 世帯 7 人、電話 1,288 回線 被害額 農林水産業施設 14,193 千円 農産被害 1,328,477 千円 その他 122,000 千円 被害総額 1,464,671 千円	降雨 宇都宮 55 真岡 51 最大風速 宇都宮 12 真岡 6
平成 4. 10. 19～10. 20 (1992 年)	大雨 (県北部、 県南西 部)	道路 25、河川 69、砂防 6 被害額 公共土木施設 1,432,035 千円 その他 40,000 千円 被害総額 1,472,035 千円	降水量 20 日 日光 103 今市 110 八方 114 佐野 87 宇都宮 63
平成 5. 7. 24～7. 26 (1993 年)	台風 4 号 (県北部、 県東部、 県西部)	道路 14、橋梁 2、河川 80、砂防 11、電話 511 回線 被害額 公共土木施設 1,795,000 千円 その他 398,500 千円 被害総額 2,193,500 千円	

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
平成 5. 8.26~8.28 (1993 年)	台風 11 号 (県全域)	床下浸水 29、非住家 1、道路 141、橋梁 3、河川 541、砂防 32、崖崩れ 4、電話 143 回線 被害額 農林水産業施設 182,000 千円 公共土木施設 12,239,000 千円 その他の公共施設 12,381 千円 農産被害 262,049 千円 その他 595,500 千円 被害総額 13,290,930 千円	降水量 27 日 那須 107 烏山 104 宇都宮 93 真岡 74 小山 95
平成 5. 7 月~9 月 (1993 年)	異常気象	7 月から 9 月にかけての低温・日照不足等の異常気象のため、 水稻をはじめとする各種農産物に多大な被害が発生した。 農産被害 52,891,482 千円 被害総額 52,891,482 千円	
平成 6. 5.26~5.27 (1994 年)	豪雨 (県中部、 県北部、 県南部、 県西部)	一部損壊 1、床上浸水 1、床下浸水 3、り災者 1 世帯 4 人、道 路 31、橋梁 1、河川 171、砂防 8 被害額 農林水産業施設 22,500 千円 公共土木施設 2,278,660 千円 その他の公共施設 18,810 千円 農産被害 57,502 千円 林産被害 500 千円 その他 266,500 千円 被害総額 3,094,472 千円	降水量 26 日 27 日 那須 69 150 大田原 19 82 今市 75 132 烏山 5 55 宇都宮 33 60 小山 25 19
平成 6.9.30 (1994 年)	台風 26 号 (おおむ ね 県全 域)	軽傷 1、一部破損 2、床上浸水 1、床下浸水 3、り災者 1 世帯 4 人、道路 34、橋梁 1、河川 21、砂防 2 被害額 農林水産業施設 55,500 千円 公共土木施設 864,217 千円 その他の公共施設 20,300 千円 農産被害 143,748 千円 林産被害 92 千円 その他 212,300 千円 被害総額 1,296,157 千円	降水量 30 日 那須 44 大田原 4 今市 21 烏山 3 宇都宮 2 小山 1
平成 7. 8.21~8.22 (1995 年)	豪雨 (県中部、 県南部、 県東部)	床上浸水 6、床下浸水 73、り災者 6 世帯 21 人、道路 66、河川 45、砂防 5、電話 1,267 回線、電気 2,773 戸 被害額 農林水産業施設 3,000 千円 公共土木施設 1,020,854 千円 その他の公共施設 1,181 千円 農産被害 291,309 千円 被害総額 1,316,344 千円	降水量 21 日 22 日 那須 6 11 大田原 8 22 今市 46 23 烏山 10 66 宇都宮 18 78 小山 1 33
平成 7. 9.16~9.17 (1995 年)	台風 12 号 (おおむ ね 県全 域)	軽傷 1、一部破損 8、床下浸水 1、道路 23、橋梁 1、砂防 153、 砂防 3 被害額 農林水産業施設 21,000 千円 公共土木施設 2,223,764 千円 農産被害 173,321 千円 その他 109,000 千円 被害総額 2,527,085 千円	16 日 17 日 降水量 那須 32 70 大田原 30 65 今市 29 40 烏山 39 66 宇都宮 32 51 小山 47 70 最大風速 那須 5 13 宇都宮 8 14

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・最大風速 (m/s) ・その他																																																												
平成 8. 9. 22～9. 23 (1996 年)	台風 17 号 (県南部、 県中部、 県北部、 県東部)	死者 1(小山市)、全壊 1、一部破損 11、床下浸水 2、非住家 15、 り災者 1 世帯 3 人、道路 65、橋梁 1、河川 289、砂防 13、崖 崩れ 5、電話 329 回線、電気 4,343 戸 被害額 農林水産業施設 29,000 千円 公共土木施設 5,660,000 千円 その他の公共施設 7,284 千円 農産被害 1,719,593 千円 その他 36,500 千円 被害総額 7,452,377 千円	降水量 大田原 71 今市 117 鹿沼 95 宇都宮 98 真岡 78 小山 91 最大風速 那須 12 日光 12 鹿沼 8 宇都宮 21 真岡 7 小山 7																																																												
平成 9. 5. 24～5. 25 (1997 年)	大雨 (おおむ ね 県 全 域)	一部損壊 1、床上浸水 1、床下浸水 8、道路 44、河川 140、砂 防 6、崖崩れ 12、水道 120 戸 被害額 農林水産業施設 76,500 千円 公共土木施設 2,200,000 千円 その他の公共施設 2,100 千円 農産被害 28,222 千円 その他 61,000 千円 被害総額 2,367,822 千円	降水量 24 日 25 日 大田原 50 64 烏山 60 60 鹿沼 56 41 宇都宮 52 61 真岡 49 48 足利 60 55																																																												
平成 9. 6. 19～6. 20 (1997 年)	台風 7 号 (おおむ ね 県 全 域)	床下浸水 12、道路 38、河川 233、砂防 14、崖崩れ 16、電話 57 回線 被害額 農林水産業施設 130,614 千円 公共土木施設 4,700,000 千円 農産被害 56,577 千円 林産被害 312 千円 その他 173,200 千円 被害総額 5,060,703 千円	降水量 20 日 黒磯 99 烏山 108 鹿沼 127 宇都宮 109 真岡 83 足利 83																																																												
平成 10. 8. 26～8. 31 (1998 年)	8 月末豪 雨 (県全域)	<table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="4">被 人 害 的</td> <td colspan="2">死者</td> <td>人</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td colspan="2">行方不明者</td> <td>人</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">負傷者</td> <td>重傷</td> <td>人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軽傷</td> <td>人</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">住 家 被 害</td> <td rowspan="3">全壊</td> <td>棟</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>世帯</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">半壊</td> <td>棟</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>世帯</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>186</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">一部損壊</td> <td>棟</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>世帯</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">床上浸水</td> <td>棟</td> <td>486</td> </tr> <tr> <td>世帯</td> <td>427</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>1,478</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">床下浸水</td> <td>棟</td> <td>2,362</td> </tr> <tr> <td>世帯</td> <td>2,209</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>7,921</td> </tr> <tr> <td colspan="2">り災世帯数</td> <td>世帯</td> <td>493</td> </tr> <tr> <td colspan="2">り災者数</td> <td>人</td> <td>1,779</td> </tr> </tbody> </table>	被 人 害 的	死者		人	5	行方不明者		人	2	負傷者	重傷	人		軽傷	人	19	住 家 被 害	全壊	棟	45	世帯	29	人	115	半壊	棟	50	世帯	37	人	186	一部損壊	棟	34	世帯	14	人	40	床上浸水	棟	486	世帯	427	人	1,478	床下浸水	棟	2,362	世帯	2,209	人	7,921	り災世帯数		世帯	493	り災者数		人	1,779	平成 10 年 8 月 26 日か ら 31 日にかけて、前線 が日本付近に停滞し、 台風 4 号が日本の南海 上をゆっくりと北上し た。この期間、台風の 間接的な影響も加わり 前線に向かって暖かく 湿った空気が南から流 入して前線の活動が活 発となり、北日本や東 日本を中心に雨が断続 的に続き、北日本の太 平洋側から関東地方に かけて記録的な大雨と なった所が多かった。 那須町では 26 日から 5 日間連続して 130mm 以 上の日降水量を観測 し、総降水量が
被 人 害 的	死者			人	5																																																										
	行方不明者			人	2																																																										
	負傷者	重傷		人																																																											
		軽傷	人	19																																																											
住 家 被 害	全壊	棟	45																																																												
		世帯	29																																																												
		人	115																																																												
	半壊	棟	50																																																												
		世帯	37																																																												
		人	186																																																												
	一部損壊	棟	34																																																												
		世帯	14																																																												
		人	40																																																												
	床上浸水	棟	486																																																												
		世帯	427																																																												
		人	1,478																																																												
	床下浸水	棟	2,362																																																												
		世帯	2,209																																																												
人		7,921																																																													
り災世帯数		世帯	493																																																												
り災者数		人	1,779																																																												

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・最大風速 (m/s) ・その他																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		<table border="1"> <tr><td rowspan="20">公共施設等</td><td>田</td><td>流出・埋没</td><td>ha</td><td>584</td></tr> <tr><td>畑</td><td>流出・埋没</td><td>ha</td><td>6</td></tr> <tr><td>農業用施設</td><td>箇所</td><td></td><td>1,567</td></tr> <tr><td>農協等共同利用施設</td><td>箇所</td><td></td><td>3</td></tr> <tr><td>治山</td><td>箇所</td><td></td><td>382</td></tr> <tr><td>林道</td><td>箇所</td><td></td><td>231</td></tr> <tr><td>その他の林業施設</td><td>箇所</td><td></td><td>154</td></tr> <tr><td>河川</td><td>箇所</td><td></td><td>765</td></tr> <tr><td>砂防</td><td>箇所</td><td></td><td>63</td></tr> <tr><td>道路</td><td>箇所</td><td></td><td>387</td></tr> <tr><td>橋りょう</td><td>箇所</td><td></td><td>35</td></tr> <tr><td>その他の土木施設</td><td>箇所</td><td></td><td>14</td></tr> <tr><td>交通安全施設</td><td>箇所</td><td>33箇所外道路表示</td><td></td></tr> <tr><td>商工業施設</td><td>戸</td><td></td><td>324</td></tr> <tr><td>病院</td><td>回線</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>福祉施設</td><td>戸</td><td></td><td>4</td></tr> <tr><td>学校施設</td><td>戸</td><td></td><td>28</td></tr> <tr><td>社会体育施設</td><td>箇所</td><td></td><td>11</td></tr> <tr><td>鉄道不通</td><td>箇所</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td rowspan="4">ライフ</td><td>水道</td><td>戸</td><td></td><td>11,841</td></tr> <tr><td>電話</td><td>回線</td><td></td><td>8,949</td></tr> <tr><td>電気</td><td>戸</td><td></td><td>19,359</td></tr> <tr><td>農地</td><td>千円</td><td></td><td>4,690,000</td></tr> <tr><td rowspan="4">農業関係</td><td>農業用施設</td><td>千円</td><td></td><td>8,221,000</td></tr> <tr><td>農協等共同利用施設</td><td>千円</td><td></td><td>144,000</td></tr> <tr><td>農作物・家畜等</td><td>千円</td><td></td><td>4,791,208</td></tr> <tr><td>小計</td><td>千円</td><td></td><td>17,846,208</td></tr> <tr><td rowspan="4">林業関係</td><td>治山</td><td>千円</td><td></td><td>8,677,700</td></tr> <tr><td>林道</td><td>千円</td><td></td><td>724,450</td></tr> <tr><td>林産物等</td><td>千円</td><td></td><td>74,357</td></tr> <tr><td>その他の林業施設</td><td>千円</td><td></td><td>322,950</td></tr> <tr><td rowspan="5">土木関係</td><td>小計</td><td>千円</td><td></td><td>9,799,457</td></tr> <tr><td>河川</td><td>千円</td><td></td><td>58,044,845</td></tr> <tr><td>砂防</td><td>千円</td><td></td><td>988,285</td></tr> <tr><td>道路</td><td>千円</td><td></td><td>2,777,110</td></tr> <tr><td>橋りょう</td><td>千円</td><td></td><td>1,453,884</td></tr> <tr><td rowspan="2">商工業</td><td>その他の土木施設</td><td>千円</td><td></td><td>398,659</td></tr> <tr><td>小計</td><td>千円</td><td></td><td>63,662,783</td></tr> <tr><td rowspan="3">施設等</td><td>商工業施設</td><td>千円</td><td></td><td>2,878,860</td></tr> <tr><td>小計</td><td>千円</td><td></td><td>2,878,860</td></tr> <tr><td>病院</td><td>千円</td><td></td><td>1,000</td></tr> <tr><td rowspan="3">医療関係</td><td>福祉施設</td><td>千円</td><td></td><td>9,972</td></tr> <tr><td>小計</td><td>千円</td><td></td><td>10,972</td></tr> <tr><td>学校施設</td><td>千円</td><td></td><td>106,317</td></tr> <tr><td rowspan="3">文教関係</td><td>社会体育施設</td><td>千円</td><td></td><td>88,081</td></tr> <tr><td>小計</td><td>千円</td><td></td><td>194,398</td></tr> <tr><td>水道施設</td><td>千円</td><td></td><td>127,390</td></tr> <tr><td rowspan="4">その他</td><td>警察施設</td><td>千円</td><td></td><td>1,222</td></tr> <tr><td>交通安全施設</td><td>千円</td><td></td><td>8,819</td></tr> <tr><td>小計</td><td>千円</td><td></td><td>137,431</td></tr> <tr><td>被害総額</td><td>千円</td><td></td><td>94,530,109</td></tr> <tr><td colspan="2">栃木県災害対策本部</td><td>設置</td><td>8月27日14時00分</td></tr> <tr><td colspan="2"></td><td>解散</td><td>11月24日12時00分</td></tr> <tr><td colspan="2">災害対策本部設置市町村数</td><td></td><td>17</td></tr> <tr><td colspan="2">災害救助法適用市町村数</td><td></td><td>4</td></tr> <tr><td colspan="2">消防職員出動延人数</td><td></td><td>7,899</td></tr> <tr><td colspan="2">消防団員出動延人数</td><td></td><td>43,408</td></tr> </table>	公共施設等	田	流出・埋没	ha	584	畑	流出・埋没	ha	6	農業用施設	箇所		1,567	農協等共同利用施設	箇所		3	治山	箇所		382	林道	箇所		231	その他の林業施設	箇所		154	河川	箇所		765	砂防	箇所		63	道路	箇所		387	橋りょう	箇所		35	その他の土木施設	箇所		14	交通安全施設	箇所	33箇所外道路表示		商工業施設	戸		324	病院	回線		1	福祉施設	戸		4	学校施設	戸		28	社会体育施設	箇所		11	鉄道不通	箇所		1	ライフ	水道	戸		11,841	電話	回線		8,949	電気	戸		19,359	農地	千円		4,690,000	農業関係	農業用施設	千円		8,221,000	農協等共同利用施設	千円		144,000	農作物・家畜等	千円		4,791,208	小計	千円		17,846,208	林業関係	治山	千円		8,677,700	林道	千円		724,450	林産物等	千円		74,357	その他の林業施設	千円		322,950	土木関係	小計	千円		9,799,457	河川	千円		58,044,845	砂防	千円		988,285	道路	千円		2,777,110	橋りょう	千円		1,453,884	商工業	その他の土木施設	千円		398,659	小計	千円		63,662,783	施設等	商工業施設	千円		2,878,860	小計	千円		2,878,860	病院	千円		1,000	医療関係	福祉施設	千円		9,972	小計	千円		10,972	学校施設	千円		106,317	文教関係	社会体育施設	千円		88,081	小計	千円		194,398	水道施設	千円		127,390	その他	警察施設	千円		1,222	交通安全施設	千円		8,819	小計	千円		137,431	被害総額	千円		94,530,109	栃木県災害対策本部		設置	8月27日14時00分			解散	11月24日12時00分	災害対策本部設置市町村数			17	災害救助法適用市町村数			4	消防職員出動延人数			7,899	消防団員出動延人数			43,408	<p>1,254mm に達した。特に27日には、1時間降水量90mm(1時~2時)、3時間降水量205mm(0時から3時)、日降水量607mmの豪雨を記録した。</p> <p>降水量 (単位:mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地点名</th> <th>27日</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>那須</td><td>607</td><td>1254</td></tr> <tr><td>五十里</td><td>215</td><td>563</td></tr> <tr><td>八方原</td><td>409</td><td>931</td></tr> <tr><td>黒磯</td><td>351</td><td>689</td></tr> <tr><td>八溝山</td><td>62</td><td>282</td></tr> <tr><td>土呂部</td><td>70</td><td>309</td></tr> <tr><td>大田原</td><td>211</td><td>578</td></tr> <tr><td>日光</td><td>75</td><td>422</td></tr> <tr><td>今市</td><td>164</td><td>552</td></tr> <tr><td>塩谷</td><td>247</td><td>567</td></tr> <tr><td>足尾</td><td>36</td><td>345</td></tr> <tr><td>方塞山</td><td>108</td><td>392</td></tr> <tr><td>高根沢</td><td>76</td><td>256</td></tr> <tr><td>烏山</td><td>18</td><td>232</td></tr> <tr><td>鹿沼</td><td>127</td><td>398</td></tr> <tr><td>宇都宮</td><td>63</td><td>268</td></tr> <tr><td>葛生</td><td>35</td><td>291</td></tr> <tr><td>真岡</td><td>39</td><td>187</td></tr> <tr><td>足利</td><td>25</td><td>322</td></tr> <tr><td>佐野</td><td>25</td><td>224</td></tr> <tr><td>栃木</td><td>78</td><td>278</td></tr> <tr><td>小山</td><td>50</td><td>228</td></tr> </tbody> </table>	地点名	27日	合計	那須	607	1254	五十里	215	563	八方原	409	931	黒磯	351	689	八溝山	62	282	土呂部	70	309	大田原	211	578	日光	75	422	今市	164	552	塩谷	247	567	足尾	36	345	方塞山	108	392	高根沢	76	256	烏山	18	232	鹿沼	127	398	宇都宮	63	268	葛生	35	291	真岡	39	187	足利	25	322	佐野	25	224	栃木	78	278	小山	50	228
公共施設等	田	流出・埋没		ha	584																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	畑	流出・埋没		ha	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	農業用施設	箇所			1,567																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	農協等共同利用施設	箇所			3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	治山	箇所			382																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	林道	箇所			231																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	その他の林業施設	箇所			154																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	河川	箇所			765																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	砂防	箇所			63																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	道路	箇所			387																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	橋りょう	箇所			35																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	その他の土木施設	箇所			14																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	交通安全施設	箇所		33箇所外道路表示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	商工業施設	戸			324																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	病院	回線			1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	福祉施設	戸			4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	学校施設	戸			28																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	社会体育施設	箇所			11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	鉄道不通	箇所			1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	ライフ	水道	戸		11,841																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
電話		回線		8,949																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
電気		戸		19,359																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
農地		千円		4,690,000																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
農業関係	農業用施設	千円		8,221,000																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	農協等共同利用施設	千円		144,000																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	農作物・家畜等	千円		4,791,208																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	小計	千円		17,846,208																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
林業関係	治山	千円		8,677,700																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	林道	千円		724,450																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	林産物等	千円		74,357																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	その他の林業施設	千円		322,950																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
土木関係	小計	千円		9,799,457																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	河川	千円		58,044,845																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	砂防	千円		988,285																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	道路	千円		2,777,110																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	橋りょう	千円		1,453,884																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
商工業	その他の土木施設	千円		398,659																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	小計	千円		63,662,783																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
施設等	商工業施設	千円		2,878,860																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	小計	千円		2,878,860																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	病院	千円		1,000																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
医療関係	福祉施設	千円		9,972																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	小計	千円		10,972																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	学校施設	千円		106,317																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
文教関係	社会体育施設	千円		88,081																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	小計	千円		194,398																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	水道施設	千円		127,390																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
その他	警察施設	千円		1,222																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	交通安全施設	千円		8,819																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	小計	千円		137,431																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	被害総額	千円		94,530,109																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
栃木県災害対策本部		設置	8月27日14時00分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		解散	11月24日12時00分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
災害対策本部設置市町村数			17																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
災害救助法適用市町村数			4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
消防職員出動延人数			7,899																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
消防団員出動延人数			43,408																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
地点名	27日	合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
那須	607	1254																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
五十里	215	563																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
八方原	409	931																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
黒磯	351	689																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
八溝山	62	282																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
土呂部	70	309																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
大田原	211	578																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
日光	75	422																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
今市	164	552																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
塩谷	247	567																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
足尾	36	345																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
方塞山	108	392																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
高根沢	76	256																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
烏山	18	232																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
鹿沼	127	398																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
宇都宮	63	268																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
葛生	35	291																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
真岡	39	187																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
足利	25	322																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
佐野	25	224																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
栃木	78	278																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
小山	50	228																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
平成 10. 9.15～9.16 (1998 年)	台風 5 号 (おおむね 県 全 域)	半壊 1、一部損壊 2、床上浸水 8、床下浸水 82、非住家 1、り災者 9 世帯 37 人、道路 57、橋梁 5、河川 122、砂防 8、崖崩れ 97、電話 605 回線、電気 2,477 戸 被害額 農林水産業施設 335,860 千円 公共土木施設 2,212,001 千円 その他の公共施設 38,986 千円 農産被害 1,029,279 千円 その他 1,895,350 千円 被害総額 5,511,476 千円	降水量 21 日 22 日 那須 10 139 日光 29 339 今市 33 230 鹿沼 24 155 宇都宮 19 173 栃木 36 111
平成 11. 1.2～1.7 (1999 年)	古タイヤ 火災	佐野市赤見町地内の野積古タイヤから出火 焼失本数 約 20 万本 鎮圧 1 月 7 日 鎮火 9 月 24 日	天候:晴れ 気温:2.7℃ 風向:北東 風速:1.9m/s 実効湿度:71.3%
平成 11. 7.11～7.14 (1999 年)	大雨 (おおむね 県 全 域)	軽傷 1(那須町)、全壊 1、半壊 14、一部損壊 7、床上浸水 24、床下浸水 293、非住家 20、り災者 38 世帯 151 人、田の流出・埋没 2.3ha、道路 89、橋梁 4、河川 279、砂防 12、崖崩れ 120、水道 19 戸、電話 245 回線 被害額 公立文教施設 38,574 千円 農林水産業施設 1,223,641 千円 公共土木施設 6,145,524 千円 その他の公共施設 7,284 千円 その他 1,944,559 千円 被害総額 9,352,298 千円	降水量 12 日 13 日 14 日 那須 167 74 66 八方 222 48 139 黒磯 104 64 111 大田原 33 48 129 日光 127 28 131 烏山 39 84 174 真岡 18 46 107
平成 13. 8.21～8.23 (2001 年)	台風 11 号 (おおむね 県 全 域)	床下浸水 15、道路 29、橋梁 9、河川 280、砂防 17、崖崩れ 21、水道 370 戸、電話 250 回線、電気 1,039 戸 被害額 農林水産業施設 73,440 千円 公共土木施設 6,188,633 千円 その他の公共施設 17,200 千円 農産被害 24,026 千円 その他 722,800 千円 被害総額 7,026,099 千円	降水量 21 日 22 日 那須 33 135 五十里 43 129 八方 74 240 土呂部 89 221 日光 153 358 今市 80 127 塩谷 58 110 足尾 66 232 方寒山 109 300 葛生 39 105
平成 13. 9.9～9.11 (2001 年)	台風 15 号 (おおむね 県 全 域)	死者 1(栗山村)、床上浸水 3、床下浸水 37、り災者 3 世帯 12 人、道路 45、橋梁 4、河川 107、砂防 6、崖崩れ 23、電話 330 回線、電気 985 戸 被害額 農林水産業施設 151,446 千円 公共土木施設 2,866,166 千円 その他の公共施設 62,018 千円 農産被害 98,028 千円 水産被害 19,592 千円 その他 579,650 千円 被害総額 3,776,900 千円	降水量 10 日 11 日 那須 81 118 八方 151 185 土呂部 285 164 日光 475 244 今市 151 117 足尾 255 145 方寒山 285 231

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
平成 14. 7.9～7.11 (2002 年)	梅雨前線 豪雨及び 台風 6 号 (おおむ ね 県 全 域)	半壊 1、一部損壊 1、床上浸水 54、床下浸水 184、り災者 112 世帯 250 人、道路 81、橋梁 8、河川 528、砂防 24、崖崩れ 60、 電話 586 回線、電気 1,457 戸 被害額 農林水産業施設 717,057 千円 公共土木施設 10,211,746 千円 農産被害 665,820 千円 商工被害 7,800 千円 その他 779,000 千円 被害総額 12,375,123 千円	降水量 10 日 11 日 那須 277 93 八方 251 106 黒磯 213 64 土呂部 274 60 大田原 204 74 日光 364 62 足尾 267 55 方寒山 284 76
平成 15. 9.8～9.10 (2003 年)	大規模工 場火災 (黒磯市)	黒磯市上中野のタイヤ工場より出火 周辺住民 5,000 名余に避難指示が出される。 焼損面積 39,581 m ² 損害額 4,390,000 千円 タイヤ製品約 16 万 5 千本を焼失 鎮圧 9 月 9 日 鎮火 9 月 10 日	天候 くもり 気温 24.8℃ 湿度 99.9% 風速 1.4m/s 風向 南
平成 16. 6.21 (2004 年)	台風 6 号 (おおむ ね 県 全 域)	軽傷 1(宇都宮市)、一部損壊 2、文教施設 1、道路 1、崖崩れ 1、 電話 19 回線、電気 180 戸 被害額 公立文教施設 53 千円 農林水産業施設 5,218 千円 公共土木施設 56,941 千円 農産被害 5,070 千円 その他 30,000 千円 被害総額 97,282 千円	降水量 21 日 那須 84 , 塩谷 33 五十里 81 , 烏山 14 黒磯 30 , 鹿沼 22 土呂部 142 , 宇都宮 14 大田原 25 , 真岡 10 奥日光 157 , 佐野 9 今市 75 , 小山 12
平成 16. 10.9～10.10 (2004 年)	台風 22 号 (おおむ ね 県 全 域)	床下浸水 1、道路 11、河川 103、砂防 3、崖崩れ 4、電話 8 回 線 被害額 農林水産業施設 8,544 千円 公共土木施設 1,293,540 千円 その他の公共施設 15,000 千円 農産被害 2,608 千円 その他 16,800 千円 被害総額 1,336,492 千円	降水量 9 日 那須 144 , 塩谷 118 五十里 101 , 烏山 89 黒磯 90 , 鹿沼 130 土呂部 125 , 宇都宮 118 大田原 102 , 真岡 90 奥日光 124 , 佐野 112 今市 151 , 小山 110
平成 16. 10.20 (2004 年)	台風 23 号 (おおむ ね 県 全 域)	軽傷 1(足利市)、床下浸水 9、道路 8、河川 33、崖崩れ 12、電 話 20 回線 被害額 農林水産業施設 91,726 千円 公共土木施設 423,973 千円 その他の公共施設 2,200 千円 農産被害 13,137 千円 その他 125,500 千円 被害総額 656,536 千円	降水量 20 日 那須 153 , 塩谷 130 五十里 119 , 烏山 154 黒磯 123 , 鹿沼 133 土呂部 150 , 宇都宮 128 大田原 135 , 真岡 130 奥日光 140 , 佐野 80 今市 164 , 小山 118
平成 17. 8.12 (2006 年)	雷雨 (お おむね県 全域)	軽傷 1(藤原町)、床上浸水 2、床下浸水 46、文教施設 1、崖崩 れ 6、道路 11、河川 2、電話 137 回線、電気 429 戸 被害額 文教施設 87 千円 公共土木施設 3,350 千円 その他の公共施設 1,300 千円 被害総額 4,737 千円	

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他																								
平成 18. 6. 16 (2006 年)	豪雨 (お おむね県 全域)	軽傷 2(西方町)、一部損壊 1、床下浸水 11、道路 9、橋梁 1、 河川 40、崖崩れ 18、電話 1 回線 被害額 農林水産業施設 41,188 千円 公共土木施設 441,025 千円 農産被害 6,623 千円 被害総額 488,836 千円	降水量 16 日 那須 67 , 塩谷 91 五十里 44 , 烏山 105 黒磯 79 , 鹿沼 98 土呂部 30 , 宇都宮 100 大田原 97 , 真岡 87 日光 68 , 佐野 62 今市 79 , 小山 80																								
平成 19. 2. 5~2. 8 (2007 年)	林野火災 (宇都宮 市)	宇都宮市古賀志町御岳山の林野から出火(原因不明)。 林野焼失面積(民有林)約 7ha 栃木・群馬・茨城・埼玉・福島県防災ヘリ及び自衛隊ヘリ、消 化活動実施。																									
平成 19. 3. 14~3. 15 (2007 年)	林野火災 (佐野市)	佐野市飛駒町地内の林野から出火(原因不明)。 林野焼失面積約 12ha 栃木・群馬・埼玉県防災ヘリ及び自衛隊ヘリ、消化活動実施。																									
平成 19. 9. 5~9. 7 (2007 年)	台風 9 号 (おむ ね県全 域)	軽傷 9(宇都宮市、足利市、日光市)、一部損壊 11 棟 9 世帯 13 人、床上浸水 2 棟、床下浸水 4 棟、非住家 1 棟 (那珂川町)、 田(冠水)1ha、畑(冠水)11ha、文教施設 4、道路 35、橋梁 1、 河川 84、砂防 1、清掃施設 1、崖くずれ 25、鉄道不通 1 箇所 水道(断水)125 戸、電話(不通)191 回線、電気(停電)3,829 戸 被害額 公立文教施設 800 千円 農林水産業施設 291,172 千円 公共土木施設 918,182 千円 その他の公共施設 9,336 千円 農産被害 74,964 千円 その他 624,000 千円 被害総額 1,918,454 千円 栃木県災害対策本部 7 日 08:50 設置 8 日 15:00 解散 災害警戒本部等設置設置市町数 13 市町 日光市災害対策本部 7 日 10:20 設置 8 日 15:30 解散	平成 19 年 7 日 00 時前 に伊豆半島南部に上陸 し、その後、日光市付 近を通って東北地方へ 進んだ。6 日 18 時 35 分、栃木県全域に大 雨・洪水警報を発表。 鹿沼市中粕尾で橋の 冠水により 2 世帯 5 名 が、7 日 6:40~10:00 まで、自主避難。 日光市湯西川地区 で、地域に通じる道路 の土砂崩落と路肩崩壊 により、住民及び観光 客(569 名)が孤立状 態となった。(住民 273 世帯、観光客を含めた 人数は 1,420 名) また、川俣地区では、 雨量規制による道路の 通行止めにより、約 1 20 名(うち観光客 37 名)、奥鬼怒地区でも土 砂の崩落により観光客 41 名が孤立状態にな った。 降水量 (単位:mm) <table border="1"> <thead> <tr> <th>地点名</th> <th>5 日</th> <th>6 日</th> <th>7 日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>那須</td> <td>14</td> <td>37</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>五十里</td> <td>50</td> <td>76</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>黒磯</td> <td>3</td> <td>22</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>土呂部</td> <td>53</td> <td>111</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>大田原</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>86</td> </tr> </tbody> </table>	地点名	5 日	6 日	7 日	那須	14	37	161	五十里	50	76	122	黒磯	3	22	68	土呂部	53	111	142	大田原	13	13	86
地点名	5 日	6 日	7 日																								
那須	14	37	161																								
五十里	50	76	122																								
黒磯	3	22	68																								
土呂部	53	111	142																								
大田原	13	13	86																								

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他			
			日光	70	235	252
			今市	22	54	100
			塩谷	22	24	77
			足尾	57	209	216
			高根沢	9	21	73
			烏山	52	21	74
			鹿沼	6	40	94
			宇都宮	16	19	70
			葛生	4	45	101
			真岡	10	22	45
			足利	10	34	62
			佐野	5	27	69
			栃木	4	25	60
			小山	4	24	46
平成 20 5. 20 (2008)	大雨 (おおむね 県 全 域)	軽傷 2(鹿沼市)、床上浸水 1 棟 1 世帯 1 人 道路 21、、河川 1、崖崩れ 3、電話(不通)10 回線 被害額 農林水産業施設 11,600 千円 公共土木施設 6,300 千円 その他の公共施設 1,925 千円 その他 3,660 千円 被害総額 23,485 千円	降水量 20 日 那須 115、塩谷 102 五十里 103、烏山 44 黒磯 113、鹿沼 100 土呂部 109.5 宇都宮 84 大田原 95.5 真岡 54 日光 130、佐野 64.5 今市 142、小山 59			
平成 20 8. 16 (2008)	大雨 (おおむね 県 全 域)	死者 1 (鹿沼市)、床上浸水 22 棟 23 世帯 71 人 床下浸水 178 棟 195 世帯 589 人 田(冠水) 4ha、道路 99、、河川 11、崖崩れ 6、 り災世帯数 15 世帯、り災者数 30 人 被害額 農林水産業施設 22,000 千円 公共土木施設 1,140 千円 被害総額 23,140 千円	降水量 16 日 那須 41.5、塩谷 73 五十里 53.5 烏山 26.5 黒磯 20、鹿沼 128 土呂部 54 宇都宮 103.5 大田原 54、真岡 41 日光 52.5、佐野 76 今市 74、小山 60			
平成 20 9. 6 (2008)	大雨・雷 (佐野市、那須町、那珂川町)	軽傷 1(那珂川町) 道路 2、崖崩れ 1、電気(停電) 10 戸 被害額 農林水産業施設 6,000 千円 公共土木施設 12,552 千円 被害総額 18,552 千円 自主避難 那珂川町 1 世帯 1 名	降水量 6 日 那須 40.5 塩谷 47 五十里 11.5、黒磯 41 鹿沼 7.5、土呂部 7.0 宇都宮 5.0、大田原 31.5 日光 12、今市 16.0			
平成 21 1. 31 (2009)	強風・大雨 (おおむね 県 全 域)	軽傷 3(宇都宮市、鹿沼市、真岡市)、 一部破損 1 棟 1 世帯 2 人 崖崩れ 1、電話(不通)103 回線、電気(停電)574 戸 被害額 農林水産業施設 7,000 千円 被害総額 7,000 千円	最大瞬間風向・風速 北北東 27.1 m/s 9:39(宇都宮)			

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他																		
平成 21. 10. 8 (2009 年)	台風 18 号 (おおむね 県 全 域)	<p>軽傷 1(那須町)、住家 一部破損 9 棟 9 世帯 24 人、 非住家 (公共建物) 1 棟、非住家 (その他) 1 棟 道路 6、電気 (停電) 928 戸、電話 (不通) 108 回線、 ブロック塀 1 箇所</p> <p>被害額</p> <table> <tr> <td>公立文教施設</td> <td>2,748 千円</td> </tr> <tr> <td>農林水産業施設</td> <td>21,200 千円</td> </tr> <tr> <td>公共土木施設</td> <td>1,000 千円</td> </tr> <tr> <td>農産被害</td> <td>7,884 千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3,000 千円</td> </tr> <tr> <td>被害総額</td> <td>35,832 千円</td> </tr> </table>	公立文教施設	2,748 千円	農林水産業施設	21,200 千円	公共土木施設	1,000 千円	農産被害	7,884 千円	その他	3,000 千円	被害総額	35,832 千円	<p>降水量 8 日 那須 121 , 塩谷 77.5 五十里 82 , 烏山 66 黒磯 73 , 鹿沼 72.5 土呂部 179, 宇都宮 80.5 大田原 73 , 真岡 84.5 日光 180 , 佐野 38.5 今市 110.5 , 小山 84.5</p>						
公立文教施設	2,748 千円																				
農林水産業施設	21,200 千円																				
公共土木施設	1,000 千円																				
農産被害	7,884 千円																				
その他	3,000 千円																				
被害総額	35,832 千円																				
平成 24. 5. 6 (2012 年)	竜巻 (県全域)	<p>人的被害 ・ 負傷者 13名 (うち重傷 1名)</p> <p>住家被害 ・ 全壊 13棟 (真岡市6棟、益子町7棟)</p> <p>・ 半壊 41棟 (真岡市9棟、益子町25棟、茂木町7棟)</p> <p>・ 一部損壊 422棟 (真岡市106棟、益子町190棟、茂木町126棟)</p> <p>非住家 公共建物 3棟 その他 232棟 文教施設 4箇所 病院 1箇所 道路 4箇所 がけ崩れ 1箇所 鉄道不通 1箇所 水道 26戸 電話 674回線 電気 3,105戸 罹災世帯・人数 53世帯157人</p> <p>被害額</p> <table> <tr> <td>公立文教施設</td> <td>64,156千円</td> </tr> <tr> <td>農林水産業施設</td> <td>155,259千円</td> </tr> <tr> <td>その他の公共施設</td> <td>3,390千円</td> </tr> <tr> <td>農業被害</td> <td>232,242千円</td> </tr> <tr> <td>林業被害</td> <td>3,000千円</td> </tr> <tr> <td>畜産被害</td> <td>1,000千円</td> </tr> <tr> <td>商工被害</td> <td>198,320千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>16,036千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>673,403千円</td> </tr> </table>	公立文教施設	64,156千円	農林水産業施設	155,259千円	その他の公共施設	3,390千円	農業被害	232,242千円	林業被害	3,000千円	畜産被害	1,000千円	商工被害	198,320千円	その他	16,036千円	合計	673,403千円	<p>気象概況 低気圧が日本海沿岸を東北東に進み、上空には寒気を伴った気圧の谷が接近していた。このため、大気の状態が非常に不安定となった。</p> <p>風速等状況 最低海面気圧 1000.3hPa 6日14時35分(宇都宮)最大風速(風向) 12.1m/s(西) 6日12時43分(宇都宮)最大瞬間風速(風向) 19.3m/s(西北西)6日12時41分(宇都宮) ※突風の現象区別：竜巻、藤田スケール：F 1～F 2、被害長さ：32km、被害幅：650m</p>
公立文教施設	64,156千円																				
農林水産業施設	155,259千円																				
その他の公共施設	3,390千円																				
農業被害	232,242千円																				
林業被害	3,000千円																				
畜産被害	1,000千円																				
商工被害	198,320千円																				
その他	16,036千円																				
合計	673,403千円																				

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・最大風速 (m/s) ・その他														
平成 24. 6. 19 (2012 年)	台風 4 号 (おおむね 県 全 域)	<p>人的被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 負傷者 1 名 <p>住家被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一部損壊 1 棟 (宇都宮市) ・ 床上浸水 1 棟 (日光市) ・ 床下浸水 8 棟 (日光市 7 棟、那須塩原市 1 棟) <p>非住家</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共建物 1 棟 その他 9 棟 <p>文教施設 1 箇所</p> <p>病院 1 箇所</p> <p>道路 20 箇所</p> <p>橋梁 1 箇所</p> <p>河川 58 箇所</p> <p>砂防 1 箇所</p> <p>がけ崩れ 12 箇所</p> <p>電話 57 回線</p> <p>被害額</p> <table border="0"> <tr> <td>公立文教施設</td> <td>470 千円</td> </tr> <tr> <td>農林水産業施設</td> <td>96, 150 千円</td> </tr> <tr> <td>公共土木施設</td> <td>799, 636 千円</td> </tr> <tr> <td>その他の公共施設</td> <td>55, 350 千円</td> </tr> <tr> <td>農産被害</td> <td>56, 504 千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>255, 911 千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1, 264, 021 千円</td> </tr> </table>	公立文教施設	470 千円	農林水産業施設	96, 150 千円	公共土木施設	799, 636 千円	その他の公共施設	55, 350 千円	農産被害	56, 504 千円	その他	255, 911 千円	合計	1, 264, 021 千円	<p>気象概況</p> <p>台風第 4 号が栃木県付近を通過した影響で、県内は 19 日から 20 日にかけて雨・風ともに強まった。</p> <p>各地の降水量</p> <p>6 月 19 日</p> <p>那須 135 黒磯 77.5 大田原 58.5 奥日光 259 高根沢 55 鹿沼 95.5 宇都宮 68.5 葛生 87 真岡 50 足利 61.5 栃木 64 小山 53 五十里 115 足尾 173.5 佐野 71 土路部 256 今市 168 塩谷 87.5 那須烏山 61.5</p> <p>降雨の状況、風速</p> <p>最低海面気圧 984.6hPa 20 日 00 時 46 分 (宇都宮) 最大風速 (風向) 13.4m/s (東南東) 19 日 21 時 50 分 (那須烏山) 最大瞬間風速 (風向) 23.8m/s (南南東) 20 日 00 時 08 分 (宇都宮) 期間降水量 (平年比) 268.5mm (2, 238%) 19 - 20 日 (土呂部) 最大日降水量 259.0mm 19 日 (日光) 最大 1 時間降水量 56.0mm 19 日 23 時 26 分 (日光) 最大 10 分間降水量 10.5mm 19 日 22 時 46 分 (日光)</p>
公立文教施設	470 千円																
農林水産業施設	96, 150 千円																
公共土木施設	799, 636 千円																
その他の公共施設	55, 350 千円																
農産被害	56, 504 千円																
その他	255, 911 千円																
合計	1, 264, 021 千円																

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・最大風速 (m/s) ・その他														
平成 25. 10. 15 (2013 年)	台風 26 号 (県全域)	<p>人的被害 ・負傷者 20名 (うち重傷 1名)</p> <p>住家被害 ・半壊 2棟 (宇都宮市1棟、大田原市1棟) ・一部損壊 205棟 (宇都宮市21棟、栃木市7棟、鹿沼市26棟、日光市9棟、小山市14棟、真岡市6棟、大田原市17棟、矢板市19棟、那須塩原市26棟、さくら市9棟、那須烏山市1棟、市貝町3棟、芳賀町1棟、壬生町7棟、岩舟町3棟、塩谷町25棟、那須町11棟) ・床下浸水2棟 (足利市)</p> <p>非住家 公共建物 53棟 その他 181棟</p> <p>文教施設 13箇所 病院 17箇所 道路 132箇所 河川 2箇所 清掃施設 1箇所 崖崩れ 3箇所 鉄道不通 1箇所 電話 954回線 電気 5514戸 ブロック塀 71箇所 り災世帯数 1世帯 り災者数 2人</p> <p>被害額</p> <table border="0"> <tr> <td>農林水産業施設</td> <td>139,524千円</td> </tr> <tr> <td>公共土木施設</td> <td>21,318千円</td> </tr> <tr> <td>その他の公共施設</td> <td>2,536千円</td> </tr> <tr> <td>農産被害</td> <td>851,811千円</td> </tr> <tr> <td>畜産被害</td> <td>30,473千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>41,100千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,086,762千円</td> </tr> </table>	農林水産業施設	139,524千円	公共土木施設	21,318千円	その他の公共施設	2,536千円	農産被害	851,811千円	畜産被害	30,473千円	その他	41,100千円	合計	1,086,762千円	<p>(1) 気象概況 台風第 26 号が 16 日未明から朝にかけて関東の東海上を通過した。また、本州の南岸には前線が停滞していた。このため、栃木県では暴風を伴った大雨となった。</p> <p>(3) 各地の降水量</p> <p>15日 那須 29.5 黒磯 29 大田原 30.5 奥日光 25.5 高根沢 28 , 鹿沼 26 宇都宮 29 葛生 27 真岡 28.5, 足利 32 栃木 26 , 小山 23 五十里24.5 足尾 24 佐野26.5・土路部25.5 今市24・塩谷27.5 那須烏山31</p> <p>16日 那須 99 黒磯 65 大田原 61.5 奥日光 67.5 高根沢 63.5 鹿沼 67.5 宇都宮 72 葛生 70.5 真岡 58, 足利 148 栃木 63 , 小山 66 五十里88 足尾 58 佐野70・土路部96 今市83.5・塩谷71.5 那須烏山68.5</p> <p>降雨の状況、風速 最低海面気圧 : 977.6hPa 16日09時10分 (宇都宮) 最大風速 (風向) : 21.3m/s (北北東) 16日05時48分 (宇都宮) 最大瞬間風速 (風向) : 34.2m/s (西北西) 16日11時39分 (那須) 期間降水量 (平年比) : 180.0mm (2,250%) 15-16日 (足利) 最大日降水量 : 148.0mm 16日 (足利) 最大1時間降水量 : 35.0mm 16日06時26分 (足利) 最大10分間降水量 : 6.5mm 16日06時26分 (足利)</p>
農林水産業施設	139,524千円																
公共土木施設	21,318千円																
その他の公共施設	2,536千円																
農産被害	851,811千円																
畜産被害	30,473千円																
その他	41,100千円																
合計	1,086,762千円																

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・最大風速 (m/s) ・その他																																																																																																						
平成 27. 9. 9～9. 10 (2015 年)	台風 18 号 (県全域)	<p>人的被害 (H28. 4. 1現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死者 3名 ・負傷者 6名 (うち重傷 2名) <p>住家被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全壊 22棟 (宇都宮市1棟、栃木市3棟、鹿沼市8棟、日光市9棟、小山市1棟) ・半壊 967棟 (栃木市83棟、鹿沼市12棟、日光市110棟、小山市761棟、那須塩原市1棟) ・一部損壊 29棟 (栃木市3棟、佐野市1棟、鹿沼市20棟、日光市5棟) ・床上浸水 1, 100棟 (宇都宮市38棟、栃木市635棟、佐野市1棟、鹿沼市279棟、日光市1棟、小山市118棟、那須塩原市2棟、下野市8棟、壬生町8棟、野木町9棟、塩谷町1棟) ・床下浸水 3, 938棟 (宇都宮市67棟、栃木市1, 990棟、佐野市1棟、鹿沼市766棟、日光市221棟、小山市549棟、真岡市1棟、大田原市1棟、那須塩原市18棟、さくら市1棟、下野市5棟、上三川町15棟、益子町2棟、壬生町53棟、野木町245棟、塩谷町3棟) <p>非住家 292棟</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共建物 2棟 その他 290棟 <p>文教施設 20箇所 病院 10箇所 道路 1, 129箇所 橋梁 79箇所 河川 770箇所 砂防 55箇所 清掃施設 4箇所 崖崩れ 828箇所 水道 39, 953箇所 電話 291回線 電気 17, 403戸 ガス 28戸</p> <p>り災世帯数 2, 243世帯 り災者数 4, 127人</p> <p>被害額</p> <table border="0"> <tr><td>公立文教施設</td><td>550, 929千円</td></tr> <tr><td>農林水産業施設</td><td>5, 275, 207千円</td></tr> <tr><td>公共土木施設</td><td>19, 927, 560千円</td></tr> <tr><td>その他の公共施設</td><td>1, 339, 967千円</td></tr> <tr><td>農産被害</td><td>2, 260, 981千円</td></tr> <tr><td>林産被害</td><td>60, 805千円</td></tr> <tr><td>畜産被害</td><td>59, 114千円</td></tr> <tr><td>水産被害</td><td>17, 260千円</td></tr> <tr><td>商工被害</td><td>2, 006, 823千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td>507, 701千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td>32, 006, 347千円</td></tr> </table>	公立文教施設	550, 929千円	農林水産業施設	5, 275, 207千円	公共土木施設	19, 927, 560千円	その他の公共施設	1, 339, 967千円	農産被害	2, 260, 981千円	林産被害	60, 805千円	畜産被害	59, 114千円	水産被害	17, 260千円	商工被害	2, 006, 823千円	その他	507, 701千円	合計	32, 006, 347千円	<p>(1) 気象概況</p> <p>台風第18号が9日9時半に愛知県西尾市付近に上陸した後、日本海に進み、同日15時に温帯低気圧に変わった。</p> <p>9日から11日にかけて、台風18号から変わった温帯低気圧に流れ込む南よりの風、後には台風第17号の周辺からの南東風が主体となり、湿った空気が流れ込み続けた影響で、多数の線状降水帯が次々と発生し、関東地方と東北地方で記録的な大雨となった。</p> <p>栃木県では、9日から10日にかけて、総降水量600mmを超えた地域がある等、記録的な豪雨に見舞われた。また、10日0時20分に県全域に特別警報(大雨)が発表され、土砂災害、浸水、河川の氾濫等が発生し、住民や住家、ライフライン等に甚大な被害が発生した。</p> <p>(2) 各地の降水量 9日</p> <table border="0"> <tr><td>那須高原</td><td>129.0</td><td>五十里</td><td>337.0</td></tr> <tr><td>黒磯</td><td>45.5</td><td>土呂部</td><td>405.5</td></tr> <tr><td>大田原</td><td>59.5</td><td>奥日光</td><td>390.0</td></tr> <tr><td>今市</td><td>366.5</td><td>塩谷</td><td>186.0</td></tr> <tr><td>足尾</td><td>232.5</td><td>高根沢</td><td>96.5</td></tr> <tr><td>那須烏山</td><td>52.0</td><td>鹿沼</td><td>325.5</td></tr> <tr><td>宇都宮</td><td>177.5</td><td>葛生</td><td>205.5</td></tr> <tr><td>真岡</td><td>92.5</td><td>足利</td><td>97.5</td></tr> <tr><td>佐野</td><td>163.5</td><td>栃木</td><td>299.0</td></tr> <tr><td>小山</td><td>212.0</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>10日</p> <table border="0"> <tr><td>那須高原</td><td>73.0</td><td>五十里</td><td>265.0</td></tr> <tr><td>黒磯</td><td>62.0</td><td>土呂部</td><td>122.5</td></tr> <tr><td>大田原</td><td>63.5</td><td>奥日光</td><td>49.0</td></tr> <tr><td>今市</td><td>233.0</td><td>塩谷</td><td>94.5</td></tr> <tr><td>足尾</td><td>17.0</td><td>高根沢</td><td>89.0</td></tr> <tr><td>那須烏山</td><td>68.5</td><td>鹿沼</td><td>144.0</td></tr> <tr><td>宇都宮</td><td>102.5</td><td>葛生</td><td>29.0</td></tr> <tr><td>真岡</td><td>88.5</td><td>足利</td><td>9.0</td></tr> <tr><td>佐野</td><td>19.5</td><td>栃木</td><td>89.5</td></tr> <tr><td>小山</td><td>83.0</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(3) 最大 24 時間降水量で観測史上 1 位を更新した地点</p>	那須高原	129.0	五十里	337.0	黒磯	45.5	土呂部	405.5	大田原	59.5	奥日光	390.0	今市	366.5	塩谷	186.0	足尾	232.5	高根沢	96.5	那須烏山	52.0	鹿沼	325.5	宇都宮	177.5	葛生	205.5	真岡	92.5	足利	97.5	佐野	163.5	栃木	299.0	小山	212.0			那須高原	73.0	五十里	265.0	黒磯	62.0	土呂部	122.5	大田原	63.5	奥日光	49.0	今市	233.0	塩谷	94.5	足尾	17.0	高根沢	89.0	那須烏山	68.5	鹿沼	144.0	宇都宮	102.5	葛生	29.0	真岡	88.5	足利	9.0	佐野	19.5	栃木	89.5	小山	83.0		
公立文教施設	550, 929千円																																																																																																								
農林水産業施設	5, 275, 207千円																																																																																																								
公共土木施設	19, 927, 560千円																																																																																																								
その他の公共施設	1, 339, 967千円																																																																																																								
農産被害	2, 260, 981千円																																																																																																								
林産被害	60, 805千円																																																																																																								
畜産被害	59, 114千円																																																																																																								
水産被害	17, 260千円																																																																																																								
商工被害	2, 006, 823千円																																																																																																								
その他	507, 701千円																																																																																																								
合計	32, 006, 347千円																																																																																																								
那須高原	129.0	五十里	337.0																																																																																																						
黒磯	45.5	土呂部	405.5																																																																																																						
大田原	59.5	奥日光	390.0																																																																																																						
今市	366.5	塩谷	186.0																																																																																																						
足尾	232.5	高根沢	96.5																																																																																																						
那須烏山	52.0	鹿沼	325.5																																																																																																						
宇都宮	177.5	葛生	205.5																																																																																																						
真岡	92.5	足利	97.5																																																																																																						
佐野	163.5	栃木	299.0																																																																																																						
小山	212.0																																																																																																								
那須高原	73.0	五十里	265.0																																																																																																						
黒磯	62.0	土呂部	122.5																																																																																																						
大田原	63.5	奥日光	49.0																																																																																																						
今市	233.0	塩谷	94.5																																																																																																						
足尾	17.0	高根沢	89.0																																																																																																						
那須烏山	68.5	鹿沼	144.0																																																																																																						
宇都宮	102.5	葛生	29.0																																																																																																						
真岡	88.5	足利	9.0																																																																																																						
佐野	19.5	栃木	89.5																																																																																																						
小山	83.0																																																																																																								

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
			五十里551.0 (10日6:30時点) 土呂部444.0 (10日5:00時点) 今市541.0 (10日6:20時点) 鹿沼444.0 (10日6:00時点) 宇都宮251.5 (10日5:50時点) 葛生216.5 (10日2:00時点) 栃木356.5 (10日11:10時点) 小山 268.5 (10日 5:40時)
平成 29 3. 27 (2017)	雪崩 (那須町)	春山安全登山講習会に参加していた高校生が那須温泉ファミリースキー場付近で雪崩被害にあったもの。 死者 8、重傷 2、中等症・軽症 38	

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・最大風速 (m/s) ・その他																				
令和元年 10.11～10.13 (2019)	台風19号 (県全域)	<p>人的被害 (R2.3.26現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死者 4名 ・負傷者 23名 <p>住家被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全壊 83棟 (宇都宮市2棟、栃木市14棟、佐野市8棟、鹿沼市9棟、那須烏山市41棟、茂木町8棟、那珂川町1棟) ・半壊 5,252棟 (宇都宮市429棟、足利市433棟、栃木市2,847棟、佐野市1,045棟、鹿沼市77棟、日光市9棟、小山市248棟、矢板市7棟、那須烏山市119棟、下野市8棟、茂木町20棟、壬生町3棟、塩谷町1棟、那須町6棟) ・一部損壊 8,744棟 (宇都宮市725棟、足利市412棟、栃木市5,141棟、佐野市1,332棟、鹿沼市573棟、日光市19棟、小山市316棟、真岡市6棟、大田原市24棟、矢板市9棟、那須塩原市16棟、さくら市3棟、那須烏山市59棟、下野市23棟、上三川町6棟、益子町7棟、茂木町14棟、市貝町5棟、壬生町8棟、塩谷町9棟、高根沢町2棟、那須町32棟、那珂川町3棟) ・床上浸水 3棟 (大田原市1棟、さくら市1棟、壬生町1棟) ・床下浸水 140棟 (大田原市18棟、矢板市40棟、さくら市7棟、上三川町29棟、益子町4棟、壬生町16棟、塩谷町25棟、那珂川町1棟) <p>文教施設 119箇所 福祉・医療施設 115箇所 道路 162箇所 橋梁 27箇所 河川 836箇所 砂防 56箇所 公園 37箇所 水道 断水等13,183戸 電気 停電最大20,800戸</p> <p>被害額</p> <table border="0"> <tr> <td>文教施設</td> <td>3,156,355千円</td> </tr> <tr> <td>農林水産業施設</td> <td>18,665,738千円</td> </tr> <tr> <td>公共土木施設</td> <td>41,347,304千円</td> </tr> <tr> <td>福祉・医療施設等</td> <td>292,300千円</td> </tr> <tr> <td>農産被害</td> <td>4,117,448千円</td> </tr> <tr> <td>林産被害</td> <td>6,680千円</td> </tr> <tr> <td>畜産被害</td> <td>22,315千円</td> </tr> <tr> <td>水産被害</td> <td>5,100千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>948,433千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>68,561,673千円</td> </tr> </table>	文教施設	3,156,355千円	農林水産業施設	18,665,738千円	公共土木施設	41,347,304千円	福祉・医療施設等	292,300千円	農産被害	4,117,448千円	林産被害	6,680千円	畜産被害	22,315千円	水産被害	5,100千円	その他	948,433千円	合計	68,561,673千円	<p>(1) 気象概況</p> <p>10月6日に南鳥島近海で発生した台風19号は、マリアナ諸島を西に進みながら、7日には大型で猛烈な台風となった。小笠原近海を北北西に進み、12日には北寄りに進路を変え伊豆諸島北部を北北東に進んだ。12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、13日未明に東北地方の東海上に抜けた。</p> <p>栃木県内では、この台風の影響により、宇都宮で16.7メートル(北北西、10月12日23時10分)の最大風速を、26.7メートル(北北西、10月12日23時17分)の最大瞬間風速を観測した。</p> <p>10月11日00時から13時09時の総降水量は、奥日光で512.5ミリ、足尾で438.5ミリ、土呂部で424.5ミリとなり山間部を中心に大雨となった。</p> <p>(2) 各地の降水量</p> <p>11日</p> <p>那須高原19.0 五十里 16.5 黒磯 11.0 土呂部 28.5 大田原 10.0 奥日光 31.5 今市 16.6 塩谷 9.0 足尾 14.5 高根沢 6.0 那須烏山 9.0 鹿沼 5.0 宇都宮 4.5 葛生 6.5 真岡 6.0 足利 4.0 佐野 5.5 栃木 7.0 小山 5.0</p> <p>12日</p> <p>那須高原 332.5 五十里 255.5 黒磯 289.0 土呂部 395.0 大田原 298.5 奥日光 481.0 今市 383.5 塩谷 413.5 足尾 424.0 高根沢 203.5 那須烏山 212.5 鹿沼 370.0 宇都宮 325.5 葛生 410.0 真岡 209.5 足利 253.0 佐野 261.5 栃木 298.0 小山 213.5</p>
文教施設	3,156,355千円																						
農林水産業施設	18,665,738千円																						
公共土木施設	41,347,304千円																						
福祉・医療施設等	292,300千円																						
農産被害	4,117,448千円																						
林産被害	6,680千円																						
畜産被害	22,315千円																						
水産被害	5,100千円																						
その他	948,433千円																						
合計	68,561,673千円																						

年月日	原因 (地域)	概要	降水量 (mm) ・ 最大風速 (m/s) ・ その他
令和 3. 2. 21~3. 15 (2021 年)	林野火災 (足利市)	足利市西宮町地内両崖山山頂から南西 200 メートル付近の林野から出火(原因不明)。 林野焼失面積 約 106ha 栃木・宮城・茨城・埼玉・福島県防災ヘリ及び東京消防庁、横浜市消防局、自衛隊ヘリ、偵察・消化活動実施。	

※被害額 10 億円以上の災害、人的被害が発生した災害、若しくは社会的影響が大きかった災害を主に掲載

1-5-2 過去の主な水害・台風・竜巻等風害の概要

(1) カスリーン台風（昭和22（1947）年9月13日～9月15日）

ア 気象概況等

昭和22（1947）年9月8日マリアナ諸島の東方で発生したカスリーン台風は、発達しながら西進し、12日の朝沖の鳥島付近に達し、北へ転向した。転向後はますます発達し、紀伊半島をめざして北上した。

15日朝には衰えながら紀伊半島の南海上で北東へ進路を変え、15日夜には房総半島を縦断して本州の東海上に去った。

台風の接近に伴って、日本の南海上にあった前線が本州中部まで北上し停滞したため、内陸部の山岳地帯を中心に大雨となり、県内でも北西山岳部を中心に記録的な大雨となり、渡良瀬川が氾濫するなど大きな被害が発生した。

○総雨量	宇都宮	日光（中宮祠）	塩原	足尾
	261.7mm	470.4mm	516mm	385.1mm

イ 被害概要

人的被害 （人）	死者	行方不明者	負傷者
	361	76	549
住家被害 （棟）	倒壊	流失	浸水
	1,432	817	4,610

被害総額 8,480,000千円

(2) キティ台風（昭和24（1949）年8月30日～9月1日）

ア 気象概況等

昭和24（1949）年8月に関東地方を襲った台風9号（キティ台風）は、31日の19時過ぎに伊豆半島に上陸、時速50kmで北上し、群馬県中央部を通り日本海に抜けた。

30日から9月1日にかけての各地での総雨量は、日光中宮祠626.6mm、足尾446.1mm、塩原425.6mm、五十里389.2mmと北西山岳部を中心に豪雨となった。風は、台風が上陸する頃までは東風であったが、中心が近づくにつれて南風に変わり、宇都宮では8月31日23時27分に23.9m/sの南南東の風（10分間平均）を記録した。

イ 被害概要

人的被害 （人）	死者		行方不明者		負傷者
	12		—		37
住家被害 （棟）	全壊	半壊	流失	床上浸水	床下浸水
	248	2,318	28	722	1,493

被害総額 4,509,083千円

(3) 台風第26号（昭和41（1966）年9月24日）

ア 気象概況等

昭和41（1966）年9月22日にサイパン島の北東の海上で発生した台風第26号は、非常に速い速度で北上し、25日0時過ぎ静岡県に上陸し、同日9時には三陸沖に抜けて温帯低気圧に変わった。

台風がくる前から前線の影響で雨が降っていた東海や関東地方では、台風が前線を刺激して豪雨となった。本県北部の山間部では、1時間に60～100mmの大雨となり、期間降水量も200～400mmの大雨となった。風は、24日午後から強くなり、宇都宮での最大風速は25日3時30分に24m/s、最大瞬間風速は同日3時9分の43m/s（南東）であった。

イ 被害概要

人的被害 (人)	死者		重傷者		軽傷者
	1 2		1 7		3 4
住家被害 (棟)	全 壊	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
	1 6 7	5 8 8	1 1, 6 3 2	3 6 3	6, 4 9 9

被害総額 5, 4 5 1, 8 1 9千円

(4) 台風第10号及びその後の低気圧と前線による大雨<茂木水害> (昭和61(1986)年8月4日～8月5日)

ア 気象概況等

8月1日にルソン島の東で発生した台風第10号は、4日の21時に石廊崎の南約120kmの海上で温帯低気圧に変わりさらに北上を続け、5日早朝には房総半島から茨城県を縦断した。その後、進行速度が極めて遅くなり、6日朝には三陸沖で殆ど停滞状態となった。

このため、県内では4日から5日にかけて大雨となり、各地の総雨量は、高根沢332mm、茂木324mm、真岡311mm、烏山303mmに達し、河川が相次いで警戒水位を超え、田川、小貝川、五行川等の利根川水系、那珂川水系では警戒水位を大幅に上回る出水と堤防の決壊、氾濫が各地でおきた。特に、茂木町を流れる逆川では警戒水位を2m以上も上回り、茂木町の市街地が水没するなど県南東部を中心に大災害となった。

イ 被害概要<災害対策本部設置 - 県及び17市町村、災害救助法適用 - 3市町村>

人的被害 (人)	死者		重傷者		軽傷者
	6		7		5 9
住家被害 (棟)	全 壊	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
	3 7	1 0 0	8 3	1, 8 4 9	7, 9 6 5

り災者 1, 9 2 9世帯7, 3 9 9人 被害総額 5 1, 9 7 6, 7 9 9千円

(5) 台風第19号及び竜巻 (平成2(1990)年9月19日～9月20日)

ア 気象概況等

大型で強い台風第19号は、19日20時過ぎに和歌山県白浜町の南に上陸後、新潟県長岡市付近を通過し、20日12時には岩手県宮古市の東海上に抜けた。

県内は、19日19時頃から雷雨となり、22時20分頃壬生町で竜巻が発生し、壬生町から宇都宮市南西部にかけて軽傷者や住家等の被害がでた。

イ 被害概要<壬生町災害対策本部設置、5世帯13人に対して避難勧告>

人的被害 (人)	死者		重傷者		軽傷者
	—		—		2 5
住家被害 (棟)	全 壊	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
	3 0	3 7	3 4 3	—	1 6

り災者 6 7世帯2 2 7人 被害総額 1, 7 4 1, 2 7 5千円

(6) 平成10(1998)年8月末豪雨<那須水害> (平成10(1998)年8月26日～8月31日)

ア 気象概況等

平成10(1998)年8月26日から31日にかけて、前線が日本付近に停滞し、台風第4号が日本の南海上をゆっくりと北上した。この期間、台風の影響も加わり前線に向かって暖かく湿った空気が南から流入して前線の活動が活発となり、北日本や東日本を中心に雨が断続的に続き、北日本の太平洋側から関東地方にかけて記録的な大雨となった。

那須町では26日から5日間連続して130mm以上の日降水量を観測し、総降水量が1,254mmに達した。特に、27日には、1時間降水量90mm（1時～2時）、3時間降水量205mm（0時～3時）、日降水量607mmの豪雨を記録した。

○総雨量	那須	八方が原	黒磯	大田原	塩谷	今市	鹿沼	宇都宮
	1,254mm	931mm	689mm	578mm	567mm	552mm	398mm	268mm

イ 被害概要〈災害対策本部設置 - 県及び17市町村、災害救助法適用 - 4市町村〉

人的被害 (人)	死者		行方不明者		軽傷者	
	5		2		19	
住家被害 (棟)	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	
	45	50	34	486	2,362	

り災者 493世帯1,779人 被害総額 94,530,109千円

(7) 平成19(2007)年台風第9号(平成19(2007)年9月5日～9月7日)

ア 気象概況等

平成19(2007)年9月7日に小田原市付近に上陸した台風第9号は、東経140度の本土にかなり近い地点で最盛期勢力に発達し、上陸後も自転車並みの遅い進行速度で東日本を縦断したため、台風の影響を受けた地域は長時間暴風雨にさらされ被害が拡大した。

奥日光中禅寺湖畔では、9月5日13時から8日15時の累計降水量は540mm日光市足尾では473mmを記録した。9月7日3時には日光市湯西川地区で、地域に通じる道路の土砂崩落と路肩崩落により住民及び観光客(569名)が孤立状態となった。(住民273世帯、観光客を含めた人数は1,420名)また川俣地区では、雨量規制による道路の通行止めにより、約120名(うち観光客37名)、奥鬼怒地区でも土砂に崩落により観光客41名が孤立状態となった。

イ 被害概要〈災害対策本部設置 - 県及び日光市〉

人的被害 (人)	死者		行方不明者		軽傷者	
	—		—		9	
住家被害 (棟)	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	
	—	—	1	2	2	

被害総額 2,399,886千円

(8) 平成23(2011)年台風第15号(平成23(2011)年9月21日～9月22日)

ア 気象概況等

平成23(2011)年9月21日14時頃静岡県浜松付近に上陸した台風15号は、東海地方から関東地方を足早に縦断し、19時頃本県を通過して北東に進み、福島県沖に抜けた。この影響により西日本から北日本にかけての広い範囲で記録的な大雨や暴風となり、住家損壊、土砂災害、浸水害等が発生するなど甚大な被害が発生した。

本県では19日から断続的に雨となり、台風本体の雨雲がかかった21日には雨量が多くなり、那須で268mmを記録するなど7観測地点で日降水量を更新した。

イ 被害概要〈災害対策本部設置 - 栃木市、鹿沼市、さくら市、上三川町〉

人的被害 (人)	死者		行方不明者		軽傷者	
	—		—		1	
住家被害 (棟)	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	
	1	—	2	48	199	

被害総額 6,016,974千円

参考：○田沼町土砂崩れ(昭和55(1980)年3月23日)

田沼町（現佐野市）で鉱山廃土石堆積場から土砂流出

（当時の新聞記事には、前日の降雪による地盤の緩みが原因の一つとなった可能性があるとの記載有り。但し、気象状況との関連の詳細は不明）

・被害概要

人的被害 (人)	死者		行方不明者		軽傷者	
	5		—		1	
住家被害 (棟)	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	
	2	—	—	—	—	

り災者 2世帯6人

(9) 平成24（2013）年5月6日県東南部竜巻被害の概況

平成24（2013）年5月6日は日本上空において強い寒気が流れ込む一方で、12時には日本海に低気圧があり、東日本から東北地方の太平洋沖を中心に、この低気圧に向かって温かく湿った空気が流れ込んだ。さらに、日射の影響で地上の気温が上昇したことから、関東甲信地方は大気の状態が非常に不安定となり、発達した積乱雲が発生した。

これにより12時40分頃に発生したと推定される竜巻等の突風によって、真岡市東部から益子町、茂木町を経て茨城県常陸大宮市までの長さ約32km、幅約650mの範囲で住家や農業施設の損壊などの被害が発生した。なお平成24（2013）年9月13日現在における概要は次表のとおりである。

〈災害対策本部設置 - 真岡市・益子町・茂木町、災害救助法適用 - 3市町〉

人的被害 (人)	死者		重傷者		軽傷者	
	—		1		12	
住家被害 (棟)	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	
	13	41	419	—	—	
被害総額	約285,700千円					

(10) 平成25（2014）年9月4日県中部竜巻被害の概況

平成25（2014）年9月4日は本州付近に前線が停滞し、この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。

これにより12時20分頃から13時頃にかけて発生したと推定される竜巻等の突風によって、鹿沼市、宇都宮市、塩谷町及び矢板市で竜巻が発生し、住家や文教施設、社会福祉施設などで被害が発生した。なお平成25（2014）年9月12日現在における概要は次表のとおりである。

人的被害 (人)	死者		重傷者		軽傷者	
	—		—		3	
住家被害 (棟)	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	
	—	2	88	—	—	

(11) 平成26（2015）年2月8～9日、14～15日に発生した大雪による被害の概況

平成26（2015）年2月8日～9日、14～15日の2週に渡り低気圧の接近・通過により関東甲信越地方を中心に雪が降り続き、県内では、宇都宮市が32cm、日光市土呂部で129cm、那須で88cmと最深積雪を大幅に更新する記録的な大雪となった。

なお、被害の状況は以下のとおり。

2月8日の被害の状況

人的被害 (人)	死者		重傷者		軽傷者
	—		1		38
住家被害 (棟)	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
	—	—	—	—	—

2月14日の被害の状況

人的被害 (人)	死者		重傷者		軽傷者
	—		8		94
住家被害 (棟)	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
	—	2	31	—	—

2月14～15日の大雪による森林被害

被害の概況	被害市町数	被害面積	金額	備考
林地被害	12市町	1,534ha	約17億円	被害金額
林地崩壊懸念箇所	6市町	189ha	約6億円	復旧金額

※林地崩壊懸念箇所の市町村、面積数は林地被害の内数

(12) 平成27(2015)年9月関東・東北豪雨(平成27(2015)年9月9日～9月10日)

ア 気象概況等

台風18号から変わった低気圧に向かって南から流れ込む湿った風と、日本の東海上を北上していた台風17号の周辺から流れ込む湿った風の影響により、南北に連なるライン状の降水帯が次々と発生し、関東と東北で記録的な大雨となった。

このため、平成27(2015)年9月10日午前0時20分に本県初の大雨特別警報が発令され、11日6時15分の大雨特別警報解除されるまで断続的な雨が降ったほか、栃木市、鹿沼市、日光市、小山市など各地で土砂崩れや床上・床下浸水が発生するなど甚大な被害となった。

○総雨量

今市	五十里	土呂部	鹿沼	奥日光	栃木
647.5mm	627.0mm	564.0mm	526.0mm	488.5mm	428.5mm

イ 被害概要(災害対策本部設置 - 県及び19市町村、災害救助法適用 - 8市町村)

人的被害 (人)	死者		行方不明者		負傷者数
	3		0		6
住家被害 (棟)	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
	22	967	29	1,100	3,938

り災者 2,243世帯 4,127人 被害総額 32,006,347千円

出典：災害年報

(13) 令和元(2019)年東日本台風(令和元(2019)年10月12日～10月13日)

ア 気象概況等

令和元(2019)年10月12日19時頃静岡県伊豆半島付近に上陸した東日本台風は、関東地方と福島県を縦断し、13日12時に三陸沖で温帯低気圧に変わった。この影響により関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的な大雨となり甚大な被害が発生した。

このため、令和元(2019)年10月12日午後7時50分に宇都宮市ほか13市町に大雨特別警報が発令され、13日午前2時20分に大雨特別警報解除されるまで断続的な雨が降ったほか、栃木市、佐野市、鹿沼市、那須烏山市など各地で土砂崩れや床上・床下浸水が発生するなど甚大な被害となった。

イ 被害概要〈災害対策本部設置 - 県及び23市町、災害救助法適用 - 21市町〉

人的被害 (人)	死 者		行方不明者		負傷者数	
	4		0		23	
住家被害 (棟)	全 壊	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	
	83	5, 223	8, 666	2	133	

〈資料編1-5-1 過去における主な災害一覧(地震・火山を除く)〉